

競買人タル呼上ヲ受テタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ決定スルコトヲ得

第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産ノ競買人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲ケ可シ

右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十條 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ルル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス、合意ニ據リテ之ヲ撤消スル場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ均東ヲ受ケルモノトス

第六百八十一條 競落ヲ許サザル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスル上キ三限ヲ以テ爲スコトヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル競

落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ニ由リテ理由トスル事又競落決定力競落期日ヲ調書ノ旨趣ニ抵觸シタル事トシ理由トスル下キ三限ヲ以テ爲スコトヲ得

取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケラレコト無シ

第六百八十二條 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

第六百七十三條 及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所ノ之ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十四條 競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ義務ヲ免ル

第六百八十五條 第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十六條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

第六百八十七條 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレバ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシムルコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條 競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競賣ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價力最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ差餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百八十九條 共有物持分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其強制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持

分ニ付キ之ヲ定ム可シ

第六百九十條 競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ

左ノモノヲ賣却代金トス

第一 代金

第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ

利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂
マテノ利息
代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ
最高競賣價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ
算入ス

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執
行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊
問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金、各債權者ノ債權
ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ
記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本
ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ
其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表
ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以
テ數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラ
ズ

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ
債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議
ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權
者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス
第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申
立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂テ命スル
コトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定
ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス
可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一 入札人ノ氏名及ヒ住所
第二 不動産ノ表示

第三 入札價額
第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ
之ヲ期讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ
追加ノ入札ヲ爲サシメ最高入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額
ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サ
ズ

第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百
六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求テ受ケルモ之
ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人
ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入
札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百
四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定
ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔
ヲ引受ケル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツ
ルヲ限リシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ
換ヘ債務ヲ引受ケルコトヲ得若シ債權者競落人ナルト
キハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買
入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引
受ケ可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當
ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保
證ヲ立ツ可シ

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ
競落決定ノ正本ヲ登記列事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託
ス可シ

第一 競落人ノ所有權ノ登記
第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹
消
第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ
抹消
右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔
ス可シ

第七百一條 數多ノ差押債權者ハ爲メ同時ニ爲ス可キ不
動産力債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタ
ル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提
出ス可キ證書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明
スル證書ヲ以テ足ル

第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者
カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付
キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可
キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ
爲ス可キコトヲ命ス可シ

第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不
動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲ス
コトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ
生シ及ヒ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキ
ハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百
四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五
十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動産力債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタ
ル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提
出ス可キ證書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明
スル證書ヲ以テ足ル

第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者
カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付
キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可
キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ
爲ス可キコトヲ命ス可シ

既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ
到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス

開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效
力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不
動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲ス
コトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ
生シ及ヒ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキ
ハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セズ

第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知スヘシ

第七百十一條 管理人ハ裁判所ノ委任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

第七百十二條 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與テ可キ報酬ヲ定メ且管理人ヲ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

第七百十三條 第三者ノ不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定

トキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス
若シ管理權行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得
裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

第七百十七條 船舶ニ對スル強制執行
產ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十八條 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶力差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百十九條 船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條 強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ

第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ扣除シタル後別段ノ手續ヲ要セズシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作リ其ノ配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ヲ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ヲ申立テ爲スコトヲ得

右期間内ニ異議ヲ申立テキキタルモトモト看做ス

異議ヲ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁列ス可シ若シ異議ヲ申立テキキタルモトモト異議ヲ免結スルコトヲ得

第七百十六條 強制管理ヲ取消ハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者ノ不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタル

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ヲ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ズ

若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七百二十二條 船長ニ對シテ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トシテ之ニ對シテ異議ヲ申立テ可シ

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トシテ此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

第七百二十三條 船舶力差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存

セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ
第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ケ可シ
第七百二十五條 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ揭示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ
第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百三十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所ノ管轄ス
第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添附ス可シ
 差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ
 差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス
第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス
第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行
第七百三十條 債權者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ
第七百三十一條 債權者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ
 此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
 強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ
 債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ
 債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル後其代金ヲ供託ス可シ
第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ヲ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ
第七百三十三條 民法第四百十四條第三項及ヒ第三項ノ

場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス
 債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アラントテ申立ツルコトヲ得但し其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス
第七百三十四條 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス
第七百三十五條 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但し決定前債務者ヲ審訊ス可シ
第七百三十六條 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス
第四章 假差押及ヒ假處分
第七百三十七條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對ス

ル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得
 假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得
第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得
第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所ノ管轄ス
第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ケ可シ
 第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額
 第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示
 第三 請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ
第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
 請求又ハ假差押ノ理由ヲ説明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得
 及ヒ請求及ヒ假差押ノ理由ヲ説明シタルトキト雖モ裁判

所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得
保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何
ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記
載ス可シ

第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論
ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場
合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止
スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコ
トヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可
シ

第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立
ツルコトヲ得
此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由
ヲ開示ス可シ

第七百四十五條 異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セシ
メ裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一部分
ノ變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ之
ヲ保證ヲ立ツ可キコトヲ條件ヲ附シテ之ヲ言渡ス可ト

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲
スコトヲ得

第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同
一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

管轄執行裁判所トス
債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ
之ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲ス可シ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及
ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假
差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其
貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判
所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ
執達吏ニ命スルコトヲ得

第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押
ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合
ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ
供託ス可シ

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ
當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス
裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲
メ必要ナル處分ヲ爲ス

第七百四十六條 本案ノ未タ繫屬セザルトキハ假差押裁
判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當
定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可
シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決
ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情
ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定
ム可キ保證ヲ立テシトシテ提供ヲ爲シタルトキハ假差押
ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假
差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ
本案ノ裁判所之ヲ爲ス

第七百四十八條 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關ス
ル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ヲ生スルコト
ニ限ラズ

第七百四十九條 假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後
債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ執行交
付ノ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ
送達シタル日ヨリ四日ノ期間ヲ徒過スルコトヲ得
スコトヲ許サズ

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託
シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス
可シ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要
ナル金額ヲ債權者カ豫納セザルトキモ亦執行裁判所ハ
假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ
得

第七百五十五條 係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ
因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之
ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差
押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ
於テ差異ヲ生スルコトハ此限ニ在ラス

第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ
管轄ス
右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之
ヲ爲スコトヲ得

第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達
スルニ必要ナル處分ヲ定ム
假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ
之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ

得
假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁
シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シ
テ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ
第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テ
シメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得
第七百六十條 假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位
ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼
續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナ
ル強暴ヲ防ケ爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トス
ルトキニ限ル
第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地
ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論
ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ
期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得
此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタ
ル假處分ヲ取消ス可シ
右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
第七百六十二條 本章ノ規定ニ於テ本案ノ管轄裁判所
ハ第一審裁判所トス但本案力控訴審ニ繫屬スルトキニ
限リ控訴裁判所トス
第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セザ
ルモノニ限リ裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコト

トヲ得
第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メ
ノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ
生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲ス
コトヲ得
公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス
第七百六十五條 公示催告ハ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ
之ヲ爲スコトヲ得
此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコ
トヲ得
申立ヲ許スコキトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スコク其
公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ
第一 申立人ノ表示
第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可
キコトノ催告
第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示
第四 公示催告期日ノ指定
第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示
板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他
法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第五百五十七條第三
項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス
第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル

日ト公示催告日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケ
ザル限リ少クモ二ヶ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要
ス
第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權
判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタ
ルモノト看做ス
第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス
右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲スコキ旨ヲ命スルコトヲ
得
除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタ
ル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權
利ヲ争フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出
テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ
中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可
シ
第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルト
キハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告
期日ヨリ六ヶ月ノ期間内ニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス
第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ
定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス
第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官
報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ
得ス
除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴
テ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不
服ヲ申立タルコトヲ得
第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サル
トキ
第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定
メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ
第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ
第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ
除斥セラレタルトキ
第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラズ判決
ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ願ミサルトキ
第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於
テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ
第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ
之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知りタル日ヲ
以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル
不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ
其理由ヲ知ラサル場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由
ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル
除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年ヲ滿了後ハ此

訴ヲ起スコトヲ得ス。モ公告ヲ爲スルハ、
第七百七十六條 裁判所ハ、第三百三條ノ條件ノ存セザル
 トキト雖モ數箇ノ公示催告ヲ併合テ命スルコトヲ得
第七百七十七條 盜取セザル又ハ紛失若クハ滅失シタル
 手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキモノヲ定メタル證書
 ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條
 ノ特別規定ヲ適用ス。モ公示催告手續ニ出願セザル
 此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其
 法律中ニ特別規定ヲ設ケザル限リハ之ヲ適用ス。
第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘ
 ク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公
 示催告手續ヲ申立ツル權アリ。理由ハモテ主權ニ依リ
 此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者
 此申立ヲ爲ス權アリ。理由ハモテ主權ニ依リ
第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行
 地ノ裁判所之ヲ管轄ス。若シ證書ニ其履行地ヲ表示セザ
 ルトキハ發行人ノ普通裁判所ノ所在地ノ裁判所之ヲ
 管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人ノ發行ノ當時普通裁
 判所ノ所在地ノ裁判所之ヲ管轄ス。理由ハモテ主權ニ依
 證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタル事
 キハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス。
第七百八十條 申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲
 ス可シ。理由ハモテ主權ニ依リ

第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣
 及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示
 スルコトヲ得ル。理由ハモテ主權ニ依リ
 第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ
 申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ説明スルコ
 トヲ得ル。理由ハモテ主權ニ依リ
第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利
 ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所
 持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲ス
 可キ旨ヲ戒示ス可シ。
第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ掲
 シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シ
 テ之ヲ爲ス。
 公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニ
 モ亦此公告ヲ揭示ス可シ。
第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル
 日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六個月ノ時間
 ヲ存スルコトヲ要ス。理由ハモテ主權ニ依リ
第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣
 言ス可シ。理由ハモテ主權ニ依リ
 除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公
 告ス可シ。
 不服申立又ハ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタル

トキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス
 可シ。
第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證
 書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因ル權利
 ヲ主張スルコトヲ得。理由ハモテ主權ニ依リ
第八編 仲裁手續
第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭ノ判斷
 ヲ爲サシムル合意ハ當事者力係爭物ニ付キ和解ヲ爲ス
 權利アル場合ニ限リ其效力ヲ有ス。
第七百八十七條 將來ノ爭ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權
 利關係及ヒ其關係ヨリ生スル爭ニ關セザルトキハ其效
 力ヲ有セズ。
第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定テ
 無キトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス。
第七百八十九條 當事者ノ雙方力仲裁人ヲ選定スル權利
 ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手
 方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同
 手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ。理由ハモテ主權ニ依リ
 右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲
 ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス。
第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通
 知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラ
 ズ。理由ハモテ主權ニ依リ

第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲
 裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務
 ノ引受若クハ履行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シ
 タル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ
 仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁
 判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定
 ス可シ。理由ハモテ主權ニ依リ
第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アリト同
 一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得。
 此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責
 務ノ履行ヲ不當ニ遅延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコト
 ヲ得。
 無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者
 ハ之ヲ忌避スルコトヲ得。理由ハモテ主權ニ依リ
第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場
 合ニ爲メ豫定ヲ爲サザルシトキハ其效力ヲ失フ。
 第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁
 人ハ中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺
 シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタ
 マル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ遅延シタ
 ルトキ。
 第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ
 通知シタルトキ。理由ハモテ主權ニ依リ

民事訴訟法ニ依リ再審ヲ求ムル訴ヲ爲スコトヲ得但民事訴訟法實施前ニ再審ノ條件生シタルトキハ其條件ノ生シタル日ヨリ再審ノ期間ヲ起算ス

第五條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ強制執行ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス但シ既ニ身代限ノ揭示ヲ爲シ又ハ公賣ニ著手シタル事件ハ其手續ノ終了マテハ舊法ニ從フ

第六條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ執行命令ヲ得サル場合ニ於テ民事訴訟法第四百九十九條ノ規定ニ從ヒ證明書ヲ要スル者ハ其訴訟記録ノ存在スル裁判所ニ之ヲ求ムルコトヲ得

第七條 民事訴訟法實施前既ニ勸解ヲ出願シ未タ完結ニ至ラサル事件ハ民事訴訟法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所繼續シテ之ヲ完結スルコトヲ得

第八條 民事訴訟法ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第九條 民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ當分ノ内刑法ノ親屬例ニ依ル

第十條 婚姻離婚及養子ノ縁組離縁ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ慣例アルモノハ當分ノ内其慣例ニ從フ

第十一條 明治八年第六號布告ハ當分ノ内其效力ヲ有スルモノトス(八年第六號布告ハ民法施行第九條ヲ以テ

第十二條 削除

●民事訴訟費用法 (明治二十二年八月十六日) 法律第六十四號

改正 明治二十二年第三號、大正一〇年第六七號
 朕民事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スルキコトヲ命ス

民事訴訟費用法

第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス

第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金一圓トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

第四條 民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル

第五條 執達吏ノ手数料及ヒ立替金ハ執達吏手数料規則ノ規定ニ從フ

第六條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル

第七條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依ル

第八條 民事訴訟法第二百七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ其報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第九條 當事者及ヒ證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ二圓以内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十條 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ三圓乃至十圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十一條 鑑定又ハ通辯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第十二條 當事者、證人、鑑定人及ヒ通事ノ止宿料ハ一日五圓以内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十三條 當事者、證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等以下ノ汽船貨又ハ船賃ニシテ裁判所ノ相當ト認ムルモノニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎ニ五錢其他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但一海里未滿又ハ一里未滿ノ端

數ハ之ヲ切捨ツ

第十四條 判事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地臨檢ヲ爲スニ付テハ旅費及ヒ止宿料ハ證人ニ準ス

第十五條 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十六條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關ル費用ハ執達吏ノ手数料規則ニ定メタルモノヲ除ク外前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス

第十七條 強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

●民事訴訟用印紙法 (明治二十三年八月十六日) 法律第六十五號

改正 明治四三年第一五號
 朕民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スルキコトヲ命ス

民事訴訟用印紙法

第一條 民事訴訟書類ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用スルニ依リ合

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ハ訴訟物ノ價額ニ應ジ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

八 訴訟物ノ價額金五圓マテハ二十五錢ニ滿スルハ
 同 十圓マテハ四十錢ニ滿スルハ
 同 二十圓マテハ八十錢ニ滿スルハ
 同 五十圓マテハ一百五十錢ニ滿スルハ
 同 七十五圓マテハ二百二十五錢ニ滿スルハ
 同 百圓マテハ三百五十錢ニ滿スルハ
 同 二百五十圓マテハ六百二十五錢ニ滿スルハ
 同 五百圓マテハ一千二百五十錢ニ滿スルハ
 同 七百五十圓マテハ一千七百五十錢ニ滿スルハ
 同 千圓マテハ二千五百錢ニ滿スルハ
 同 二千五百圓マテハ三千七百五十錢ニ滿スルハ
 同 五千圓マテハ五千二百五十錢ニ滿スルハ
 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ三圓ヲ加フ
 第三條 訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第
 六條ノ規定ニ從フ
 第三條 財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物
 財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財
 產權上ノ請求ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟
 物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ
 第四條 本訴ト反訴ト其目的力同一ノ訴訟物ナルトキハ
 反訴ノ印紙ヲ貼用スルヲ要セス
 第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額ヲ告狀ニ

ハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ
 第六條 支拂命令ノ申請ニシテ訴訟物ノ價額十圓以下
 於テハ第二條ニ依リ第一審ノ訴訟ニ貼用ス可キ印紙
 金額ノ半額ノ印紙ヲ貼用ス可シ
 第六條又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢
 額又ハ請求ノ價額二十圓超過スル場合ニ於テハ四十錢ノ印
 紙ヲ貼用ス可シ
 一 申立
 二 申立
 三 申立
 四 申立
 五 申立
 六 申立
 七 申立
 八 申立
 九 申立
 十 申立
 十一 申立
 十二 申立

十三 民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四
 條ノ申立
 第六條 左ニ掲ケル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價
 額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ五十錢
 ノ印紙ヲ貼用ス可シ
 一 被告
 二 原告
 三 證人
 四 假差押又ハ假處分ノ申請
 五 判決送達ノ申立
 六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但シ通以上ヲ求ム
 ルトキハ一通毎ニ印紙ヲ貼用ス可シ
 第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十
 一條第三項及ヒ第三百九十九條ノ規定ニ依リ訴力區裁判
 所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ
 貼用ス可シ
 民事訴訟法第三百九十九條ノ規定ニ依リ訴力區裁判所ニ
 繫屬スル場合又ハ第三百九十九條第二項ノ規定ニ依リ
 地方裁判所ニ訴ヲ起ス場合ニ於テハ第六條ニ依リ貼用
 シタル印紙ノ額ハ訴訟ニ付キ貼用ス可キ印紙ノ額ニ之
 ヲ通算ス可シ
 第八條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所

第九條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所
 第十條 答辯書其他前條ニ掲ケル申立又ハ申請ニシ
 テ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ
 於テハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ
 第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法
 律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其効力キ
 ヲ失フ
 第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布
 達ニ依ル
 第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發
 賣セシム
 第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二
 十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒
 收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下
 ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス
 第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再
 犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用キス
 第十六條 非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ

價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ但第六條ノ三ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用スルニシテ左ニ掲タル申立及ハ申請ニシテ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ五十圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 裁判上代位ノ申請
 二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立及ハ不動産登記ニ關スル抗
 三 競賣法ニ依ル競賣及ハ不動産登記ニ關スル抗
 四 非訟事件ニ關スル申立及ハ申請ニシテ請求ノ價額ナキ
 五 ノハ其請求ノ價額二十圓以下ノモノト看做スルモ未
 六 第十一條及ヒ第十二條ノ規定ハ之ヲ非訟事件ニ準用
 七 ス

●商事非訟事件印紙法 (明治二十三年八月十六日) 法律第六十六號

改正 明治四三年第一六號、昭和二年第三二號
 商事非訟事件印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法
 律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 商事非訟事件印紙法
 一 商事非訟事件ニ關ル場合ヲ除外非訟事件ニ付裁
 二 判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ

從テ其差出ス書類ニ民事訴訟用印紙ヲ貼用ス可シ但口
 述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可
 三 二條 左ニ掲タル申立及ハ申請ニシテ請求ノ價額二十圓以下
 四 三條 抗告及ハ假差押ノ申立及ハ破産宣告ノ申立
 五 四條 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立
 六 五條 支拂猶豫ノ申立
 七 六條 左ニ掲タル申立及ハ申請ニシテ請求ノ價額二十圓以下
 八 七條 抗告ニ對スル答辯
 九 八條 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於
 十 九條 テ特ニ規定セザル非訟事件ニ係ルモノニ於
 十一 十條 第四條乃至第七條ノ削除
 十二 十一條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟
 十三 十二條 法第一編第二章第五節ノ規定ヲ準用ス
 十四 十三條 民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限
 十五 十四條 之ヲ準用ス

●人事訴訟手續法 (明治三十一年六月二十一日) 法律第六十七號
 人事訴訟手續法ヲ裁可シ茲ニ
 一 之ヲ公布セシム
 二 人事訴訟手續法ニ關ル場合ヲ除外非訟事件ニ付裁
 三 判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

第一條 婚姻ノ無効若クハ取消、離婚又ハ夫婦ノ同居ヲ
 目的トスル訴ハ夫方普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡
 時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但
 縁組事件ニ附帶シテ婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス
 場合ハ此限ニ在ラス

第二條 前項ノ普通裁判籍ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住
 所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ居所
 ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル

第三條 最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ司法
 官令ヲ以テ指定シタル地ヲ住所トス

第四條 夫婦ノ一方力提起スル婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴
 ニ於テハ其配偶者ヲ以テ相手方トス

第五條 第三者力提起スル前項ノ訴ニ於テハ夫婦ヲ以テ相手方
 トシ夫婦ノ一方力死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手
 方トス

第六條 前二項ノ規定ニ依リテ相手方トスヘキ者力死亡シタル
 後ハ檢事ヲ以テ相手方トス

第七條 檢事力當事者ト爲リタル後相手方力死亡シタルトキハ
 本案ノ訴訟手續受繼ノ爲メ裁判所ハ辯護士ヲ承繼人ト
 シテ選定スルコトヲ要ス

第八條 前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ辯護士ニ報酬ヲ與ヘシム

人事訴訟手續法 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

スル爲メ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得
 第七條 婚姻ノ無効ノ訴、其取消ノ訴、離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合シ又ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得
 他ノ訴ハ之ヲ前項ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得但扶養ノ請求、訴ノ原因タル事實ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求及ヒ民法ノ規定ニ依リ婚姻事件ニ附帶シテ爲スコトヲ得ル縁組ノ取消又ハ離婚ノ請求ハ此限ニ在ラス
 第八條 婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ、之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得
 第九條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ其事由ヲ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
 被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
 第十條 民事訴訟法第百一十一條第二項、第三項及ヒ第三百三十五條乃至第三百四十一條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セシメ同法第二百二十九條中請求ノ認諾ニ關スル規定亦同シ
 裁判上ノ自由ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セ

民事訴訟法第二百十條ノ規定ハ婚姻事件ノ控訴審ニ之ヲ適用セス
 第十一條 婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ更ニ其期日ヲ定ムルコトヲ要ス但被告カ公示送達ニ依リテ呼出テ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス
 前項ノ場合ヲ除ク外被告カ期日ニ出頭セサルトキト雖モ辯論ヲ命ジ且判決ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ民事訴訟法第二百四十八條及ヒ第四百二十九條ノ規定ヲ適用セス
 第十二條 裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ自身出頭ヲ命ジ當事者又ハ檢事カ提出シタル事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得
 當事者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得
 出頭セサル當事者ニハ出頭セサル證人ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス
 第十三條 和譜ノ調フヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限り一年ヲ超エサル期間離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得

第十四條 裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其實事及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ
 第十五條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ
 第十六條 扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス
 第十七條 檢事カ敗訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス
 第十八條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ有ス
 民法第七百六十六條ノ規定ニ違反シタルコトヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ請求シタル場合ニ於テ其訴ヲ棄却シタル判決ハ當事者ノ前配偶者ニ對シテハ其者カ訴訟ニ參加シタルトキニ限り其效力ヲ有ス
 第十九條 檢事カ提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ限リ後四條ノ規定ヲ適用ス
 第二十條 檢事カ訴ヲ提起スルトキハ夫婦ヲ以テ相手方トス
 第二十一條 訴ノ變更若クハ併合又ハ反訴ノ提起ハ檢事カ提起スルコトヲ得ル訴ナルトキニ限り之ヲ爲スコト

得ル
 訴ノ事由ノ變更又ハ併合ハ檢事カ提出スルコトヲ得ル事由ナルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
 第二十二條 檢事ハ他ノ者カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ進行シ又ハ上訴ヲ爲スコトヲ得但夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ此限ニ在ラス
 第二十三條 檢事カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ當事者ノ全員ヲ以テ相手方トス
 當事者ノ一人カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ他ノ當事者及ヒ當事者タリシ檢事ヲ以テ相手方トス
 第二十四條 養子縁組ノ無効若クハ取消又ハ離婚ヲ目的トスル訴ハ養親カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但婚姻事件ニ附帶シテ縁組ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス
 第二十五條 養親カ禁治產者ナルトキハ第四條第一項ノ規定ヲ準用ス
 養子カ禁治產者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戸主ハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
 第二十六條 第一條第二項、第三項、第二條、第三條及ヒ第五條乃至第十八條ノ規定ハ養子縁組事件ニ之ヲ準用ス
 第二章 親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ同居事件ニ關スル手續

第二十七條 子ノ否認、認知、其認知ノ無効若クハ取消又ハ民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二十八條 夫カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ提起セスシテ民法第八百二十五條ノ期間内ニ死亡シタルトキハ其子ノ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ニ限リ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第三十條 父ヲ定ムルコトヲ要スルコトヲ得

第三十一條 親權若クハ財産管理權ノ喪失又ハ失權ノ取

消テ目的トスル訴ハ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十二條 失權ノ取消テ目的トスル訴ニ付テハ現ニ親權若クハ管理權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ相手方トス

第三十三條 推定家督相續人若クハ推定遺產相續人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消テ目的トスル訴ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十四條 廢除ノ取消テ目的トスル訴ニ付テハ廢除ニ因リテ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トス

第三十五條 隠居ノ無効又ハ取消テ目的トスル訴ハ隠居者カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十六條 隠居者カ提起スル隠居ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ家督相續人ヲ以テ相手方トス

第三十七條 檢事ハ本章ニ掲ケタル訴ニ付キ事實及ヒ證

據方法ヲ提出スルコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セザル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其實事及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第三十八條 本章ニ掲ケタル訴ニ付キ原告ノ申立ニ相當スル言渡ヲ爲シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第三十九條 第一條第二項、第三項、第三條、第五條、第七條第三項、第十條乃至第十二條及ヒ第十六條乃至第十八條ノ規定ハ本章ニ掲ケタル訴ニ之ヲ準用ス

第七條第一項、第八條及ヒ第九條ノ規定ハ第三十一條、第三十三條及ヒ第三十五條ニ掲ケタル訴、子ノ認知ノ無効ノ訴及ヒ其取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二十一條乃至第二十三條ノ規定ハ親權又ハ財産管理權ノ喪失テ目的トスル訴及ヒ隠居ノ取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第三條第三項乃至第五項ノ規定ハ第三十條第二項、第三項、第三十四條及ヒ第三十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章 禁治産及準禁治産ニ關スル手續

第四十條 禁治産ノ申立ハ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第十條第二項ノ規定ハ前項ノ裁判籍ニ之ヲ準用ス

第四十一條 妻カ夫ノ禁治産ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

第四十二條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 申立ニハ其原因タル事實及ヒ證據方法ヲ表示スヘシ

第四十四條 禁治産ノ手續ハ之ヲ公行セス

第四十五條 檢事ハ他ノ者カ禁治産ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ其手續ヲ追行シ且期日ニ立會テテ意見ヲ述ブルコトヲ得

第四十六條 裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ヲ斟酌シ職權ヲ以テ心神ノ狀況ニ關スル探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

民事訴訟法第二章第六節及ヒ第七節ノ規定ハ證人及ヒ鑑定人ノ訊問ニ之ヲ準用ス

第四十七條 裁判所ハ鑑定人ノ立會ヲ以テ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者ヲ訊問スヘシ但其實事及ヒ證據方法ヲ斟酌シ職權ヲ以テ心神ノ狀況ニ關スル探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

前項ノ訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 禁治産ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ付キ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 禁治産ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但
第五十條 裁判所ハ禁治産ノ宣告ヲ爲スニ至ルマテ其宣告ヲ受クヘキ者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得禁治産ノ宣告ヲ爲シタル後其處分ヲ必要ト認ムルトキ亦同シ

第五十一條 禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ檢事ニ送達スヘシ

禁治産ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事及ヒ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ニ之ヲ送達スヘシ

第五十二條 禁治産ヲ宣告シタル決定ハ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者力其送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事力送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

第五十三條 裁判所ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ送達シタルトキハ直チニ之ヲ公告スヘシ

第五十四條 申立人及ヒ檢事ハ禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

ル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 乃至**第四十六條**ノ規定ハ抗告裁判所ノ手續ニ之ヲ準用ス

第五十五條 民法ノ規定ニ依リテ禁治産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ其宣告ニ對シ一ヶ月内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間ハ禁治産者ニ對シテハ禁治産ノ宣告ヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算シ其他ノ者ニ對シテハ決定力効力ヲ生シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第五十六條 前條第一項ノ訴ハ禁治産ノ宣告ヲ爲シタル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第五十七條 第五十五條第一項ノ訴ニ於テハ禁治産ノ申立人ヲ以テ相手方トス

禁治産ノ申立人力死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トシ檢事力提起スル前項ノ訴ニ於テハ禁治産者ノ法定代理人ヲ以テ相手方トス

第五十八條 第五十五條第一項ノ訴ニハ他ノ訴ヲ併合シ又ハ之ニ對シテ反訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條 第二條第四項、第五項、第三條、第五條、第十條、第十一條、第十七條、第四十七條及ヒ**第四十八條**ノ規定ハ第五十五條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十條 裁判所力第五十五條第一項ノ訴ヲ理由アリト

認ムルトキハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ判決ノ確定ニ至ルマテ禁治産者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第六十一條 禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ後見人力爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セス

禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ禁治産者力爲シタル行爲ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ニ基キテ之ヲ取消スコトヲ得ス

第六十二條 禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

前項ノ判決力確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ

第六十三條 禁治産ノ原因止ミタルコトヲ理由トシテ其宣告ノ取消ヲ求ムル申立ハ禁治産者力普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ**第四十二條**乃至**第四十八條**ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條 前條第一項ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告ノ取消アリタル場合ニ於テハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事力申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第六十五條 禁治産ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達スヘシ

禁治産ヲ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢事及ヒ禁治産者ニ送達スヘシ**第六十二條**第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス

檢事ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十六條 禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第六十七條 乃至**第六十條**ノ規定ハ第一項及ヒ**第六十二條**ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十七條 準禁治産ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス

第四十三條、**第四十七條**及ヒ**第四十八條**ノ規定ハ浪費者ニ之ヲ適用セス

第三條第二項乃至**第四項**ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ適用セス

第六十八條 準禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ民法**第十二條**第二項ノ規定ニ依リテ爲シタル宣告ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得此場合ニ於テハ準禁治産ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス

第六十九條 本章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ノ方法ハ

司法大臣之ヲ定ム

第四十條 失踪ニ關スル手續

第七十條 失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七百六十五條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七十二條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其届出ヲ爲ササルトキハ失踪ノ宣告ヲ受ク

第六十二條 不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコト

第七十三條 不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示スルヲ以テ足ル

第七十四條 檢事ハ失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ニ付キ意見ヲ述ベ且審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコト

前項ノ場合ニ於テハ公示催告期間ハ其公告ノ日ヨリ二个月以上ナルヲ以テ足ル

第七十五條 不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示スルヲ以テ足ル

事訴訟法第七百七十五條ノ規定ヲ適用セス

附則

第八十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十二條 明治二十三年法律第四百號其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第八十三條 本法施行前ニ提起シタル訴ニシテ其判決確定セサルモノニハ本法ノ規定ヲ適用ス

●人事訴訟手續法第三章ノ住所在地指定

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ東京市ヲ以テ住所トス

●人事訴訟手續法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方

法 (明治三十一年七月八日) 司法省令第九號

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ官報及ヒ法人ノ登記ノ公告ニ付キ選定シタル新聞紙上ニ少クモ一回掲載シテ之ヲ爲スヘシ但上級裁判所ノ裁判ノ公告ハ其所在地ノ區裁判所力選定シタル新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ
前項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲スヘシ

人事訴訟手續法第一條第三項ノ住所在地指定 同法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方法

第四十二條 第二項、第四十五條第二項及ヒ第四十六條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七十五條 各利害關係人ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ヘリ又ハ申立人ニ代ハリテ手續ヲ履行スルコトヲ得

第七十六條 不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其事實ヲ認メサルトキハ判決ノ確定ニ至ルマテ公示催告手續ヲ中止スヘシ

第七十七條 失踪ノ宣告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續財産ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス

第七十八條 失踪ノ宣告ノ判決ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ハ利害關係人ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ訴ニ付テハ失踪ノ宣告ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ第二條第四項及ヒ第五項ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 數個ノ不服申立ノ訴アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第五十條ノ規定ヲ適用ス

第八十條 民法第三十二條ニ依ル失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テ民

非訟事件手續法目次

第一章 總則	三六
第二章 破産財團	三五
第三章 破産債權	三六
第四章 財團債權	三九
第五章 法律行為ニ關スル破産ノ效力	三九
第六章 否認權	四二
第七章 取戻權	四四
第八章 別除權	四五
第九章 相殺權	四六
第二編 手續規定	四六
第一章 總則	四六
第二章 破産宣告	四八
第三章 破産管財人	五二
第四章 監査委員	五三
第五章 債權者集會	五三
第六章 破産財團ノ管理及及換價	五四
第七章 破産債權ノ届出及ヒ調査	五九
第八章 配當	六三
第九章 強制和議	六六
第十章 破産廢止	七二

第十一章 小破産

第三編 復権	七三
第四編 罰則	七四
附則	七五
○和議法(大正二、四、二五、七二號)	七三
第一章 總則	七六
第二章 和議ノ開始	七六
第三章 和議債權及ヒ其ノ届出	七八
第四章 債權者集會	八〇
第五章 和議ノ認否	八一
第六章 和議ノ廢止	八二
第七章 讓歩及ヒ和議ノ取消	八三
第八章 罰則	八三
附則	八三

●非訟事件手續法

(明治三十一年六月二十一日) 法律第十號

改正 明治三十二年第一九號、三十四年第七四號、大正二年第一九號、三十四年第六三號、第七號、昭和二年第三三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル非訟事件手續法ヲ裁可シ茲之ヲ公布セシム

非訟事件手續法

第一條 總則

第一條 裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本法其

第二條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

第三條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

第四條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

第五條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

第六條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

第七條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

第八條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

第九條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

第十條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

非訟事件手續法 總則

立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ適當ヲ認ムル他ノ管轄裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第四條 管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第一號ニ掲ケタル場合ノ外數個ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付キ疑アルトキ之ヲ爲ス

第五條 裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第六條 事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲ以テ代理セシムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此限ニ在ラズ

第七條 民事訴訟法第六十四條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ職權ヲ以テ私署證書ニ認證ヲ受クヘキ旨ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八條 申立及ヒ陳述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第三百五十五條ノ規定ハ口頭ノ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス

第九條 申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人之署名捺印スヘシ
 一 申立人ノ姓名、住所
 二 代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其姓名、住所
 三 申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實
 四 年月日
 五 裁判所ノ表示

第十條 證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添付スヘシ
 第十條 期日、期間、疏明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第十一條 裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

第十二條 事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ執行ニ關スル行爲ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第十三條 審問ハ之ヲ公行セス但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聽ヲ許スコトヲ得

第十四條 證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限り之ヲ作ラシムヘシ

第十五條 檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

第十六條 裁判所其他ノ官廳、檢事及ヒ公吏ハ其職務上

檢事ヲ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合力生シタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第十七條 裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
 裁判ノ原本ニハ判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之署名、捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得

第十八條 裁判ノ正本及ヒ謄本ニハ書記署名、捺印シ且正本ニハ力ヲ生ス
 裁判所ノ印ヲ捺捺スヘシ

第十九條 裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス
 告知ノ方法、場所及年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

第二十條 裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十一條 申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ因ルニ非サレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十二條 即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十三條 裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ

其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得
 申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 抗告ハ特ニ定メタル場合ヲ除ク外執行停止ニ效力ヲ有セス

第二十二條 即時抗告ノ期間ハ裁判ノ告知ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十三條 民事訴訟法第七十四條乃至第七十六條ノ規定ハ即時抗告ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第二十五條 抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第四百三十五條、第四百三十六條及ヒ第四百五十三條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第二十六條 抗告ニハ前五條ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十七條 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ノ負擔トス但檢事力申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第二十七條 裁判所ハ前條ノ費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ必要ト認ムルトキハ其額ヲ確定シテ事件ノ裁判ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非サル關係人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 民事訴訟法第八十條第一項ノ規定ハ共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 費用ハ裁判ニ對シテハ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限り不服ヲ申立ツルコトヲ得

第三十一條 民事訴訟法第八十二條第一項ノ規定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三十二條 費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルコトヲ要セス

費用ハ裁判ニ對スル抗告アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 職權ヲ以テ爲ス探知、證據調、呼出、告知其他必要ナル處分ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フヘシ

第三十三條 本編ニ於ケル申立トハ申立、申請及ヒ申述ヲ謂フ

第二章 民事非訟事件

第三十四條 民法第四十條ニ定メタル事件ハ法人ノ設立者カ死亡ノ時ニ有シタル住所ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十五條 假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主たる事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十六條 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條 第三百三十六條乃至第三百八條及七百七十五條乃至第七百七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス

第三十八條 不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ其住所

地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十九條 裁判所ハ管理人ヲ選任シ及ハ改任スヘキ場合ニ於テハ利害關係人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第四十條 裁判所ハ何時ニテモ其選任シタル管理人ヲ改任スルコトヲ得

第四十一條 裁判所ハ其選任シタル管理人ニ其旨ヲ届出ツヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ更ニ管理人ヲ選任スヘシ

第四十二條 管理人ノ選任又ハ改任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第四十三條 裁判所ハ其選任シタル管理人ニ財産ノ狀況ヲ報告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 民法第二十七條第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ不在者ヲ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得

第四十五條 利害關係人ハ前條ノ報告及ヒ計算ニ關スル書類ノ閲覧ヲ申請シ及ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第四十六條 民法第六百四十四條、第六百四十六條、第六百四十七條及第六百五十條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル管理人ニ之ヲ準用ス

第四十七條 封印ヲ爲シタルトキハ書記ハ直チニ調書ヲ作ルヘシ

第四十八條 封印ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之署名、捺印スヘシ

一 封印ノ命シタル裁判ノ表示

二 封印ノ手續ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事

三 申立人ノ氏名、住所

四 封印ヲ爲シタル物件、家屋又ハ倉庫

五 封印ヲ爲サリシ物件ノ概略及ヒ其事

由ハ之ヲ保管者ニ交付シテ受領證ヲ取置クヘシ

第五十一條 裁判所ハ利害關係人、管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命スルコトヲ得

第四十六條 第五十條第一項及ヒ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ除去ニ之ヲ準用ス

保管者ハ封印ノ除去ニ立會フコトヲ得

第五十二條 封印ヲ爲スニ適セサル物

一 日用品

二 封印ヲ爲スニ適セサル物

三 第三者ノ占有ニ屬スル物但其提出ヲ拒マサルトキハ此限ニ在ラス

第四十八條 封印ニハ判事ノ職印ヲ用ユヘシ

民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十九條 裁判所ハ封印ヲ爲シタルトキハ財産ノ保管者ヲ選任スヘシ

非訟事件手續法 民事非訟事件 財産ノ管理ニ關スル事件

第五十二條 裁判所ハ豫メ封印ヲ除去スヘキ期日ヲ定メ申立人ハ利害關係人ノ保管者、管理人及ヒ檢事ニ之ヲ告知スヘシ

利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ前項ノ期日前ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得但民法第二百五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第五十三條 異議ノ申立アリタルトキハ其申立ノ取下又ハ却下ノ後ニ非サレハ封印ヲ除去スルコトヲ得ス

封印ヲ除去シタルトキハ直チニ書記又ハ公證人ヲシテ財産ノ目録ヲ調製セシムヘシ但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ニ於テ立會人カ之ヲ調製セサルコトニ同意シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十四條 封印ノ除去ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人ノ署名、捺印スヘシ

一 封印ノ除去ヲ命ジタル裁判ノ表示
二 封印ノ除去ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事
三 申立人ノ氏名、住所
四 異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下若クハ却下ノ事

第五十五條 財産ノ目録ヲ調製セシメ又ハ之ヲ調製セシメサルコトハ異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下若クハ却下ノ事

第六十條 利害關係人ハ不在者ノ財産ヲ賣却セシムヘキ場合ニ於テハ競賣法ノ規定ニ依リテ之ヲ賣却スヘキコトヲ命スヘシ

第五十九條 本人カ自ラ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至リタルトキ又ハ其死亡カ分明ト爲リ若クハ失踪ノ宣告アリタルトキハ裁判所ハ本人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命シタル處分ヲ取消スヘシ

第六十條 利害關係人ハ不在者ノ財産ノ管理若クハ保存ニ付キ處分ヲ命シ、其處分ヲ取消シ又ハ管理人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ爲スコトヲ許可シタル裁判ニ對シテ不在者カ置キタル管理人ハ其改任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ管理人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十一條 裁判所カ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ又ハ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス裁判所ノ命シタル處分ニ付キ必要ナル費用亦同シ

第六十二條 裁判所カ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔

第六十三條 民法第八百九十二條第二項乃至第四項ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ子ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十四條 第三者カ被後見人ニ與ヘタル財産ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十五條 民法第一千二百一十一條第二項、第三項及ヒ第一千二百一十二條ノ相續財産ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十六條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理ニ關スル事件ハ相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十七條 民法第一千四十三條ノ相續財産ノ管理ニ關スル事件ハ財産分離ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十八條 第三十九條乃至第六十二條ノ規定ハ前五條ニ掲ケタル事件ニ之ヲ準用ス

第六十九條 民法第一千五十二條第二項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

第六 封印ノ狀況及ヒ異狀アルトキハ其事由
第五十五條 管理人カ調製スヘキ財産ノ目録ニハ左ノ事項ヲ記載シ管理人所、立會人ノ署名、捺印スヘシ

一 調製ノ場所、年月日及ヒ其事由
二 申立人ノ氏名、住所
三 不動產ノ表示
四 動產ノ種類及ヒ數量
五 債權及ヒ債務ノ表示
六 帳簿、證書其他ノ書類

第六十六條 民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ裁判所ハ公證人ヲシテ財産ノ目録ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得管理人カ調製シタル目録ヲ不充分ト認メタルトキ亦同シ

第六十七條 前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス前項ノ規定ハ本條第一項又ハ第五十三條第二項ノ規定ニ依リテ書記又ハ公證人カ財産ノ目録ヲ調製スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條 利害關係人ハ財産ノ目録ノ閱覽ヲ申請シ又

第六十九條 民法第一千二百一十一條第二項、第三項及ヒ第一千二百一十二條ノ相續財産ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十條 第三者カ被後見人ニ與ヘタル財産ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十一條 民法第一千二百一十一條第二項、第三項及ヒ第一千二百一十二條ノ相續財産ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十二條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理ニ關スル事件ハ相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第七十三條 第三十九條乃至第六十二條ノ規定ハ前五條ニ掲ケタル事件ニ之ヲ準用ス

第七十四條 民法第一千五十二條第二項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

第七 封印ノ狀況及ヒ異狀アルトキハ其事由
第六十五條 管理人カ調製スヘキ財産ノ目録ニハ左ノ事項ヲ記載シ管理人所、立會人ノ署名、捺印スヘシ

一 調製ノ場所、年月日及ヒ其事由
二 申立人ノ氏名、住所
三 不動產ノ表示
四 動產ノ種類及ヒ數量
五 債權及ヒ債務ノ表示
六 帳簿、證書其他ノ書類

第六十六條 民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ裁判所ハ公證人ヲシテ財産ノ目録ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得管理人カ調製シタル目録ヲ不充分ト認メタルトキ亦同シ

第六十七條 前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス前項ノ規定ハ本條第一項又ハ第五十三條第二項ノ規定ニ依リテ書記又ハ公證人カ財産ノ目録ヲ調製スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條 利害關係人ハ財産ノ目録ノ閱覽ヲ申請シ又

第六十九條 民法第一千二百一十一條第二項、第三項及ヒ第一千二百一十二條ノ相續財産ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十條 第三者カ被後見人ニ與ヘタル財産ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十一條 民法第一千二百一十一條第二項、第三項及ヒ第一千二百一十二條ノ相續財産ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

一 申立人ノ氏名、住所
 二 被相續人ノ氏名、身分、職業及ヒ最後ノ住所
 三 被相續人ノ出生及ヒ死亡ノ場所並ニ其年月日
 四 管理人ノ氏名、住所
 第七十條 民法第千五十八條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項
 二 相續人ハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ノ催告
 第七十一條 民事訴訟法第七百六十六條ニ定メタル公告ノ方法ハ前二條ノ公告ニ之ヲ準用ス

第三章 信託ニ關スル事件
 第七十一條ノ二 信託法第八條第一項第三項、第二十二條第一項但書、第二十三條、第四十一條、第四十六條乃至第四十八條及ヒ第五十八條ニ定メタル事件ハ受託者ノ住所ノ區裁判所、同法第四十九條第一項第四項ニ定メタル事件ハ前受託者ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トシ受託者又ハ前受託者數人アル場合ニ於テハ其一人ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス
 信託法第四十九條第二項ニ定メタル事件ハ遺言者ノ最後ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス
 第七十一條ノ三 裁判所ハ信託事務ノ監督ニ付キ必要ト認ムルトキハ財産目録及ヒ信託事務ニ關スル帳簿並ニ

書類ノ提出ヲ命シ且信託事務ノ處理ニ付キ受託者其他ノ關係人ヲ審訊スルコトヲ得

前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第七十一條ノ四 裁判所ハ信託法第八條第一項又ハ同法第四十八條ノ規定ニ依リテ選任シタル信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ヲ改任スルコトヲ得

第七十一條ノ五 第三十九條、第四十條第二項及ヒ第四十條ノ二ノ規定ハ信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ノ選任又ハ改任ニ付キ之ヲ準用ス
 第四十三條ノ規定ハ裁判所力選任シタル信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第七十一條ノ六 第二百二十八條、第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ信託法第四十一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所力選任シタル検査役ニ付キ之ヲ準用ス

第四章 裁判上ノ代位ニ關スル事件
 第七十二條 債權者ハ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保全スルコト能ハス又ハ之ヲ保全スルニ困難ヲ生スル虞アルトキハ裁判上ノ代位ヲ申請スルコトヲ得
 第七十三條 裁判上ノ代位ハ債務者力普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄トス
 第七十四條 代位ノ申請ニハ第九條ニ掲ケタル事項ノ外

左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 債權者及ヒ第三債務者ノ氏名、住所
 二 申請人ノ保全セントスル債權及ヒ其行ハントスル權利ノ表示
 第七十五條 裁判所ハ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメスシテ之ヲ許可スルコトヲ得

第七十六條 申請ヲ許可シタル裁判ハ職權ヲ以テ之ヲ債權者ニ告知スヘシ
 前項ノ告知ヲ受ケタル債務者ハ其權利ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス
 第七十七條 申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ債務者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ起算ス
 第七十八條 抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ申請人及ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第七十二條第一項ノ規定ニ從ヒテ其負擔者ヲ定ム

第七十九條 第十三條及ヒ第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ適用セス
 第五章 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル費用
 非訟事件手續法 民事非訟事件 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

第八十條 民事第二百六十二條第三項ノ證書保存者ノ指定ハ共有物ノ分割アリタル地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所力第一項ノ指定ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續費ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス

第八十一條 民法第四百九十五條第二項ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ハ債務履行地ノ區裁判所ノ管轄トス
 裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問スヘシ

裁判所力第一項ノ指定及ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債權者ノ負擔トス
 第八十二條 第四十條ノ二、民法第六百五十八條第一項、第四百九十五條ノ二、民法第六百五十八條第六十四條ノ規定ハ前條ノ保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ辨濟者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條 第八十一條ノ規定ハ民法第四百九十七條ノ裁判所ノ許可ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ二 第八十一條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ民法第三百五十四條ニ依リ實物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

拋棄ノ申述ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲
 スコトヲ得
第八條 遺言ノ確認及之執行
第七條 遺言執行者ノ選任及之解任ハ相續開始地ノ區
 裁判所ノ管轄トス
 裁判所ニ於テ選任シタル遺言執行者力其任務ヲ辭セシ
 トスルトキ又ハ其就職ヲ拒マントスルキハ相續開始
 地ノ區裁判所ニ其申立ヲ爲スベシ
 裁判所力前二項ニ掲ケタル事件ニ付キ申立ニ相當スル
 裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產
 ノ負擔トス
第八條 遺言執行者ヲ選任シタル裁判又ハ其任務ヲ辭
 シ若クハ就職ヲ拒ムコトヲ許可シタル裁判ニ對シテハ
 不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 遺言執行者ノ選任若クハ解任ノ申請又ハ其任務ヲ辭シ
 若クハ就職ヲ拒ム申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即
 時抗告ヲ爲スコトヲ得
 遺言執行者ハ其解任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告
 ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ遺言執行者力裁判ノ告知
 ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス
第六十二條 規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス
第九條 民法第七十六條及之第八十一條但書ニ定
 メタル遺言ノ確認ハ遺言者ノ住所地又ハ相續開始地又

遺言執行者ノ管轄トス
 遺言執行者ノ選任及之解任ハ相續開始地ノ區
 裁判所ノ管轄トス
 遺言執行者力其任務ヲ辭セシ
 トスルトキ又ハ其就職ヲ拒マントスルキハ相續開始
 地ノ區裁判所ニ其申立ヲ爲スベシ
 裁判所力前二項ニ掲ケタル事件ニ付キ申立ニ相當スル
 裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產
 ノ負擔トス
第八條 遺言執行者ヲ選任シタル裁判又ハ其任務ヲ辭
 シ若クハ就職ヲ拒ムコトヲ許可シタル裁判ニ對シテハ
 不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 遺言執行者ノ選任若クハ解任ノ申請又ハ其任務ヲ辭シ
 若クハ就職ヲ拒ム申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即
 時抗告ヲ爲スコトヲ得
 遺言執行者ハ其解任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告
 ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ遺言執行者力裁判ノ告知
 ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス
第六十二條 規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス
第九條 民法第七十六條及之第八十一條但書ニ定
 メタル遺言ノ確認ハ遺言者ノ住所地又ハ相續開始地又

係人ノ氏名、住所及之其陳述
第五條 事實調査ノ結果
第十五條 裁判所ハ遺言書ノ開封及之檢認ヲ爲シタル
 時キハ出頭セザリシ相續人其他遺言者旨趣ニ關係アル
 者ニ其旨ヲ告知スベシ
 前項ニ掲ケタル者力裁判所ノ許可ヲ得テ前條ノ調査ヲ
 閱覽スルコトヲ得
第十六條 遺言書ノ提出、開封及之檢認及之其告知ノ
 費用ハ相續財產ノ負擔トス
第九章 法人及之夫婦財產契約ノ登記
第十七條 法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ
 區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス
第十八條 夫婦財產契約ノ登記ニ付テハ夫ト爲ルキ
 者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所
 トス
 夫ト爲ルキ者力夫又ハ婿養子ナルトキハ妻ト爲ル
 べき者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登
 記所トス
第十九條 各登記所ニ法人登記簿及之夫婦財產契約登
 記簿ヲ備フ
第二十條 法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リ
 テ之ヲ爲ス
 申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及之主務官

應ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スル
第二十一條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記
 事項ノ變更ノ登記ハ理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 外假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及之事
 務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ
 且主務官應ノ許可ヲ要スルモ其村長ハ其許可書及之
 其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス
 前二項ノ登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事力同ノ登記
 所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル
 書面ヲ添附スルコトヲ要セス
第二十二條 法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リ
 テ之ヲ爲ス
 申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及之理事力清算人
 資格ヲ證スル書面及之清算人資格ヲ證スル書面ヲ添
 附スルコトヲ要ス
第二十三條 夫婦財產契約ニ關スル登記ハ契約者雙方
 ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 申請書ニハ夫婦財產契約書又ハ管理者ノ變更若クハ共
 有財產ノ分割ヲ許可シタル判決ノ謄本又ハ之ニ關スル
 契約書ヲ添附スルコトヲ要ス
第二十四條 第一百十七條、第二百二條乃至第二百四條

公其商號及本店又ハ支店ヲ登記シ、官署及シテ開張
 第百四十一條 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所
 三、登記ノ目的及ヒ事由ヲ明カスルコトヲ要ス
 四、年月日、官署、官署長、官署長ノ代理人、官署長ノ代理人
 五、登記所ノ表示
 第百五十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スル
 キ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル
 者ハ其トキハ其他ノ者ニテ申請ヲ爲スルコトヲ得
 連署ヲ爲スルコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要
 第百五十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請
 スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書又ハ其認證ノ附本ヲ
 添附スルコトヲ要ス、關シテ申請書ニ申請書ノ添附
 第百五十條ノ三 本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スル
 キ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ申請スルニ
 當リ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル
 書面ヲ添附スルコトヲ要ス、此場合ニ於テハ各本條ニ定
 第百五十一條 登記所ノ登記ノ申請力商法又ハ本章ノ規
 定ニ適合サルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却
 下ス、此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得、
 前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ
 送達スルコトヲ要ス

第百五十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記力
 商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナル
 中トテ發見シタルトキハ登記官ハ爲シタル者ニ對シ一
 月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキト
 登記者ハ登記抹消スヘキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス、
 登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前
 項ノ通知ニ代ヘ登記事項ヲ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公
 告スヘシ、
 登記所ハ右ノ外相當ノ認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ揭
 載セシムルコトヲ得、
 第百五十一條ノ三 異議ヲ申立アリタルトキハ登記所ハ
 理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲ス、
 前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得、抗告ハ
 執行停止ノ效力ヲ有ス、
 第百五十一條ノ四 異議ヲ申立ナキ又ハ異議ヲ却
 スル裁判カ確定シタルトキハ登記所ハ職權ヲ以テ登記
 抹消スルコトヲ得、
 第百五十一條ノ五 前條ノ規定ハ本店及ヒ支店ノ所在
 地ニ於テ登記スル事項ノ登記ニ付テハ本店ノ所在地
 ニ於テ爲シタル登記ニノミ之ヲ適用ス、
 前項ノ場合ニ於テ本店所在地カ登記所カ登記抹消シ
 タルトキハ連署トキハ其旨ヲ支店所在地カ登記所ニ通知
 スベシ

支店所在地ノ登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ連
 署トキハ登記抹消スヘシ、
 第百五十一條ノ六 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ
 錯誤又ハ遺漏スルコトヲ發見シタルトキハ連署トキハ登
 記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知ス、
 力登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス、
 前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ連署トキハ地方裁判所
 長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ、
 第百五十二條 削除
 第百五十三條 削除
 第百五十四條 商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル
 場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ同
 復ニ必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ得、
 第百五十五條 司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘ
 キ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得、
 第百五十六條 登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則
 ハ司法大臣之ヲ定ム、
 第百五十七條 不動産登記法第十條、第十三條、第十八
 條、第二十條、第二十二條、第二十四條及ヒ第五十九
 條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス、
 第百五十八條 商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テ同一ノ
 營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルト

キニ非サレバ之ヲ爲スコトヲ得ス、
 第百五十九條 商法施行法第十三條第一項ノ規定ニ依リ
 他人カ登記シタル商號ト同一ノ商號ノ登記ヲ申請スル
 者ハ舊商法施行前ヨリ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコ
 トヲ要ス、
 第百六十條 商號ノ登記ノ申請書ニハ第四百九十九條第二
 項ニ掲ケタル事項ノ外營業ノ種類ヲ記載スヘシ、
 變更ノ登記ヲ申請スルトキハ亦同シ、
 第百六十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ承繼人カ商號
 ヲ續用セントスルトキハ其資格ヲ證スル書面又ハ議受
 證書ヲ添ヘ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス、
 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ氏名又ハ住所ヲ變更シタ
 ルトキハ連署トキハ其旨ヲ申請スヘシ、
 第百六十二條 商號ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキハ當事
 者ハ其登記ヲ申請スヘシ、
 相續人又ハ法定代理人カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ申請
 書ニ其資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス、
 第百六十三條 商法第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ商
 號ノ抹消ヲ申請スル者ハ其登記上利害ノ關係ヲ有
 スルモノトテ證明スルコトヲ要ス、
 第百六十四條 第百五十一條ノ二乃至第百五十一條ノ四

規定ハ前條ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第六十五條 登記所ガ第五十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リ商號ニ關スル登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第六十六條 未成年者ガ商業ヲ營ム場合ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ法定代理人ノ同意ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス但法定代理人ガ之ニ連署スルコトハ此限ニ在ラズ

第六十七條 妻ガ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ夫ノ許可ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス但夫ガ之ニ連署スルコトハ此限ニ在ラズ

第六十八條 前條ノ規定ニ從ヒテ制限ノ登記ノ申請アリタルトキハ登記所ハ原登記ニ異リタル契約ノ登記ヲ爲シタル後管理ノ變更若クハ共有財産ノ分割ノ登記ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ登記所ニ其届出ヲ爲スルコトヲ要ス

第六十九條 前條ノ規定ニ從ヒテ制限ノ登記ノ申請アリタルトキハ登記所ハ原登記ニ異リタル契約ノ登記ヲ爲シタル後管理ノ變更若クハ共有財産ノ分割ノ登記ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ登記所ニ其届出ヲ爲スルコトヲ要ス

第七十條 法定財産制ニ異リタル契約ノ登記ヲ爲シタル後管理ノ變更若クハ共有財産ノ分割ノ登記ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ登記所ニ其届出ヲ爲スルコトヲ要ス

第七十一條 法定代理人ガ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ法定代理人ノ資格ヲ記載シ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第七十二條 支配人ノ選任ノ登記ニ因リテ之ヲ爲スルコトヲ要ス

第七十三條 支那人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十四條 支那人ノ姓名、住所、職業、年齢、性別、教育程度、支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十五條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十六條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十七條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十八條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十九條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十二條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十三條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十四條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十五條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十六條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十七條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十八條 支那人ノ數、商號、以テ數種ノ商業ヲ營ムトシテ之ヲ選任スル者ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

及ヒ商法第九十條第二號及第三號ニ掲ケタル事項ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ノ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十八條 清算ノ終了ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ清算人ガ其計算ノ承認ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第七十九條 合名會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十一條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十二條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十三條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十四條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十五條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十六條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十七條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十八條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十九條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十一條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十二條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十三條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十四條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十五條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十六條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十七條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十八條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十九條 合資會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

商法第六十三條但書ノ規定ニ依リ裁判所カ或社員ヲ除名又タ形場合ニ於テ形變更ヲ登記ノ申請書ニハ其判決ノ附本ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十一條ノ申請書ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百八十一條ノ合名會社ノ解散ノ登記ハ總社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ其資格ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲ス

第百八十二條ノ合名會社ノ合併ニ因リテ解散ノ登記ハ解散スヘキ會社ノ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ商法第七十八條第二項ニ依ル公告及ヒ催告ヲ爲シタルコト若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十三條ノ合名會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百七十九條第二項及ヒ前條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十三條ノ三合名會社カ合併ニ因リテ設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百七十九條第二項及ヒ前條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

三項及ニ第百八十二條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ因リテ選任セラル者ノ資格ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十三條ノ合名會社ノ第一項ノ規定ハ合名會社ノ合併ニ因リテ變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條ノ合名會社カ社員ノ請求ニ因リテ解散シタルトキハ各社員ノ申請ニ因リテ其登記ヲ爲ス

前項ノ申請書ニハ判決ノ附本ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十四條ノ二合名會社ノ第一項及ヒ第二項ノ規定ハ合名會社ノ設立取消ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條ノ三合名會社ノ第一項及ヒ第二項ノ規定ハ合名會社ノ合併ニ因リテ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條ノ四合名會社ノ三又ハ第八十三條ノ四ノ規定ニ依リ合資會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

有限責任社員ノ加入セシメタル場合ニ於テハ其加入ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十五條ノ商法第百八十八條第二項ノ規定ニ依リ合名

會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前條第三項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十五條ノ二合名會社ノ第一項及ヒ前條ノ規定ハ合名會社ノ第一項ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ニ之ヲ準用ス

第百八十六條ノ合資會社ノ第一項及ヒ前條ノ規定ハ合資會社ノ第一項ノ規定ニ依リ合資會社ニ付キ爲スヘキ登記ニ之ヲ準用ス

社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘキ登記ハ合資會社ニ於テハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第六節 株式會社ノ登記

第百八十七條 株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 定款
- 二 株式ノ引受ヲ證明スル書面
- 三 株式申込證
- 四 取締役及ヒ監査役又ハ検査役ノ調査報告書及ヒ其附屬書類
- 五 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其附屬書類
- 六 發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ

七 創立總會ノ決議錄

第百八十八條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ニ付キ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

取締役又ハ監査役又ハ検査役又ハ住所ノ變更ノ登記ハ合資會社ノ第一項ノ規定ニ依リ合資會社ニ付キ爲ス

第百八十九條 會社ノ資本増加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 株式ノ引受ヲ證明スル書面
- 二 商法第百十四條ノ規定ニ從ヒテ監査役又ハ検査役カ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類
- 三 資本ノ増加ニ關スル株主總會ノ決議錄
- 四 株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十一條 社債ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

申請書ニハ最終ノ貸借對照表

二六 社債ノ引受ヲ證スル書面
 三 社債申込證
 四 各社債ニ付キ商法第二百四條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面
 五 社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄
 第九十二條 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
 第九十三條 會社ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且會社カ株主總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ株主總會ノ決議錄ヲ添付スルコトヲ要ス
 第九十四條 會社ノ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第九十五條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第九十六條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第九十七條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第九十八條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第九十九條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第一百條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第九十三條 會社ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且會社カ株主總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ株主總會ノ決議錄ヲ添付スルコトヲ要ス
 第九十四條 會社ノ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第九十五條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第九十六條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第九十七條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第九十八條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第九十九條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第一百條 株式會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

ル場合ニ於テ會社カ資本減少ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
 一 舊商法第二百七條ニ依リ通知及ヒ催告ヲ爲シタルコト及ヒ異議ヲ申出テタル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面
 二 資本ノ減少ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ假決議錄
 第九十四條ノ五 舊法ノ規定ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第七十九條及ヒ第八十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
 一 株金ノ拂込金額ヲ證スル書面
 二 債券原簿
 三 主務者ノ認許書又ハ其認證アル謄本
 四 債券ノ發行ニ關スル株主總會ノ決議錄
 第九十五條 資本ノ増加及ヒ減少ノ解散及ヒ合併ニ因リテ之ヲ爲ス
 第九十六條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第九十七條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第九十八條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第九十九條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十九條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百零一條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百零二條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百零三條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百零四條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百零五條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百零六條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百零七條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百零八條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百零九條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第一百一十條 株式會社カ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十九條 第七十九條第二項、第九十三條ノ二、第九十三條ノ三及ヒ第九十六條第一項ノ規定ハ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百條 株式合資會社ノ解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員又ハ其相續人及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附シ且無限責任社員ノ同意及ヒ株主總會ノ決議ニ因リ又ハ會社ノ合併ニ因リテ解散シタルトキハ之ニ關スル株主總會ノ決議ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十二條第二項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第二百條ノ二 株式合資會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ株主總會ノ決議及ヒ第八十二條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百一條 株式合資會社ノ組織ヲ變更シ株式會社ト爲シタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ設立シタル株式會社ノ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款、株式ノ引受ヲ證スル書面及ヒ組織變更ニ關スル株主總會ノ決議ヲ添附スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ商法第二百四十七條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス

第二百一條ノ二 第九十五條ノ二ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八節 外國會社ノ登記
第二百二條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一 本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面
二 代表者タル資格ヲ證スル書面
三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二百三條 日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者ニ變更アリタルトキハ現任代表者ハ管轄登記所ニ其届出ヲ爲スヘシ

シタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ設立シタル株式會社ノ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款、株式ノ引受ヲ證スル書面及ヒ組織變更ニ關スル株主總會ノ決議ヲ添附スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ商法第二百四十七條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス

第二百一條ノ二 第九十五條ノ二ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八節 外國會社ノ登記
第二百二條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一 本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面
二 代表者タル資格ヲ證スル書面
三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二百三條 日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者ニ變更アリタルトキハ現任代表者ハ管轄登記所ニ其届出ヲ爲スヘシ

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セ

第二百九條 非訟事件手續法其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ト抵觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ裁判所カ申立ヲ受ケ又ハ著手シタル事件ハ舊法令ニ依ル

第二百九條ノ二 外國人ニ關スル非訟事件手續ニシテ條約ニ因リ特ニ定ムルコトヲ要スルモノハ司法大臣之ヲ定ム

第二百十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行日ヨリ之ヲ施行ス

非訟事件手續法 商事非訟事件 商業登記 附則

本法ハ商法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ニ裁判所ノ受理シタル事件ニハ從前ノ規定ヲ
適用ス
商法中改正法律附則ノ規定ニ依リ舊法ノ規定ヲ適用スヘ
キ場合ニ付テハ從前ノ規定ハ仍ホ其效力ヲ有ス
後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ
有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類
ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登
記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有
ス

●非訟事件手續法第二條第三項ノ指定地

(大正五年六月十六日)
司法省令第十四號

非訟事件手續法第二條第三項ノ規定ニ依リ東京市ヲ管轄
裁判所ノ所在地ト指定ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●競賣法 (明治三十一年六月二十一日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

競賣法

第一章 通則

第一條 競賣ノ申込ハ他ノ高價競買ノ申込アリタルトキ

又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣ヲ終了シタルトキハ當然其
效力ヲ失フ

第二條 競買人ハ競落ニ因リテ競賣ノ目的タル權利ヲ取
得ス

競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ
因リテ消滅ス

競買人ハ留置權者、競買人ニ對シテ優先權ヲ有スル質
權者及ヒ其質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨
濟スルニ非サレハ競賣ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得ス

第二章 動産ノ競賣

第三條 動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其
他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ其競賣ヲ爲サントスル
者ノ委任ニ因リ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所所屬ノ執
達吏之ヲ爲ス

前項ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其競買人ト爲ル
コトヲ得ス

債權者ノ委任ニ因リテ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者
ハ現金ヲ以テ代價ヲ提供スルニ非サレハ其競買ノ申込
ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 競賣ハ競賣ニ付スヘキ物ノ現在地ニ於テ之ヲ爲
ス但其他ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキハ他所
ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 競賣ノ日時ハ執達吏カ其委任ヲ受ケタルトキ直
チニ之ヲ定ムルコトヲ要ス但直チニ之ヲ定ムルコト能
ハサル事情アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ
要ス

公告ハ競賣ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ準シ競賣地
ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 競賣委任者ノ氏名、住所

二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質

三 競賣ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件

四 競賣ノ場所及ヒ年月日時

五 委任者カ競賣ノ條件ヲ定メサルシトキハ民事訴訟法第
五百七十七條第三項ノ規定ヲ準用ス

第八條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ
有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但通知ヲ
受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ此限ニ在
ラス

第九條 公告ト競賣トノ間ニハ五日以上ノ期間ヲ存スル
コトヲ要ス但競賣ニ付スヘキ物ニ關シ之ヨリ速ニ競賣
ヲ爲スコトヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラ
ス

競賣法 動産ノ競賣

第十條 高價品ノ競賣ハ鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメ
タル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代
價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

取引所ノ相場アル物ハ其相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競
賣スルコトヲ得ス

第十二條 前條ニ掲ケタル物ヲ競賣スル場合ニ於テ競賣
ノ日ニ相當ナル競買ノ申込ナキトキハ執達吏ハ金銀及
ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以上ノ代價、取引
所ノ相場アル物ニ付テハ競賣ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ
以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第十三條 競賣ハ其條件ヲ告知シ各競賣物ニ付キ競買ノ
申込ヲ催告スルニ始マリ最高價競買ノ申込人ニ對シ競
落ノ告知ヲ爲スニ因リテ終了ス

競落ノ告知ハ最高價競買ノ申込ヲ三回呼上ケタル後之
ヲ爲ス

第十四條 執達吏ハ競賣調書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載
シ署名、捺印スヘシ

一 競賣委任者ノ氏名、住所

二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質

三 鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ其評價
額

四 競賣ノ場所及日時

競賣法 不動産ノ競賣

第九條 但書ノ事由アリタルトキハ其事由
 五 利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタルコト若
 六 シ之ヲ發セザリシトキハ其事由
 七 告知シタル競賣ノ條件
 八 各競賣物ニ對スル競落人ノ氏名及ヒ其申込價額
 九 競賣ヲ停止シタルトキ又ハ競落ヲ爲サザリシト
 キハ其事由
 十 競賣ノ開始及ヒ完結ノ日時
 十一 競賣調書ヲ作リタル場所及ヒ年月日
 十二 競賣調書ニハ委任者又ハ其代理人ヲシテ署名、捺印セ
 シメ且競賣ノ公告ヲ爲シ及ヒ通知ヲ發シタルコトヲ證
 スル書面及ヒ委任狀ヲ添付スルコトヲ要ス
 十三 執達吏ハ委任者ノ請求ニ因リ競賣調書ノ謄本ヲ交付ス
 ルコトヲ要ス
 第十四條 執達吏ハ競賣ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競賣ノ
 費用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落セザリシ物ハ遲滞ナク之
 ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託ス
 ルコトヲ要ス
 第十五條 執達吏ハ競賣ニ付キ正副二通ノ計算書ヲ作リ
 其正本ハ計算ニ關スル證明書ト共ニ之ヲ委任者ニ交付
 シ其副本ハ之ヲ競賣調書ニ添付スヘシ
 第十六條 競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競賣ノ完
 結ニ至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所

屬區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 異議ノ裁判ハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ此裁判ニ對シテ
 ハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 異議ノ裁判ハ之ヲ以テ善意ノ競落人ニ對抗スルコトヲ
 得ス
 第十八條 前條ノ規定ニ依リテ異議ノ申立アリタルトキ
 ハ裁判所ハ競賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得但停止ニ因リ
 テ著シキ損害ヲ生スル虞アルトキハ此限ニ在ラス
 第十九條 第三者カ競賣ノ目的物ニ關シテ訴ヲ提起シタ
 ルコトヲ證明シタルトキハ執達吏ハ其競賣ヲ停止スル
 コトヲ要ス
 第二十條 物ノ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ又ハ遲滞ノ爲
 メ著シク物ノ價格ヲ減少スル虞アルトキハ執達吏ハ競
 賣ヲ續行シテ賣得金ヲ供託スルコトヲ得
 第二十一條 前二條ノ規定ニ依リテ競賣ヲ停止シタル場合
 ニ於テハ執達吏ハ相當ノ方法ヲ以テ競賣ノ目的物ヲ保
 管スルコトヲ要ス此場合ニ於ケル競賣手續及ヒ保管ノ
 費用ハ委任者ノ負擔トス
 第二十二條 競賣ノ委任ハ競落ノ告知アルマテ之ヲ取消
 スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於ケル競賣手續ノ費用ハ委任者ノ負擔ト
 ス
 第三章 不動産ノ競賣

第二十二條 不動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質
 權者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サン
 トスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲
 ス
 第二十三條 民事訴訟法第百四十一條第一項ノ規定ハ競賣ヲ爲ス
 ヘキ裁判所ノ管轄ニ之ヲ準用ス
 第二十四條 申立人ハ競落期日マテハ最高價競買申込人
 ノ同意アル場合ニ限り其申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得
 第二十五條 競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコト
 ヲ要ス
 第二十六條 申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ
 署名、捺印スヘシ
 一 債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所
 二 競賣ニ付スヘキ不動産ノ表示
 三 競賣ノ原因タル事由
 四 年月日
 五 裁判所
 申立書ニハ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ノ謄
 本及ヒ代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其委任狀ヲ添
 付スルコトヲ要ス
 民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號、
 第二項及ヒ第三項ノ規定ハ第一項ノ申立ニ之ヲ準用

第二十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
 開始決定ニハ申立人ノ氏名、住所及ヒ前條第二項第一
 號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル
 判事之ニ署名、捺印スヘシ
 第二十六條 民事訴訟法第百三十九條ノ規定ハ開始決定ニ之ヲ準
 用ス
 第二十七條 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以
 テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ付スヘキ不動産ニ
 關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託ス
 第二十八條 民事訴訟法第六百五十一條第二項、第六百五十二條及
 ヒ第六百五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第二十九條 裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期
 日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 第三十條 競賣ノ期日ハ競賣手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコ
 トヲ要ス
 第三十一條 左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス
 一 申立人
 二 債務者及ヒ所有者
 三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者
 四 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル
 者
 第三十二條 裁判所ハ鑑定人ヲシテ競賣ニ付スヘキ不動

競賣法 不動産ノ競賣

産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額トス
 第二十九條 競賣期日ノ公告ニハ第二十二條ニ掲ケタル者ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 第三十條 競賣期日、其開始、競賣調書及ヒ競賣終局ノ告知ニ關スル民事訴訟法第六百五十九條、第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス
 第三十一條 競賣期日ニ相當ノ競賣申込ナキトキハ裁判所ハ更ニ期日ヲ定メテ競賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第六百七十條ノ規定ヲ準用ス
 第三十二條 競落期日ハ民事訴訟法第六百六十條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク
 第三十三條 競落ノ手續、競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日、競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事訴訟法第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條及ヒ第六百八十八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第三十三條 競落人ハ競落ヲ許ス決定力確定シタル後直チニ代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ其裁判ノ謄本ヲ添へ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘシ
 第三十四條 裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス前申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス
 第三十五條 競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ
 第三十六條 登記シタル船舶ノ競賣ハ申立ニ因リ其當時ノ碇泊港又ハ船舶ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所ノ之ヲ爲ス
 第三十七條 競賣ノ申立書ニハ船舶所有者並ニ船長ノ氏名、住所、船舶ノ表示及ヒ競賣ノ原因ヲ記載シ且船舶登記簿ノ謄本及ヒ官ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其認可ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
 第三十八條 競賣期日ノ公告ニハ申立ニ因リテ競賣ヲ爲

ス旨ノ外船舶ノ表示及ヒ其碇泊港又ハ現在ノ場所ヲ記載スルコトヲ要ス
 第三十九條 前章ノ規定及ヒ民事訴訟法第七百二十九條、第七百二十條第二項、第七百二十三條、第七百二十五條ノ規定ハ船舶ノ競賣ニ之ヲ準用ス
 第四十條 民法第三百八十四條ノ規定ニ依リテ抵當不動産ノ増價競賣ヲ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵當不動産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且擔保ノ認許ヲ求ムルコトヲ要ス
 第四十一條 規定ニ依ラサル競賣ノ請求ハ無効トス
 第四十二條 債權者ノ署名、捺印スヘシ
 一 債務者ノ氏名、住所
 二 抵當不動産ノ表示
 三 第三取得者及ヒ讓渡人ノ氏名、住所
 四 擔保ノ表示
 五 第三取得者カ提供シタル金額
 六 請求者カ定メタル増價金額
 七 年月日
 八 裁判所
 申立書ニハ民法第三百八十三條ノ送達ヲ受ケタル日ヲ

證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
 第四十二條 裁判所ハ擔保ノ許否ニ付キ期日ヲ定メ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ
 第四十三條 競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セサル裁判ニ因リテ當然其效力ヲ失フ
 第四十四條 民法第三百八十四條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ニ對シテ競賣ノ請求書ヲ送達シタル他ノ債權者ハ前項ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ第四十條ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 第四十五條 裁判所カ擔保ヲ認許シタルトキハ競賣手續ノ開始ノ決定ヲ爲スヘシ
 第四十六條 決定ニハ認許シタル擔保ヲ表示シ且第四十一條第一項第一號乃至第三號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ
 第四十七條 第二十五條第二項、第三項及ヒ第二十六條第一項ノ規定ハ本條ノ決定ニ之ヲ準用ス
 第四十八條 第二十七條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ増價競賣ニ之ヲ準用ス
 左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

一 競買請求者二百八十條ノ公告ニ依リて競買ニ参加スル者
 二 債務者
 三 第三取得者及ヒ讓渡人
 四 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ権利者
 五 不動産上ノ権利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

第四十六條 競買ノ公告ニハ増價競買ノ申立ニ因リテ競買ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタル増價金額ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十九條、第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條ノ規定ハ本章ノ競買及ヒ競落ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十七條 競買期日ニ請求債權者力定メタル増價金額ニ達スル競買ノ申込ヲキトキハ請求債權者ヲ以テ競落人トス

民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最高價競買人カ其競買ヲ取消シタルトキハ裁判所ハ更ニ競買期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四十八條 増價競買ノ擔保ハ競落代價ノ完済ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ

第四十九條 裁判所ハ競買請求者ノ申立ニ因リ競買ニ代

六テ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

第五十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十一年勅令第二百二十三號ヲ以テ同年七月十六日ヨリ施行ス)

第五十一條 明治二十三年法律第九十二號増價競買法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●破産法 (大正十一年四月二十五日)

第一章 總則

第一條 破産ハ其ノ宣告ノ時ヨリ效力ヲ生ス

第二條 外國人又ハ外國法人ハ破産ニ關シ日本人又ハ日本法人ト同一ノ地位ヲ有ス但シ其ノ本國法ニ依リ日本人又ハ日本法人カ同一ノ地位ヲ有スルトキニ限ル

第三條 日本ニ於テ宣告シタル破産ハ破産者ノ財産ニシテ日本ニ在ルモノニ付テハ其ノ效力ヲ有ス

外國ニ於テ宣告シタル破産ハ日本ニ在ル財産ニ付テハ

其ノ效力ヲ有セス

民事訴訟法ニ依リ裁判上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ債權ハ日本ニ在ルモノト看做ス

第四條 解散シタル法人ハ破産ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第五條 相續人又ハ相續財産ニ對スル破産ノ宣告ハ限定承認又ハ財産分離ヲ妨ケス但シ破産取消若ハ破産廢止ノ決定カ確定シ又ハ破産終結ノ決定アル迄其ノ手續ヲ中止ス

第二章 破産財團

第六條 破産者カ破産宣告ノ時ニ於テ有スル一切ノ財産ハ之ヲ破産財團トス

破産者カ破産宣告前ニ生シタル原因ニ基キ將來行フコトアルヘキ請求權ハ破産財團ニ屬ス

差押フルコトヲ得サル財産ハ破産財團ニ屬セス但シ民事訴訟法第五百七十條第一項第四號第七號ニ掲ケルモノ、同條第二項ノ規定ニ依リ差押ノ承諾アリタルモノ及破産宣告後差押フルコトヲ得ルニ至リタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條 破産財團ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ破産管財人ニ專屬ス

第八條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ相續ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後ニ爲シタル單純承認ハ

破産財團ニ對シテハ限定承認ノ效力ヲ有ス

第九條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ遺產相續ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後ニ相續ノ拋棄ヲ爲シタルトキト雖破産財團ニ對シテハ限定承認ノ效力ヲ有ス

破産管財人ハ前項ノ規定ニ拘ラス拋棄ノ效力ヲ認ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拋棄アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三月内ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ申述スルコトヲ要ス

第十條 前二條ノ規定ハ包括遺贈ニ之ヲ準用ス

第十一條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ特定遺贈アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告ノ當時承認又ハ拋棄ヲ爲サザリシトキハ破産管財人破産者ニ代リテ其ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得

第十二條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ之ニ屬スル一切ノ財産ヲ以テ破産財團トス

破相續人カ相續人ニ對シ及相續人カ破相續人ニ對シテ有シタル權利ハ消滅セザリシモノト看做ス

第十三條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ留保財産モ亦破産財團ニ屬ス

國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ相續財産ニ對シ

破産ノ宣告アリタルトキハ相續開始ノ時ニ於テ前戸
 主カ有シタル財産ヲ以テ破産財團トス
 第十四條 相續人カ相續財産ノ全部又ハ一部ヲ處分シタ
 ル後相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續
 人カ反對給付ニ付有スル權利ハ破産財團ニ屬ス
 相續人カ既ニ反對給付ヲ受ケタルトキハ之ヲ破産財團
 ニ返還スルコトヲ要ス但シ其ノ當時相續人カ破産ノ原
 因タル事實又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラザリシ
 トキハ其ノ現ニ受ケル利益ヲ返還スルヲ以テ足ル
 前二項ノ規定ハ前戸主カ前條ノ財産ヲ處分シタル場合
 ニ之ヲ準用ス

第三章 破産債權

第十五條 破産者ニ對シ破産宣告前ノ原因ニ基キテ生シ
 タル財産上ノ請求權ハ之ヲ破産債權トス

第十六條 破産債權ハ破産手續ニ依ルニ非サレハ之ヲ行
 フコトヲ得ス

第十七條 期限附債權ハ破産宣告ノ時ニ於テ辨濟期ニ至
 リタルモノト看做ス

第十八條 債權カ無利息ニシテ其ノ期限カ破産宣告後ニ
 到來スヘキ場合ニ於テハ破産債權ノ額ハ破産宣告ノ時
 ヲリ期限ニ至ル迄ノ破産債權ニ對スル法定利息ヲ債權
 額ヨリ控除スルモノトス

第十九條 前條ノ規定ハ金額及存續期間ノ確定スル定期

金債權ニ之ヲ準用ス但シ其ノ總額カ法定利率ニ依リ其
 ノ定期金ニ相當スル利息ヲ生スヘキ元本額ヲ超ユルト
 キハ其ノ元本額ヲ以テ破産債權ノ額トス

第二十條 第十八條ノ場合ニ於テ期限カ不確定ナルトキ
 ハ破産宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ以テ破産債權ノ額ト
 ス定期金債權ノ金額又ハ存續期間カ不確定ナルトキ亦
 同シ

第二十一條 前三條ノ規定ハ法人又ハ相續財産ニ對シテ
 破産ノ宣告アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十二條 債權ノ目的カ金錢ニ非サルトキ又ハ金錢ナ
 ルモ其ノ額カ不確定ナルトキ若ハ外國ノ通貨ヲ以テ定
 メタルモノナルトキハ破産宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ
 以テ破産債權ノ額トス

第二十三條 條件附債權ハ其ノ全額又ハ前條ノ規定ニ依
 ル評價額ヲ以テ破産債權ノ額トス

第二十四條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場
 合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受
 ケタルトキハ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權
 ノ全額ニ付各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ債
 權ヲ行フコトヲ得

第二十五條 保證人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權

者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ付破産債
 權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場
 合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人若ハ一人カ破産ノ
 宣告ヲ受ケタルトキハ破産者ニ對シテ將來行フコトヲ
 ルヘキ求債權ヲ有スル者ハ其ノ全額ニ付破産債權者ト
 シテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ債權者カ其ノ債權ノ
 全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行ヒタルトキハ
 此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ前項ノ求債權ヲ有スル者カ辨濟
 ヲ爲シタルトキハ其ノ辨濟ノ割合ニ應ジテ債權者ノ債
 權ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ擔保ヲ供シタル第三者カ破産者ニ對シ
 テ將來行フコトアルヘキ求債權ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 第二十四條、第二十五條及前條第一項第二
 項ノ規定ハ數人ノ保證人カ各自債務ノ一部ヲ負擔スヘ
 キ場合ニ於テ其ノ負擔部分ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ無限ノ
 責任ヲ負フ者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ法人ノ債
 權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ付破産
 債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十九條 法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ有限ノ
 責任ヲ負フ者又ハ其ノ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場

合ニ於テハ法人ノ債權者ハ有限ノ責任ヲ負フ者ニ對シ
 テ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ法人ハ出資ノ請求ニ
 付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ妨グス

第三十條 相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ
 財産ノ分離アリタルトキト雖相續債權者及受遺者ハ其
 ノ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコ
 トヲ得

第三十一條 相續財産及相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリ
 タルトキハ相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ全額ニ付
 各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコ
 トヲ得民法第九百八十九條又ハ第九百九十一條ノ場合
 ニ於テ相續財産及前戸主、相續人及前戸主又ハ相續財
 産相續人及前戸主ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキ相
 續債權者ニ付亦同シ

第三十二條 前二條ノ場合ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ケタル
 相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ相續債權者及受遺
 者ハ相續人ノ固有財産ニ付破産債權者トシテ其ノ權利
 ヲ行フコトヲ得ス第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依
 リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合亦同シ

第三十三條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキ
 ハ相續人ハ其ノ被相續人ニ對スル債權及被相續人ノ債
 務消滅ノ爲ニ爲シタル出捐ニ付相續債權者ト同一ノ債
 權ヲ有ス

第三十四條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ハ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス

第三十五條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第十三條ノ財産アルトキハ相續開始後ノ前戶主ノ債權者ハ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十六條 相續財産及前戶主ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第十三條ノ財産アルトキハ相續開始後ノ前戶主ノ債權者ハ債權ノ全額ニ付各破産財團ニ對シテ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十七條 民法第九百八十九條又ハ第九百九十一條ノ場合ニ於テ相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ前戶主ハ將來行フコトアルヘキ求債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條第一項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 左ニ掲ケル請求權ハ之ヲ破産債權トセス但シ法人又ハ相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 破産宣告後ノ利息

二 破産宣告後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金

三 破産手續参加ノ費用

第四 罰金、科料、刑事訴訟費用、追徴金及過料

第三十九條 破産財團ニ屬スル財産ニ付一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル破産債權ハ他ノ債權ニ先ツ額ノ割合ニ應ジテ之ヲ辨濟ス

第四十條 同一順位ニ於テ辨濟スヘキ債權ハ各其ノ債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ辨濟ス

第四十一條 優先權カ一定ノ期間内ノ債權額ニ付存在スル場合ニ於テハ其ノ期間ハ破産宣告ノ時ヨリ遡リテ之ヲ計算ス

第四十二條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續債權者ノ債權ハ受遺者ノ債權又ハ相續開始後ノ前戶主ノ債權者ノ債權ニ先ツ

第四十三條 相續財産ニ對シテ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル期間内ノ申立ニ因リ相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ノ債權ハ相續債權者及受遺者ノ債權ニ先ツ相續財産ニ付テハ相續債權者及受遺者ノ債權ハ相續人ノ債權者ノ債權ニ先ツ

第四十四條 相續財産及相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ノ債權ハ相續人ノ破産財團ニ付テハ相續債權者及受遺者ノ債權ニ先ツ

第四十五條 相續財産及前戶主ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續開始後ノ前戶主ノ債權者ノ債權ハ前戶主ノ破産財團ニ付テハ相續債權者ノ債權ニ先ツ

第四十六條 法人又ハ相續財産ニ對シテ破産宣告アリタル

ル場合ニ於テハ債權額ト第十八條乃至第二十條ノ規定ニ依リテ定ル額トノ差額ノ請求權及第三十八條ニ掲ケル請求權ハ法人ノ債權者又ハ相續債權者ノ他ノ債權ニ後ル

第四章 財團債權

第四十七條 左ニ掲ケル請求權ハ之ヲ財團債權トスルニ用

一 破産債權者ノ共同ノ利益ノ爲ニスル裁判上ノ費用

二 國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依リ徵收スルコトヲ得ヘキ請求權但シ破産宣告後ノ原因ニ基ク請求權ハ破産財團ニ關シテ生シタルモノニ限ル

三 破産財團ノ管理、換價及配當ニ關スル費用

四 破産財團ニ關シ破産管財人ノ爲シタル行爲ニ因リテ生シタル請求權

五 事務管理又ハ不當利得ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權

六 委任終了又ハ代理權消滅ノ後急迫ノ必要ノ爲ニ爲シタル行爲ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權

七 第五十九條第一項ノ規定ニ依リ破産管財人カ債務ノ履行ヲ爲ス場合ニ於テ相手方カ有スル請求權

八 破産宣告ニ因リテ變務契約ニ關シ解約ノ申入アリタル場合ニ於テ其ノ終了ニ至ル迄ノ間ニ生シタル請求權

九 破産者及之ニ扶養セラルル者ノ扶助料

第四十八條 破産管財人負擔附遺贈ノ履行ヲ受ケタルトキハ負擔ノ利益ヲ受ケヘキ請求權ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テ之ヲ財團債權トス

第四十九條 財團債權ハ破産手續ニ依ラスシテ隨時之ヲ辨濟ス

第五十條 財團債權ハ破産財團ヨリ先ツ之ヲ辨濟ス

第五十一條 破産財團カ財團債權ノ總額ヲ辨濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ財團債權ノ辨濟ハ法令ニ定ムル優先權ニ拘ラス未タ辨濟セサル債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ爲ス但シ財團債權ニ付存スル留置權、特別ノ先取特權、質權及抵當權ノ效力ヲ妨ケス

第四十七條第一號乃至第七號ノ財團債權ハ他ノ財團債權ニ先ツ

第五十二條 第十七條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條第一項ノ規定ハ第四十七條第七號及第四十八條ニ規定スル財團債權ニ之ヲ準用ス

第五章 法律行爲ニ關スル破産ノ效力

第五十三條 破産者カ破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル財産ニ關シテ爲シタル法律行爲ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

破産者カ破産宣告ノ日ニ於テ爲シタル法律行爲ハ破産

宣告後ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス
第五十四條 破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル財産ニ關シ破産者ノ法律行為ニ因ラスシテ權利ヲ取得スルモ其ノ取得ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス
 前條第二項ノ規定ハ前項ノ取得ニ之ヲ準用ス
第五十五條 不動産又ハ船舶ニ關シ破産宣告前ニ生シタル登記原因ニ基キ破産宣告ノ後爲シタル登記又ハ不動産登記法第二條第一號ノ規定ニ依ル假登記ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ登記權利者カ破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ爲シタル登記又ハ假登記ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ規定ハ權利ノ設定、移轉又ハ變更ニ關スル登録又ハ假登録ニ付テ準用ス
第五十六條 破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知ラスシテ破産者ニ爲シタル辨濟ニ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得
 破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知リテ破産者ニ爲シタル辨濟ハ破産財團カ受ケタル利益ノ限度ニ於テ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得
第五十七條 爲替手形ノ振出人又ハ裏書人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂人又ハ豫備支拂人カ其ノ事實ヲ知ラスシテ引受又ハ支拂ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債權ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

フコトヲ得
 前項ノ規定ハ小切手及金錢其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス
第五十八條 前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ破産宣告ノ公告後ニ在リテハ其ノ事實ヲ知ラサルモノト推定ス
第五十九條 雙務契約ニ付破産者及其ノ相手方カ破産宣告ノ當時未タ共ニ其ノ履行ヲ完了セサルトキハ破産管財人ハ其ノ選擇ニ從ヒ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ破産者ノ債務ヲ履行シテ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ相手方ハ破産管財人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ契約ノ解除ヲ爲スカ又ハ債務ノ履行ヲ請求スルカヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得
 破産管財人カ其ノ期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス
第六十條 前條ノ規定ニ依リ契約ノ解除アリタルトキハ相手方ハ損害ノ賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 破産者ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ現存セサルトキハ其ノ價格ニ付財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
第六十一條 取引所ノ相場アル商品ノ賣買ニ付一定ノ日

時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ時期カ破産宣告後ニ到來スヘキトキハ契約ノ解除アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ損害賠償ノ額ハ履行地又ハ其ノ地ノ相場ノ標準ト爲ルヘキ地ニ於ケル同種ノ取引ニシテ同一ノ時期ニ履行スヘキモノノ相場ト賣買ノ代價トノ差額ニ依リテ之ヲ定ム
 前條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル損害賠償ニ付テ準用ス
 第一項ノ場合ニ付取引所ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ其ノ定ニ從フ
第六十二條 第五十九條第二項ノ規定ハ民法第六百二十一條、第六百三十一條又ハ第六百四十二條第一項ノ規定ニ依リ相手方又ハ破産管財人カ有スル解除權ノ行使ニ付テ準用ス
第六十三條 貸貸人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ借賃ノ前拂又ハ借賃ノ債權ノ處分ハ破産宣告ノ時ニ於ケル當期及次期ニ關スルモノヲ除クノ外之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス
 前項ノ規定ニ依リ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得サルニ因リテ損害ヲ受ケタル者ハ其ノ損害賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 前二項ノ規定ハ地上權及永小作權ニ付テ準用ス

第六十四條 破産者カ請負契約ニ因リ仕事ヲ爲ス義務ヲ負擔スルトキハ破産管財人ハ必要ナル材料ヲ供シ破産者ヲシテ其ノ仕事ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ仕事カ破産者自ラ爲スコトヲ要セサルモノナルトキハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ破産者カ其ノ相手方ヨリ受ケヘキ報酬ハ破産財團ニ屬ス
第六十五條 委任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ受任者カ破産宣告ヲ通知ヲ受ケス且破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ委任事務ヲ處理シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債權ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
第六十六條 交互計算ハ當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ終了ス此ノ場合ニ於テハ各當事者ハ計算ヲ閉鎖シ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ請求權ハ破産者ノ子有スルトキハ破産財團ニ屬シ相手方ノ子有スルトキハ破産債權トス
第六十七條 數人共同シテ財産權ヲ有スル場合ニ於テ共有者ノ中破産ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ分割ヲ爲サル定アルトキト雖破産手續ニ依ラスシテ其ノ分割ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ他ノ共有者ハ相當ノ價金ヲ拂ヒテ破産者ノ持分ヲ取得スルコトヲ得

破産法 實體規定 法律行為ニ關スル破産ノ效力

第六十八條 民法第七百九十六條第二項第三項及第七百九十七條ノ規定ハ配偶者ノ財産ヲ管理スル者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ、同法第八百九十七條ノ規定ハ親權ヲ行フ者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 破産財團ニ屬スル財産ニ關シ破産宣告ノ當時繫屬スル訴訟ハ破産管財人又ハ相手方ニ於テ之ヲ受継クコトヲ得第四十七條第七號ニ掲クル請求權ニ關スル訴訟ニ付亦同シ

第七十條 破産債權ニ付破産財團ニ屬スル財産ニ對シ爲シタル強制執行、假差押又ハ假處分ハ破産財團ニ對シテハ其ノ效力ヲ失フ但シ強制執行ニ付テハ破産管財人ニ於テ破産財團ノ爲其ノ手續ヲ續行スルコトヲ妨ケス

前項但書ノ規定ニ依リ破産管財人カ強制執行ノ手續ヲ續行スルトキハ費用ハ之ヲ財團債權トシ強制執行ニ對スル第三者ノ異議ノ訴ニ付テハ破産管財人ヲ被告トス

前二項ノ規定ハ一般ノ先取特權者カ破産財團ニ屬スル財産ニ對シ爲シタル競賣手續ニ之ヲ準用ス

第七十一條 破産財團ニ屬スル財産ニ對シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル滯納處分ヲ爲シタル場合ニ於テ

ハ破産ノ宣告ハ其ノ處分ヲ續行ヲ妨ケス

破産財團ニ屬スル財産ニ關シ破産宣告ノ當時行政廳ニ繫屬スル事件アルトキハ其ノ手續ハ受繼又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七章 否認權

第七十二條 左ニ掲クル行爲ハ破産財團ノ爲之ヲ否認スルコトヲ得

一 破産者カ破産債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ハ當時破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

二 破産者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後ニ爲シタル擔保ノ供與、債務ノ消滅ニ關スル行爲其ノ他破産債權者ヲ害スル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ハ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三 前號ノ行爲ニシテ破産者ノ親族、戸主、家族又ハ同居者ヲ相手方トスルモノ但シ相手方カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前三十日内ニ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ

消滅ニ關スル行爲ニシテ破産者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ破産者ノ義務ニ屬セサルモノ但シ債權者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコト又ハ破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前六个月内ニ爲シタル無償行爲及之ト同視スヘキ有償行爲

第七十三條 前條ノ規定ハ破産者ヨリ手形ノ支拂ヲ受ケタル者カ其ノ支拂ヲ受ケサレハ債務者ノ一人又ハ數人ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘカリシ場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テ最終ノ償還義務者又ハ手形ノ振出ヲ委託シタル者カ振出ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ破産管財人ハ之ヲシテ破産者カ支拂ヒタル金額ヲ償還セシムルコトヲ得

第七十四條 支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後權利ノ設定、移轉又ハ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルニ必要ナル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ行爲カ權利ノ設定、移轉又ハ變更アリタル日ヨリ十五日ヲ經過シタル後惡意ニテ爲シタルモノナルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得但シ登記及登錄ニ付テハ假登記又ハ假登錄アリタ

ル後本登記又ハ本登錄ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ權利取得ノ效力ヲ生スル登錄ニ付之ヲ準用ス

第七十五條 否認權ハ否認セムトスル行爲ニ付執行力アル債務名義アルトキ又ハ其ノ行爲カ執行行爲ニ基クモノナルトキト雖之ヲ行フコトヲ妨ケス

第七十六條 否認權ハ訴又ハ抗辯ニ依リ破産管財人ノ行フ

第七十七條 否認權ノ行使ハ破産財團ヲ原狀ニ復セシム

第七十二條第五號ニ掲クル行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ相手方カ行爲ノ當時善意ナリシトキハ其ノ現ニ受クル利益ヲ償還スルヲ以テ足ル

第七十八條 破産者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ其ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ反對給付ニ因リテ生シタル利益カ現存スルトキハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

反對給付ニ因リテ生シタル利益カ現存セザルトキハ相手方ハ其ノ價額ノ償還ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得反對給付ノ價額カ現存スル利益ヨリ大ナル場合ニ於テ其ノ差額ニ付亦同シ

破産法 實體規定 否認權

第七十九條 破産者ノ行為カ否認セラレタル場合ニ於テ相手方カ其ノ受ケタル給付ヲ返還シ又ハ其ノ價額ヲ償還シタルトキハ相手方ノ債權ハ之ニ因リテ原状ニ復ス

第八十條 第七十二條、第七十三條及前二條ノ規定ハ相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ被相續人、相續人、相續財産管理人及遺言執行者カ相續財産ニ關シテ爲シタル行為並前戸主カ第十三條ノ財産ニ關シテ爲シタル行為ニ之ヲ準用ス

第八十一條 相續財産ニ對シ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ受遺者ニ對スル辨濟其ノ他債務ノ消滅ニ關スル行為カ其ノ債權ニ先ツ債權ヲ有スル破産債權者ヲ害スルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得

第八十二條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第八十條ニ規定スル行為カ否認セラレタルトキハ相續債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後否認セラレタル行為ノ相手方ニ其ノ權利ノ價額ニ應ジテ殘餘財産ヲ分配スルコトヲ要ス

第八十三條 左ノ場合ニ於テハ否認權ハ轉得者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

一 轉得者カ轉得ヲ當時各其ノ前者ニ對スル否認ノ原因アルコトヲ知リタルトキ

二 轉得者カ破産者ノ親族、戸主、家族又ハ同居者ナ

ルトキ但シ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對スル否認ノ原因アルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三 轉得者カ無償行為又ハ之ト同視スヘキ有償行為ニ因リテ轉得シタル場合ニ於テ各其ノ前者ニ對シ否認ノ原因アルトキ

第七十七條 第二項ノ規定ハ前項第三號ノ規定ニ依リ否認權ノ行使アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十四條 破産宣告ノ日ヨリ一年前ニ爲シタル行為ハ支拂停止ノ事實ヲ知リタルコトヲ理由トシテ之ヲ否認スルコトヲ得

第八十五條 否認權ハ破産宣告ノ日ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス行為ノ日ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第八十六條 民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ破産債權者ノ提起シタル訴訟カ破産宣告ノ當時繫屬スルトキハ其ノ訴訟手續ハ受繼又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十條 破産ノ宣告ハ破産者ニ屬セサル財産ヲ破産財團ヨリ取戻ス權利ニ影響ヲ及ボサス

第八十八條 破産宣告前破産者ニ財産ヲ讓渡シタル者ハ擔保ノ目的ヲ以テシタルコトヲ理由トシテ其ノ財産ヲ

取戻スコトヲ得

第八十九條 賣主カ賣買ノ目的タル物品ヲ買主ニ發送シタル場合ニ於テ買主カ未タ代金ノ全額ヲ辨濟セス且到達地ニ於テ其ノ物品ヲ受取ラサル間ニ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賣主ハ其ノ物品ヲ取戻スコトヲ得但シ破産管財人カ代金ノ全額ヲ支拂ヒテ其ノ物品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ妨ケス

第九十條 前項ノ規定ハ第五十九條ノ適用ヲ妨ケス

第九十一條 破産者カ破産宣告前取戻權ノ目的タル財産ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ取戻權者ハ反對給付ノ請求權ヲ移轉ヲ請求スルコトヲ得破産管財人カ取戻權ノ目的タル財産ヲ讓渡シタル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ破産管財人カ反對給付ヲ受ケタルトキハ取戻權者ハ破産管財人カ反對給付トシテ受ケタル財産ノ給付ヲ請求スルコトヲ得

第八章 別除權

第九十二條 破産財團ニ屬スル財産ノ上ニ存スル特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ目的タル財産ニ付別除權ヲ有ス

第九十三條 破産財團ニ屬スル財産ノ上ニ存スル留置權

ニシテ商法ニ依ルモノハ破産財團ニ對シテハ之ヲ特別ノ先取特權ト看做ス此ノ先取特權ハ他ノ特別ノ先取特權ニ後ル

前項ニ規定スルモノヲ除ク外留置權ハ破産財團ニ對シテハ其ノ效力ヲ失フ

第九十四條 數人共同シテ財産權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ一人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ共有ニ關スル債權ヲ有スル他ノ共有者ハ分割ニ因リテ破産者ニ歸スヘキ共有財産ノ部分ニ付別除權ヲ有ス

第九十五條 別除權ハ破産手續ニ依ラスシテ之ヲ行フヲ受ケタルコト能ハサル債權額ニ付テノミ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ別除權ヲ拋棄シタル債權額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第九十七條 破産財團ニ屬セサル破産者ノ財産ノ上ニ特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ權利ヲ行使ニ依リテ辨濟ヲ受ケタルコト能ハサル債權額ニ付テノミ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ其ノ權利ヲ行フコトヲ得華族世襲財産ヲ差押フル權利ヲ有スル者及破産者カ更ニ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ前ノ破産ニ付破産債權ヲ有スル者亦同シ

前項ニ掲ケル權利ヲ有スル者ニハ第二編中別除權ニ關

第九十八條 破産債権者カ破産宣告ノ當時破産者ニ對シテ債務ヲ負擔スルトキハ破産手續ニ依ラズシテ相殺ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 破産債権者ノ債権カ破産宣告ノ時ニ於テ期限附若ハ解除條件附ナルトキ又ハ第二十二條ニ掲ケルモノナルトキト雖相殺ヲ爲スコトヲ妨クス債務カ期限附若ハ條件附ナルトキ又ハ將來ノ請求權ニ關スルモノナルトキ亦同シ

第一百條 停止條件附債権又ハ將來ノ請求權ヲ有スル者カ其ノ債務ヲ辨濟スル場合ニ於テハ後日相殺ヲ爲ス爲其ノ債権額ノ限度ニ於テ辨濟額ノ寄託ヲ請求スルコトヲ得

第一百一條 解除條件附債権ヲ有スル者カ相殺ヲ爲スコトキハ其ノ相殺額ニ付擔保ヲ供シ又ハ寄託ヲ爲スコトヲ要ス

第一百二條 第十八條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條ノ規定ハ破産債権者ノ債権ニ之ヲ準用ス

第一百三條 破産債権者カ貸借人ナルトキハ破産宣告ノ時ニ於ケル當期及次期ノ借貸ニ付相殺ヲ爲スコトヲ得數金アルトキハ其ノ後ノ借貸ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ地代及小作料ニ付之ヲ準用ス

第一百四條 左ノ場合ニ於テハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 破産債権者カ破産宣告ノ後破産財團ニ對シテ債務ヲ負擔シタルトキ
- 二 破産者ノ債務者カ破産宣告ノ後他人ノ破産債権ヲ取得シタルトキ
- 三 破産者ノ債務者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リテ破産債権ヲ取得シタルトキ但シ其ノ取得力法定ノ原因ニ基クトキ、債務者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リタル時ヨリ前ニ生シタル原因ニ基クトキ又ハ破産宣告ノ時ヨリ一年前ニ生シタル原因ニ基クトキハ此ノ限ニ在ラス

第二編 手續規定

第一章 總則

第一百五條 破産事件ハ債務者カ營業者ナルトキハ其ノ主タル營業所ノ所在地、外國ニ主タル營業所ヲ有スルトキハ日本ニ於ケル主タル營業所ノ所在地、營業者ニ非サルトキ又ハ營業所ヲ有セザルトキハ其ノ普通裁判籍ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一百六條 相續財產ニ關スル破産事件ハ相續開始地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一百七條 前二條ノ規定ニ依ル管轄裁判所ナキトキハ財產ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

債権ハ裁判上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル地ヲ以テ其ノ所

在地ト看做ス

前二項ノ規定ニ依リ二以上ノ裁判所カ管轄權ヲ有スル場合ニハ是レ破産ノ申立アリタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一百八條 破産手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民事訴訟法ヲ準用ス

第一百九條 破産事件ニ關シテハ裁判所ハ互ニ法律上ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

第一百十條 破産手續ニ關スル裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ破産事件ニ關シ必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第一百十一條 破産手續ニ關スル裁判ハ職權ヲ以テ其ノ送達ヲ爲スコトヲ要ス

第一百十二條 破産手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本編ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外其ノ裁判ニ付利害關係者有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス

第一百十三條 抗告裁判所ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス但シ裁判所ハ其ノ決定ヲ以テ直ニ效力ヲ生スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

抗告裁判所ノ破産ノ宣告ハ前項ノ規定ニ拘ラス直チニ

其ノ效力ヲ生ス

第一百四條 破産手續ニ關スル申立、陳述及抗告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第一百五條 本編ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ官報及登記事項ノ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス

公告ハ最終ノ掲載アリタル日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第一百六條 裁判所ノ管轄内ニ前條第一項ノ新聞紙ナキトキハ公告ハ裁判所及破産者ノ營業所若ハ住所ノ所在地ノ出張所又ハ其ノ管轄内ノ市役所、町村役場若ハ之ニ準スヘキ公署ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ公告ハ揭示ノ日ヨリ三日ヲ經過シタル後其ノ效力ヲ生ス

第一百七條 本編ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百八條 本編ノ規定ニ依リ公告ノ外送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ公告ハ一切ノ關係人ニ對スル送達ノ效力ヲ有ス

第一百九條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ遲滞ナク囑託書ニ破産決定書ノ贈本ヲ添附シテ破産ノ登記ヲ各營業所又ハ各事務所ノ所

在地ノ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
第二十條 裁判所カ破産者ニ關スル登記アルコトヲ知
 リタルトキハ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ破産決定書
 ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコト
 ヲ要ス破産財團ニ屬スル權利ニシテ登記シタルモノア
 ルコトヲ知リタルトキ亦同シ
第二十一條 前二條ノ規定ハ破産取消、破産廢止又ハ
 強制和議取消ノ決定カ確定シタル場合及破産終結ノ決
 定アリタル場合ニ之ヲ準用ス破産管財人カ破産ノ登記
 アリタル權利ヲ破産財團ヨリ拋棄シタル場合ニ於テ登
 記囑託ノ申立アリタルトキ亦同シ
第二十二條 登記所カ前三條ノ規定ニ依リテ登記ノ囑
 託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要
 ス
前項ノ登記ニ付テハ 登録稅ヲ課セス
第二十三條 登記ノ原因タル行爲カ否認セラレタルト
 キハ破産管財人ハ否認ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス登記カ
 否認セラレタルトキ亦同シ
第二十一條及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ
準用ス
第二十四條 前四條ノ規定ハ破産財團ニ屬スル權利ニ
 シテ登録シタルモノニ之ヲ準用ス
第二十五條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合

ニ於テ其ノ法人ノ設立又ハ目的タル事業ニ付官廳ノ許
 可アリタルモノナルトキハ裁判所カ破産ノ宣告アリタ
 ル旨ヲ主務官廳ニ通知スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ破産取消、破産廢止若ハ強制和議取消ノ
決定カ確定シ又ハ破産終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ
準用ス
第二章 破産宣告
第二十六條 債務者カ支拂ヲ爲スコト能ハサルトキハ
 裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス
 債務者カ支拂ヲ停止シタルトキハ支拂ヲ爲スコト能ハ
 サルモノト推定ス
第二十七條 法人ニ對シテハ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完
 済スルコト能ハサル場合ニ於テモ亦破産ノ宣告ヲ爲ス
 コトヲ得
前項ノ規定ハ合名會社及合資會社ノ存立中ハ之ヲ適用
セス
第二十八條 法人ニ對シテハ其ノ解散ノ後ト雖殘餘財
 産ノ引渡又ハ分配カ終了セサル間ハ破産ノ申立ヲ爲ス
 コトヲ得
第二十九條 相續財産ヲ以テ相續債權者及受遺者ニ對
 スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立
第三十條 破産ノ申立又ハ破産ノ宣告アリタル後相續

カ開始シタルトキハ破産手續ハ相續財産ニ對シテ之ヲ
 續行ス
 破産ノ申立又ハ破産ノ宣告アリタル後ニ於テ外國籍ノ
 喪失ハ破産手續ニ關シテハ其ノ效力ヲ有セス
第三十一條 相續財産ニ對シテハ民法第四百二十二條ノ
 規定ニ依リテ財產分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル間ニ限リ
 破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得其ノ間ニ限定承認又ハ財產
 分離アリタル場合ニ於テハ相續債權者及受遺者ニ對ス
 ル辨濟カ未タ終了セサル間亦同シ
第三十二條 債權者又ハ債務者ハ破産ノ申立ヲ爲スコ
 トヲ得
 債權者カ破産ノ申立ヲ爲スコトキハ其ノ債權ノ存在及破
 産ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス
第三十三條 民法ニ依リテ設立シタル法人又ハ產業組
 合ニ對シテハ理事、合名會社合資會社又ハ株式合資會
 社ニ對シテハ無限責任社員、株式會社又ハ相互保險會
 社ニ對シテハ取締役ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 前項ニ規定スル法人ニ對シテハ清算人モ亦破産ノ申立
 ヲ爲スコトヲ得
第三十四條 理事、無限責任社員、取締役又ハ清算人
 ノ全員カ破産ノ申立ヲ爲ササル場合ニ於テハ破産ノ原
 因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス
第三十五條 前二條ノ規定ハ第三十三條ニ規定スル

法人以外ノ法人ニ之ヲ準用ス
第三十六條 相續財産ニ對シテハ相續債權者及受遺者
 ノ外相續人、相續財産管理人及遺言執行者モ亦破産ノ
 申立ヲ爲スコトヲ得
 相續財産管理人、遺言執行者又ハ限定承認者ハ財產分
 離アリタル場合ニ於テハ相續人カ相續財産ヲ以テ相續
 債權者及受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサル
 コトヲ發見シタルトキハ直ニ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ
 要ス
 相續人、相續財産管理人又ハ遺言執行者カ破産ノ申立
 ヲ爲スコトキハ破産ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要
 ス
第三十七條 破産申立ノ當時既ニ外國ニ於テ破産ノ宣
 告アリタルトキハ破産申立人ハ破産ノ原因タル事實ヲ
 疏明スルコトヲ要セス
第三十八條 破産申立人カ債權者ニ非サルトキハ申立
 ト同時ニ財產ノ概況ヲ示スヘキ書面並債權者及債務者
 ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス申立ト同時ニ提出スル
 書面ハサルトキハ爾後遲滯ナク之ヲ提出スルコトヲ
 要ス
第三十九條 債權者カ破産ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ
 破産手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫
 納アルコトヲ要ス豫納ナキトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ

棄却スルコトヲ得
費用ノ豫納ニ關スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四百十條 破産申立人カ債權者ニ非サルトキハ破産手續ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス破産申立人カ債權者ナル場合ニ於テ費用ノ豫納ナキニ拘ラス裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ豫納金カ不足ナルニ至リタルトキ及裁判所カ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ亦同シ

第四百十一條 破産決定書ニハ破産宣告ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス

第四百十二條 裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ破産管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

- 一 債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ破産宣告ノ日ヨリ二週間以上四月以下ナルコトヲ要ス
- 二 第一回ノ債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ハ破産宣告ノ日ヨリ一月以内ナルコトヲ要ス
- 三 債權調査ノ期日但シ其ノ期日ト債權届出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス

前項第二號及第三號ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ妨ケス

第四百十三條 裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ直

ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

- 一 破産決定ノ主文
- 二 破産管財人ノ氏名及住所
- 三 前條ノ規定ニ依リ定メタル期間及期日
- 四 破産者ノ債務者及破産財團ニ屬スル財產ノ所持者ハ破産者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ其ノ財產ヲ交付スヘカヲサル旨及債務ヲ負擔スルコト又ハ其ノ財產ヲ所持スルコト所持者カ別除權ヲ有スルトキハ其ノ債權ヲ有スルコトヲ一定ノ期間内ニ破産管財人ニ届出ツヘキ旨ノ命令

知レタル債權者、債務者及財產所持者ニハ前項ニ掲ケル事項ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ第一號第二號乃至第四號ニ掲ケル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一號第四號ノ届出ヲ怠リタル者ハ之ニ因リテ破産財團ニ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第四百十四條 裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ檢事ニ通知スルコトヲ要ス

第四百十五條 裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認ムルトキハ破産ノ宣告ト同時ニ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産決定ノ主文並破産廢止ノ決定ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ破産廢止ノ決定ノ取消カ確定シタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス

第四百十六條 前條ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、産業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セス破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納アリタル場合亦同シ

第四百十七條 破産者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ居住地ヲ離ルルコトヲ得ス

第四百十八條 裁判所ハ必要ト認ムルトキハ破産者ノ引致ヲ命スルコトヲ得

引致ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ爲ス

第四百十九條 破産者カ逃走シ又ハ財產ヲ隱匿若ハ毀棄スル虞アルトキハ裁判所ハ其ノ監守ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス檢事ハ破産者ノ居住地ヲ管轄スル警察官署ニ命シテ監守ヲ執行セシム

第四百二十條 監守ヲ命セラレタル破産者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ外人ト面接又ハ通信スルコトヲ得

第四百二十一條 監守ノ必要カ止ミタルトキハ裁判所ハ破産者若ハ破産管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ監守

ノ決定ヲ取消スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス檢事ハ警察官署ニ命シテ監守ヲ解カシム

第四百二十二條 前五條ノ規定ハ破産者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者並支配人ニ付之ヲ準用ス相續財產ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戶主並其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ

第四百二十三條 破産者、其ノ代理人並其ノ理事及之ニ準スヘキ者ハ破産管財人、監査委員又ハ債權者集會ノ請求ニ因リ破産ニ關シ必要ナル説明ヲ爲スコトヲ要ス相續財產ニ對スル破産ニ於テ相續人、前戶主、相續財產管理人、遺言執行者並相續人及前戶主ノ代理人亦同シ

前項ノ規定ハ前二前項ニ規定スル資格ヲ有シタル者ニ之ヲ準用ス

第四百二十四條 破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖債務者及第五百二十二條ニ規定スル者ノ引致又ハ監守ヲ命スルコトヲ得

第四百二十五條 破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産財團ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消
 前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
 第五百十六條 破産取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ
 裁判所ハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス
 第四百十三條第二項、第四百四十四條、第五百十一條第
 二項、第五百五十二條及第三百五十五條ノ規定ハ前項ノ
 場合ニ之ヲ準用ス
 第三章 破産管財人
 第五百十七條 破産管財人ハ裁判所之ヲ選任ス
 第五百十八條 破産管財人ハ一人トス但シ裁判所必要ト
 認ムルトキハ數人ヲ選任スルコトヲ得
 第五百十九條 裁判所ハ破産管財人ニ其ノ選任ヲ證スル
 書面ヲ交付スルコトヲ要ス
 破産管財人ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ利害關係人ノ請求
 アルトキハ前項ノ書面ヲ示スコトヲ要ス
 第六十條 破産管財人ハ正當ノ事由アルニ非サレバ其
 ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス
 破産管財人カ其ノ任務ヲ辭セムトスルトキハ裁判所ニ
 申立ヲ爲スコトヲ要ス
 第六十一條 破産管財人ハ裁判所ノ監督ニ屬ス
 第六十二條 破産管財人ニ關スル訴訟ニ付テハ破産管財人
 ナリテ原告又ハ被告トス

第六十三條 破産管財人數人アルトキハ共同シテ其ノ
 職務ヲ行フ但シ裁判所ノ許可ヲ得テ職務ヲ分掌スル
 破産管財人數人アルトキハ第三者ノ意思表示ハ其ノ
 人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル
 第六十四條 破産管財人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以
 テ其ノ職務ヲ行フコトヲ要ス
 破産管財人カ前項ノ注意ヲ怠リタルトキハ其ノ破産管
 財人ハ利害關係人ニ對シテ連帶シテ損害賠償ノ責任
 第六十五條 破産管財人ハ臨時故障アル場合ニ於テ其
 ノ職務ヲ行ハシムル爲自己ノ責任ヲ以テ豫メ代理人ヲ
 選任スルコトヲ得
 第六十六條 破産管財人ハ費用ノ前拂及報酬ヲ受クル
 コトヲ得其ノ額ハ裁判所之ヲ定ム
 第六十七條 裁判所ハ債權者集會ノ決議若ハ監査委員
 ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産管財人ヲ解任スルコ
 トヲ得此ノ場合ニ於テハ破産管財人ヲ審訊スルコトヲ
 要ス
 第六十八條 破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ破
 産管財人又ハ其ノ相續人ハ遲滞ナク債權者集會ニ計算
 ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

破産者ノ破産債權者又ハ後任ノ破産管財人カ債權者集
 會ニ於テ計算ニ付異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シ
 タルモノト看做ス
 破産管財人ハ利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲計算報告書
 及監査委員ノ意見書ヲ債權者集會ノ日ヨリ三日前ニ裁
 判所ニ提出スルコトヲ要ス
 第六十九條 破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テ急迫
 ノ事情アルトキハ破産管財人又ハ其ノ相續人ハ後任ノ
 破産管財人又ハ破産者カ財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ
 至ル迄必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス
 第四章 監査委員
 第七十條 監査委員ヲ置クカ否ハ第一回ノ債權者集會
 於テ之ヲ議決スルコトヲ要ス但シ後ノ債權者集會ニ
 於テ其ノ決議ヲ變更スルコトヲ得
 第七十一條 監査委員ハ三人以上トシ債權者集會ニ於
 テ之ヲ選任ス
 監査委員ノ選任ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要
 第七十二條 監査委員ノ職務ノ執行ハ過半數ヲ以テ之
 ヲ決ス
 特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス
 第七十三條 各監査委員ハ何時ニテモ破産管財人ニ對
 シテ破産財團ニ關スル報告ヲ求メ又ハ破産財團ノ狀況

子調査スルコトヲ得
 第七十四條 監査委員ハ何時ニテモ債權者集會ノ決議
 ナリテ之ヲ解任スルコトヲ得
 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ
 因リ監査委員ヲ解任スルコトヲ得
 第七十五條 第六十四條及第六十六條ノ規定ハ監
 査委員ニ之ヲ準用ス
 第五章 債權者集會
 第七十六條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ
 申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所之ヲ召集ス届出ヲ爲
 シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以
 上ニ當ル破産債權者ノ申立アリタルトキ亦同シ
 第七十七條 債權者集會ノ期日及會議ノ目的タル事項
 ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要ス
 債權者集會ノ延期又ハ續行ニ付言渡アリタルトキハ送
 達又ハ公告ヲ爲スコトヲ要セス
 第七十八條 債權者集會ハ裁判所之ヲ指揮ス
 第七十九條 債權者集會ノ決議ニハ議決權ヲ行フコト
 ヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ
 其ノ者ノ總債權ノ半額ヲ超ユル者ノ同意アルコトヲ要
 債權者集會ノ決議ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其
 ノ議決權ヲ行フコトヲ得ス

第百八十條 前條ノ規定ニ依リ決議ヲ爲スコト能ハサルトキト雖決議スヘキ事項ニ付同意シタル者ノ債權額ノ半額ヲ超ユルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ決議アリタルモノト看做スコトヲ得

前項ノ決定ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要ス其ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百八十一條 破産債權者ハ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第百八十二條 破産債權者ハ確定債權額ニ應ジテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

未確定債權、停止條件附債權、將來ノ請求權又ハ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ニ付破産管財人又ハ破産債權者ノ異議アルトキハ裁判所ハ議決權ヲ行ハシムヘキカヲ定ム

裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ何時ニテモ前項ノ規定ニ依ル決定ヲ變更スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル決定ハ其ノ言渡アリタルトキハ送達ヲ爲スコトヲ要セス其ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百八十三條 債權者集會ノ決議ハ之ヲ以テ監査委員ノ

同意ニ代フルコトヲ得

債權者集會ノ決議力監査委員ノ意見ト異ナルトキハ其ノ決議ニ從フ

第百八十四條 債權者集會ノ決議力破産債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキハ裁判所ハ破産管財人、監査委員若ハ破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ決議ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

議決權ヲ有セザリシ破産債權者力前項ノ申立ヲ爲スニハ其ノ破産債權者タルコトヲ証明スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依ル禁止決定ハ其ノ言渡アリタルトキハ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第六章 破産財團ノ管理及換價

第百八十五條 破産管財人ハ就職ノ後直ニ破産財團ニ屬スル財産ノ占有及管理ニ著手スルコトヲ要ス

第百八十六條 破産管財人必要ト認ムルトキハ裁判所書記、執達吏又ハ公證人ヲシテ破産財團ニ屬スル財産ニ封印ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ封印ヲ爲シタル者ハ圖書ヲ作ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ封印除去ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百八十七條 裁判所書記ハ破産宣告ノ後直ニ破産者ノ財産ニ關スル帳簿ヲ閉鎖シ之ニ署名捺印シ且圖書ヲ作リ之ニ帳簿ノ現狀ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十八條 破産管財人ハ遲滞ナク裁判所書記、執達

吏又ハ公證人ノ立會ヲ以テ破産財團ニ屬スル一切ノ財産ノ價額ヲ評定スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ遲滞ノ虞アル場合ヲ除ク外破産者ノ立會ヲ求ムルコトヲ要ス

第百八十九條 破産管財人ハ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

破産管財人ハ財産目錄及貸借對照表ノ謄本ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス封印ニ關スル圖書ニ付亦同シ

利害關係人ハ前項ニ規定スル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第百九十條 裁判所ハ通信官署又ハ公衆通信取扱所ニ對シ破産者ニ宛テタル郵便物又ハ電報ヲ破産管財人ニ配達スヘキ旨ヲ囑託スルコトヲ要ス

破産管財人ハ其ノ受取りタル前項ノ郵便物又ハ電報ノ開披ヲ爲スコトヲ得

破産者ハ前項ノ郵便物又ハ電報ノ閱覽ヲ求メ且破産財團ニ關セサルモノノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第百九十一條 裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ破産管財人ノ意見ヲ聽キ前條第一項ノ囑託ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

破産取消告ハ破産廢止ノ決定力確定シタルトキ又ハ破産終結ノ決定アリタルトキハ裁判所ハ前條第一項ノ囑

託ヲ取消スコトヲ要ス

第百九十二條 第一回ノ債權者集會前ニ於テハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ破産者及之ニ扶養セラルル者ニ扶助料ヲ與ヘ又ハ破産者ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ保管方法ハ裁判所之ヲ定ム

第百九十三條 破産管財人ハ破産宣告ニ至リタル事情並破産者及破産財團ニ關スル經過及現狀ニ付第一回ノ債權者集會ニ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十四條 第一回ノ債權者集會ニ於テハ扶助料ノ給與、營業ノ廢止又ハ繼續及高價品ノ保管方法ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十五條 破産管財人ハ別除權者ニ對シ其ノ權利ノ目的タル財産ヲ示スヘキコトヲ求ムルコトヲ得

破産管財人ハ前項ノ財産ヲ評價セムトスルトキハ別除權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百九十六條 一般ノ債權調査ノ終了前ニ於テハ破産管財人ハ破産財團ノ換價ヲ爲スコトヲ得ス一般ノ債權調査ノ終了前強制和議ノ提供アリタル場合ニ於テ其ノ落著ニ至ル迄亦同シ

破産財團ニ屬スル財産ニシテ遲滞ナク之ヲ換價スルニ非サレハ破産財團ニ損害ヲ生スル虞アルモノハ前項ノ

規定ニ拘ラズ監督委員ノ同意、監督委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ破産管財人其ノ換價ヲ爲スコトヲ得

第九十七條 破産管財人左ニ掲クル行爲ヲ爲スニハ監督委員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ第七號乃至第十四號ニ掲クル行爲ニ付千圓以上ノ價額ヲ有スルモノニ關シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 不動産ニ關スル物權、登記スヘキ日本船舶及外國船舶ノ任意賣却

二 鐵業權、漁業權、特許權、意匠權、實用新案權及著作權ノ任意賣却

三 營業ノ讓渡

四 商品ノ一括賣却

五 借財

第九條 第二項ノ規定ニ依ル相續拋棄ノ承認、第十條ノ規定ニ依ル包括遺贈拋棄ノ承認及第十一條第一項ノ規定ニ依ル特定遺贈ノ拋棄

七 動産ノ任意賣却

八 債權及有價證券ノ讓渡

第九十九條 第一項ノ規定ニ依ル履行ノ請求

十一 和解及仲裁契約

十二 權利ノ拋棄

十三 財團債權、取戻權及別除權ノ承認

第十四條 別除權ノ目的ヲ受戻スル者ハ其ノ別除權ノ行使ニ依リ監督委員ノ同意ヲ要スル行爲ヲ爲スノ必要アルトキハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

監督委員ヲ置カサル場合ニ於テハ破産管財人ハ債權者集會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但シ急迫ノ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルヲ以テ足ル

第九十九條 前二條ノ場合ニ於テ破産管財人ハ遲滯ノ虞アル場合ヲ除ク外破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第二百條 破産管財人カ第九十七條ニ掲クル行爲ヲ爲スニ付監督委員ノ同意ヲ得タルトキト雖裁判所ハ破産者又申立ニ因リ其ノ行爲ノ執行ノ中止ヲ命ジ且其ノ行爲ニ關スル決議ヲ爲サシムル爲債權者集會ヲ召集スルコトヲ得

第二百一條 破産管財人カ第九十六條乃至第九十八條ノ規定ニ違反シ又ハ前條ノ規定ニ依ル執行中止ノ命令ニ違反シタルトキト雖之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百二條 第九十七條第一號及第二號ニ掲クルモノノ換價ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百三條 破産管財人ハ民事訴訟法ニ依リ別除權ノ目的タル財産ノ換價ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別

除權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ別除權者ノ受タヘキ金額カ未タ確定セザルトキハ破産管財人ハ代金ヲ別ニ寄託スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ別除權ハ代金ノ上ニ存ス

第二百四條 別除權者カ法律ニ定メタル方法ニ依リテシテ別除權ノ目的ヲ處分スル權利ヲ有スルトキハ裁判所ハ破産管財人ノ申立ニ因リ別除權者カ其ノ處分ヲ爲スヘキ期間ヲ定ム

別除權者カ前項ノ期間内ニ處分ヲ爲サザルトキハ前項ノ權利ヲ失フ

第二百五條 破産管財人ハ債權者集會ノ定ムル所ニ依リ債權者集會又ハ監督委員ニ破産財團ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百六條 破産管財人カ其ノ寄託シタル貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ返還ヲ求ムルニハ監督委員ノ同意、監督委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス但シ債權者集會ニ於テ別段ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ニ依ル

破産管財人カ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テ受寄者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ辨濟ハ其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ破産管財人カ受寄者ヲシテ支拂其ノ他ノ給付ヲ爲サシムル爲證券ヲ發行スル場合ニ之ヲ準用

第二百七條 商法第九十二條ノ規定ハ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス相互保險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ基金ノ支拂ニ付亦同シ

第二百八條 無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産管財人ハ損失分擔ノ割合ニ應ジ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ必要ナル金額ヲ社員ニ賦課スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ社員中ニ無資力者アルトキハ其ノ負擔スヘキ金額ハ他ノ社員ノ負擔ス

第二百九條 前條ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ第八十九條第二項ノ規定ニ依リ財産目錄及貸借對照表ノ謄本ヲ裁判所ニ提出シタル後直ニ計算表ヲ作り之ニ各社員ノ氏名、住所及負擔額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百十條 破産管財人ハ前條ノ計算表ニ主務官廳カ認證シタル定款ノ謄本ヲ添附シ之ヲ裁判所ニ提出シ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

破産ノ宣告ヲ受ケタル相互保險會社ニ關スル登記簿カ破産裁判所タル區裁判所ノ出張所ニ在ルトキハ登記簿カ交付シタル社員名簿ノ謄本ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

第二百十一條 前條ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ計算表ニ記載シタル社員ヲ呼出ス爲期日ヲ定メ之ヲ公告ス

ルコトヲ要ス
 裁判所ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲期日ヨリ三日前
 ニ計算表ヲ備ヘ置クコトヲ要ス
 第二百十二條 裁判所ハ前條ノ期日ニ於テ相互保險會社
 ノ取締役、監査役、破産管財人及監査委員ノ意見ヲ聽
 クコトヲ要ス
 第二百十三條 裁判所ハ社員ノ異議ヲ理由アリトスルト
 キ其ノ他必要ト認ムルトキハ計算表ヲ更正シ又ハ破産
 管財人ヲシテ之ヲ更正セシメタル後計算表認可ノ決定
 ヲ爲スコトヲ要ス
 計算表認可ノ決定ハ期日又ハ直ニ言渡シタル一週間内
 ノ期日ニ於テ之ヲ言渡スコトヲ要ス
 計算表認可ノ決定書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲計
 算表ト共ニ之ヲ備ヘ置クコトヲ要ス
 第二百十四條 第二十一條第一項及ヒ前條第一項第二
 項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ
 要ス
 第二百十五條 計算表認可ノ決定アリタルトキハ破産管
 財人ハ遲滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ爲サ
 シムルコトヲ要ス
 社員ニ對スル強制執行ハ執行文ヲ附シタル決定ノ正本
 及計算表ノ抄本ニ依リテ之ヲ爲ス

民事訴訟法第五百二十一條、第五百四十五條及第五百
 四十六條ノ規定ニ依ル訴ハ第二百四十五條ニ定ムル裁
 判所ノ管轄ニ專屬ス
 第二百十六條 各社員ハ計算表認可ノ決定言渡ノ日ヨリ
 一月ノ不變期間内ニ破産管財人ニ對シ計算表ニ付異議
 ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
 異議ノ訴ハ期日ニ於テ其ノ理由ヲ主張シタルトキ又ハ
 過失ナクシテ之ヲ主張スルコト能ハサリシコトヲ疏明
 スルニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 第二百十七條 前條ノ異議ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專
 屬ス但シ訴訟ノ目的ノ價額力區裁判所ノ權限ヲ超ユル
 場合ニ於テ本案ノ辯論前ニ當事者ノ申立アリタルトキ
 決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判
 所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス
 前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ抗
 告期間ハ決定言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 第一項ノ決定力確定シタルトキハ事件ハ地方裁判所ニ
 繫屬ス此ノ場合ニ於テハ區裁判所ノ訴訟手續ニ關スル
 費用ハ之ヲ地方裁判所ノ訴訟手續ニ關スル費用ノ一部
 ト看做ス
 第二百十八條 第二百十六條第一項ノ期間内ハ異議ノ訴
 數個ノ訴ノ辯論及裁判ハ併合シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十九條 強制執行ノ停止及續行並執行處分ノ取消
 ニ付テハ民事訴訟法第五百四十七條及第五百四十八條
 ノ規定ヲ準用ス
 第二百二十條 異議ノ訴ニ付爲シタル判決ハ社員ノ全員
 ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス
 第二百二十一條 社員ノ無資力、異議ノ訴其ノ他ノ理由
 ニ因リ社員ニ對スル賦課ヲ必要トスルトキハ破産管財
 人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス
 第二百二十二條 最後ノ配當ノ許可アリタルトキハ破産
 管財人ハ最後ノ計算表ヲ作ルコトヲ要ス
 第二百二十三條 最後ノ計算表ニ依リ全部ノ辨濟ヲ爲ス
 足ルキ金額ヲ得ルコト能ハサルトキハ破産管財人
 ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ脱退
 シタル社員ニ對シテモ亦其ノ責任ノ限度内ニ於テ賦課
 ヲ爲スコトヲ得
 第二百二十四條 前十六條ノ規定ハ無限責任又ハ保證責
 任ノ産業組合其ノ他ノ法人力破産ノ宣告ヲ受ケタル場
 合ニ之ヲ準用ス
 第二百二十五條 匿名組合契約力營業者ノ破産ニ因リテ
 終了シタルトキハ破産管財人ハ匿名組合員力負擔スヘ
 キ損失ノ額ヲ限度トシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得
 第二百二十六條 相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル後限定
 承認ヲ爲シタルトキ又ハ財産分離アリタルトキハ相續

財産ノ處分ハ破産管財人之ヲ爲スコトヲ要ス限定承認
 又ハ財産分離アリタル後相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタ
 ルトキ亦同シ
 破産管財人カ前項ノ處分ヲ終ヘタルトキハ殘餘財産ニ
 付破産財團ノ財産目錄及貸借對照表ヲ補充スルコトヲ
 要ス
 前二項ノ規定ハ包括受遺者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場
 合ニ之ヲ準用ス
 第二百二十七條 前條ノ規定ハ第八條又ハ第九條第一項
 ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合ニ之ヲ準用
 ス
 第七章 破産債權ノ届出及調査
 第二百二十八條 破産債權者ハ裁判所ノ定メタル期間内
 優先權アルトキハ其ノ權利ヲ裁判所ニ届出テ且證據書
 類又ハ其ノ謄本若ハ抄本ヲ提出スルコトヲ要ス
 別除權者ハ前項ニ規定スル事項ノ外別除權ノ目的及其
 ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受ケタルコト能ハルヘキ債權額
 ヲ届出ツルコトヲ要ス
 破産債權ニ付破産宣告ノ當時訴訟力繫屬スルトキハ第
 一項ニ規定スル事項ノ外裁判所ノ件名及番號ヲ届出ツ
 ルコトヲ要ス
 第二百二十九條 裁判所書記ハ債權表ヲ作り之ニ左ノ事

項ヲ記載スルコトヲ要ス
 二 債権ノ額及原因
 三 優先権アルトキハ其ノ權利ノ順位
 四 別除権者カ前條第二項ノ規定ニ依リテ届出テタル債権額
 裁判所書記ハ債権表ノ謄本ヲ破産管財人ニ交付スルコトヲ要ス
 第二百三十條 債権ノ届出ニ關スル書類及債権表ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス
 第二百三十一條 債権調査ノ期日ニ於テハ届出アリタル各債権ニ付第二百二十九條第一項ニ掲ケル事項ヲ調査ス
 第二百三十二條 破産者ハ債権調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得
 届出ヲ爲シタル破産債権者又ハ其ノ代理人ハ債権調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ得代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス
 第二百三十三條 債権ノ調査ハ破産管財人出頭スルニ非サルハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 第二百三十四條 期間後ニ届出アリタル債権ニ付テハ破

産管財人及破産債権者ノ異議アル場合ヲ除ク外債権調査ノ一般期日ニ於テ其ノ調査ヲ爲スコトヲ得
 破産管財人又ハ破産債権者ノ異議アリタルトキハ裁判所ノ前項ノ債権ノ調査ヲ爲ス爲特別期日ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ費用ハ期間後ニ届出ヲ爲シタル破産債権者ノ負擔トス
 第二百三十五條 前條ノ規定ハ破産債権者カ届出テタル事項ニ付届出期間後他ノ破産債権者ノ利益ヲ害スヘキ變更ヲ加ヘタル場合ニ之ヲ準用ス
 第二百三十六條 第二百三十四條第二項ノ規定ハ破産債権者カ債権調査ノ一般期日後ニ債権ノ届出ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第二百三十七條 債権調査ノ特別期日ヲ定ムル決定ハ之ヲ公告シ且破産管財人、破産者及届出ヲ爲シタル破産債権者ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス
 第二百三十八條 前條ノ規定ハ債権調査ノ期日ノ變更並ニ債権調査ノ延期及履行ニ之ヲ準用ス但シ言渡アリタルトキハ公告及送達ヲ爲スコトヲ要セス
 第二百三十九條 前二條ノ規定ニ依リ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第二百四十條 債権調査ノ期日ニ於テ破産管財人及破産債権者ノ異議ナカリシトキハ債権ノ額及優先権之ニ因リテ確定ス

破産者カ異議ヲ述ヘタル債権ニ付破産宣告ノ當時訴訟力繫屬スルトキハ債権者ハ破産者ヲ相手方トシテ之ヲ受繼テテ得
 第二百四十一條 裁判所ハ債権調査ノ結果ヲ債権表ニ記載スルコトヲ要ス破産者ハ述ヘタル異議亦同シ
 裁判所書記ハ確定シタル債権ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記載シ裁判所ノ印ヲ捺捺スルコトヲ要ス
 第二百四十二條 確定債権ニ付テハ債権表ノ記載ハ破産債権者ノ全員ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス
 第二百四十三條 破産債権者カ債権調査ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テ其ノ債権ニ付異議アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ其ノ債権者ニ通知スルコトヲ要ス
 第二百四十四條 第一項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス
 第二百四十五條 異議アル債権ニ付テハ其ノ債権者ハ異議者ニ對シ訴訟ヲ以テ其ノ債権ノ確定ヲ求ムルコトヲ得
 異議者數人アルトキハ之ヲ共同被告トス破産者カ異議者ノ一人ナルトキ亦同シ
 裁判所ハ債権者ニ其ノ債権ニ關スル債権表ノ抄本ヲ交付スルコトヲ要ス
 第二百四十五條 債権確定ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス但シ訴カ地方裁判所ノ權限ニ屬スルトキハ破産裁判所所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二百四十六條 異議アル債権ニ付破産宣告ノ當時訴訟力繫屬スル場合ニ於テ債権者カ其ノ債権ノ確定ヲ求ムルコトヲ要ス
 第二百四十七條 規定ニ依リ債権表ニ記載シタル事項ニ付テハ債権確定ノ訴ヲ提起シ又ハ第二百四十四條第二項若ハ前條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受繼クコトヲ得
 第二百四十八條 執行力アル債権者又ハ終局判決アル債権ニ付テハ異議者ハ破産者カ爲スコトヲ得ヘキ訴訟手續ニ依リテ其ノ異議ヲ主張スルコトヲ得
 第二百四十九條 第二項第三項、第二百四十六條及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第二百五十條 裁判所ハ破産管財人又ハ破産債権者ノ申立ニ因リ債権ノ確定ニ關スル訴訟ノ結果ヲ債権表ニ記載スルコトヲ要ス
 第二百五十一條 債権ノ確定ニ關スル訴訟ニ付爲シタル判決ハ破産債権者ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス
 第二百五十二條 破産財團カ債権ノ確定ニ關スル訴訟ニ因リテ利益ヲ受ケタルトキハ異議ヲ主張シタル破産債権者ハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債権者トシテ訴訟費

用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得
第二百五十二條 債權ノ確定ニ關スル訴訟ノ目的ノ價額ハ配當ノ豫定額ヲ標準トシ受訴裁判所之ヲ定ム
第二百五十三條 公訴附帶ノ私訴ニ付テハ第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受繼キ、上訴ヲ爲ノ又ハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス
 公訴附帶ノ私訴ノ目的タル債權ニ付破産者カ異議者ノ一ノナル場合ニ於テハ之ヲ共同被告トスルコトヲ得ス
第二百五十四條 第三十八條第四號ニ掲グル請求權ニ付テハ國又ハ公共團體ハ遲滞ナク其ノ額及原因ヲ裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス
第二百四十一條 第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ届出アリタル請求權ニ付之ヲ準用ス
第二百五十五條 前條第一項ノ規定ニ依リ届出アリタル請求權ノ原因カ訴訟願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘキ處分ナルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其ノ請求權ノ額及原因ヲ破産管財人ニ通知スルコトヲ要ス
第二百四十八條 乃至第二百五十條ノ規定ハ破産管財人カ異議ヲ主張スル場合ニ之ヲ準用ス
第八章 配當
第二百五十六條 一般ノ債權調査終了後ニ於テハ破産管財人配當スルニ適當ナル金銀アリト認ムル毎ニ遲滞ナク

ク配當ヲ爲スコトヲ要ス
第二百五十七條 破産管財人配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意ヲ監査委員カキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
第二百五十八條 破産管財人ハ配當表ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 配當ニ加フヘキ債權者ノ氏名及住所
 二 配當ニ加フヘキ債權ノ額
 三 配當スルコトヲ得ヘキ金額
 配當ニ加フヘキ債權ハ優先權ノ有無ニ依リテ之ヲ區別シ優先權アルモノニ付テハ其ノ順位ニ從ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス
第二百五十九條 破産管財人ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲配當表ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス
第二百六十條 破産管財人ハ配當ニ加フヘキ債權ノ總額及配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告スルコトヲ要ス
第二百六十一條 異議アル債權ニ付テハ債權者カ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ債權ノ確定ニ關スル訴ヲ提起又ハ訴訟ノ受繼ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其ノ配當ヨリ除斥セラル
第二百六十二條 別除權者カ前條ニ定ムル除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ債權ノ目的ノ處分ニ著手シタル

コトヲ證明シ且其ノ處分ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル
第二百六十三條 左ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ直ニ配當表ヲ更正スルコトヲ要ス
 一 債權表ヲ更正スヘキ事由カ除斥期間内ニ生シタル
 二 前二條ニ定ムル事項ノ證明及説明アリタルトキ
 三 別除權者カ除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ債權利拋棄ノ意思ヲ表示シ又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受タルコト能ハサリシ債權額ヲ證明シタルトキ
第二百六十四條 債權者ハ配當表ニ對シ除斥期間經過ノ後一週間内ニ限り裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得
 裁判所カ配當表ノ更正ヲ命シタルトキハ其ノ決定書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ備ヘ置クコトヲ要ス
 此ノ場合ニ於テ抗告期間ハ決定書ヲ備ヘタル日ヨリ之ヲ起算ス
第二百六十五條 破産管財人ハ前條第一項ニ定ムル期間經過シタル後、異議ノ申立アリタルトキハ其ノ決定アリタル後遲滞ナク配當率ヲ定メ配當ニ加フヘキ各債權者ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
 配當率ヲ定ムルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキト

キハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
第二百六十六條 解除條件附債權ヲ有スル者ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス
第二百六十七條 強制和議ノ提供アリタルトキハ裁判所ハ破産管財人カ未タ配當率ノ通知ヲ發セサル場合ニ限り提供者ノ申立ニ因リ其ノ配當ノ中止ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス
第二百六十八條 前條ノ規定ニ依リ配當ノ中止ヲ命シタル場合ニ於テ強制和議ノ提供ノ棄却若ハ其ノ不認可ノ決定カ確定シタルトキ又ハ債權者集會ニ於テ強制和議ヲ否決シタルトキハ裁判所ハ配當手續ヲ續行スヘキコトヲ命ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス
第二百六十九條 債權者ハ破産管財人ニ就キ配當ヲ受クルコトヲ要ス
 破産管財人カ配當ヲ爲シタルトキハ債權表及債權ノ證書ニ配當シタル金額ヲ記入シ之ニ記名捺印スルコトヲ要ス
第二百七十條 第二百六十一條又ハ第二百六十二條ニ定ムル事項ヲ證明又ハ説明セサルニ因リテ配當ヨリ除斥セラルタル債權者カ後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ其ノ證明又ハ説明ヲ爲シタルトキハ前ノ配當ニ於テ受クヘカリシ額ニ付他ノ同順位ノ債權者ニ先チテ配當ヲ受

タルコトヲ得
 第二百七十一條 左ニ掲クル債權ニ對スル配當額ハ破産管財人之ヲ寄託スルコトヲ要ス
 一 第二百四十四條、第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ異議アル債權ニ付訴ノ提起又ハ訴訟ヲ受繼アリタルモノ
 二 配當率ノ通知ヲ發スル前ニ訴訟又ハ行政訴訟ノ落著セザル債權
 三 第二百六十二條ノ規定ニ依リ別除權者カ疏明シタル債權額
 四 停止條件附債權及將來ノ請求權
 五 第二百六十六條ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セサル場合
 二 於ケル解除條件附債權
 第二百七十二條 破産管財人最後ノ配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意アリタルトキト雖裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
 第二百七十三條 最後ノ配當ニ關スル除斥期間ハ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間以上一月内ニ於テ裁判所之ヲ定ム此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第二百七十四條 最後ノ配當ニ在リテハ破産管財人ハ配當表ニ對スル異議落著ノ後遲滞ナク各債權者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百七十五條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ之ヲ行使スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ其ノ債權者ハ配當ヨリ除斥セラル
 第二百七十六條 解除條件附債權ノ條件カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ成就セサルトキハ第二百六十六條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其ノ效力ヲ失ヒ第二百七十一條第五號ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額ハ之ヲ其ノ債權者ニ支拂フコトヲ要ス第一條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保又ハ寄託シタル金額亦同シ
 第二百七十七條 別除權者カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利拋棄ノ意思ヲ表示セズ又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受タルコト能ハサルシ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル
 第二百七十八條 第二百七十五條又ハ前條ノ規定ニ依リテ除斥セラレタル債權者ノ爲ニ寄託シタル金額ハ之ヲ他ノ債權者ニ配當スルコトヲ要ス第百條ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額亦同シ
 第二百七十九條 配當額ノ通知ヲ發スル前新ニ配當ニ充ツヘキ財產アルニ至リタルトキハ破産管財人ハ遲滞ナク配當表ヲ更正スルコトヲ要ス
 第二百八十條 左ニ掲クル配當額ハ債權者ノ爲破産管財

人之ヲ供託スルコトヲ要ス
 一 第二百七十一條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ寄託シタル配當額
 二 配當額ノ通知ヲ發スル前ニ異議ノ訴訟願又ハ行政訴訟ノ落著セザル債權ニ對スル配當額
 三 債權者カ受取ラサル配當額
 第二百八十一條 計算報告ノ爲ニ招集シタル債權者集會ニ於テハ破産管財人カ價值ヲキ爲換價セザリシ財產ノ處分ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百八十二條 債權者集會終結シタルトキハ裁判所ハ破産終結ノ決定ヲ爲シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス
 前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第二百八十三條 配當額ノ通知ヲ發シタル後新ニ配當ニ充ツヘキ相當ノ財產アルニ至リタルトキハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ追加配當ヲ爲スコトヲ要ス破産終結ノ決定アリタル後ト雖亦同シ
 破産管財人追加配當ノ許可ヲ得タルトキハ遲滞ナク配當表ニ依リテ之ヲ爲ス
 第二百八十四條 追加配當ハ最後ノ配當ニ付作リタル配當表ニ依リテ之ヲ爲ス
 第二百八十五條 破産管財人追加配當ヲ爲シタルトキハ

遲滞ナク計算報告書ヲ作り之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス
 第二百八十六條 配當率又ハ配當額ノ通知ヲ發スル前破産管財人ニ知レサル財團債權者ハ各配當ニ於テ配當スヘキ金額ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス
 第二百八十七條 確定債權ニ付テハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シテ異議ヲ述ヘザリシ場合ニ限リ債權表ノ記載ハ破産者ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス
 債權者ハ破産終結ノ後債權表ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百五十五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス
 第二百八十八條 破産者カ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲債權調査ノ期日ニ出頭スルコト能ハザリシトキハ破産裁判所ハ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 裁判所ハ職權ヲ以テ破産者ノ異議アル債權ノ債權者ニ原狀回復ノ申立書ヲ送達スルコトヲ要ス
 裁判所原狀回復ヲ許シタルトキハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘタルト同一ノ效力ヲ生ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權表ニ異議ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス
 民事訴訟法第七十五條及第七十六條第二項ノ規定

第一項ニ定ムル原状回復ニ付之ヲ準用ス
 第二百八十九條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル
 場合ニ於テ最後ノ配當ヨリ除外セラレタル相續債權者
 及受遺者ハ殘餘財産ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第九章 強制和議
 第二百九十條 破産者ハ何時ニテモ強制和議ヲ提供ヲ爲
 スコトヲ得
 第二百九十一條 強制和議ノ提供ハ法人ニ在リテハ理事
 又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス
 第二百九十二條 強制和議ノ提供ハ相續財産ニ在リテハ
 相續人之ヲ爲シ相續人數人アルトキハ其ノ一致アルコ
 トヲ要ス
 第二百九十三條 一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ヲ
 有スル者ハ強制和議ニ付テハ之ヲ破産債權者ト看做サ
 ス
 第二百九十四條 強制和議ノ提供ヲ爲スニハ提供者ハ辨
 濟ノ方法ヲ擔保ヲ供セムトスルコトキハ其ノ擔保其ノ他
 強制和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス
 第二百九十五條 強制和議ノ提供者ノ所在不明ナルトキ
 又ハ詐欺破産ノ公訴繫屬スルトキハ強制和議ヲ爲スコ
 トヲ得ス詐欺破産ニ付有罪ノ判決確定シタルトキ亦同
 第二百九十六條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産管財人

及監査委員ノ意見ヲ聽キ強制和議ノ提供ヲ棄却スルコ
 トヲ得
 一 債權者集會ニ於テ強制和議ヲ否決シタルコトアル
 トキ
 二 強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日公告後ニ其
 ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ
 三 強制和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
 四 強制和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
 第二百九十七條 裁判所強制和議ノ提供ヲ棄却セサル場
 合ニ於テ監査委員アルトキハ之ヲシテ意見書ヲ提出セ
 シムルコトヲ要ス
 第二百九十八條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監査委
 員ノ意見書ハ利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲之ヲ裁判所
 ニ備ヘ置クコトヲ要ス
 第二百九十九條 強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日
 ハ其ノ決定公告ノ日ヨリ一月内ニ於テ之ヲ定ムルコト
 ヲ要ス
 第三百條 破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ
 届出ヲ爲シタル破産債權者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ
 當ル者ノ同意アルコトヲ要ス
 前項ノ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ確定債權ニ在リ
 テハ其ノ額ニ依リ其ノ他ノ債權ニ在リテハ裁判所カ第
 百八十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル所ニ依ル
 第三百七條 前條ニ規定スル條件ノ一カ成立シタルトキ
 又ハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半
 數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ニ超ユル
 者カ期日ヲ續行ニ同意シタルトキハ裁判所ハ強制和議
 ノ提供者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ續行期日ヲ定メ
 之ヲ言渡スコトヲ要ス
 第三百八條 強制和議ノ可決アリタルトキハ裁判所ハ其
 ノ期日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ強制和議ノ認否
 ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百九十九條 第二項ニ規定スル者ハ強制和議ノ認否
 ニ付意見ヲ述ブルコトヲ得
 第三百九條 第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規
 定ハ前二條ノ規定ニ依リ期日ヲ定ムル決定ニ之ヲ準用
 第三百十條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破産債權者ノ申立
 ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコ
 トヲ得

第三百條 裁判所ハ強制和議ノ提供者及監査委員ノ申立
 ニ因リ強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ヲ債權調
 査ノ一般期日ト併合スルコトヲ得
 第三百一條 強制和議ノ提供者ハ期日ニ出頭シテ強制和
 議ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ
 代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得
 代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス
 強制和議ノ提供者又ハ其ノ代理人期日ニ出頭シテ強制
 和議ノ申立ヲ爲サルトキハ其ノ提供ヲ撤回シタルモ
 ノト看做ス
 第三百二條 強制和議ノ提供者ハ破産債權者ヲ利スル場
 合ニ限り債權者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ
 得
 第三百三條 強制和議ハ一般ノ債權調査ノ終了前又ハ最
 後ノ配當ノ許可アリタル後ハ之ヲ決議スルコトヲ得
 第三百四條 強制和議ノ條件ハ各破産債權者ニ付平等ナ
 ルコトヲ要ス但シ不利益ヲ受クル者ノ同意アリタルト
 キハ此ノ限ニ在ラス
 第三百五條 強制和議ノ提供者又ハ第三者カ強制和議ノ
 條件ニ依ラスシテ或破産債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル
 行爲ハ之ヲ無効トス
 第三百六條 強制和議ヲ可決スルニハ議決權ヲ行フコト

ヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ
 届出ヲ爲シタル破産債權者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ
 當ル者ノ同意アルコトヲ要ス
 前項ノ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ確定債權ニ在リ
 テハ其ノ額ニ依リ其ノ他ノ債權ニ在リテハ裁判所カ第
 百八十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル所ニ依ル
 第三百七條 前條ニ規定スル條件ノ一カ成立シタルトキ
 又ハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半
 數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ニ超ユル
 者カ期日ヲ續行ニ同意シタルトキハ裁判所ハ強制和議
 ノ提供者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ續行期日ヲ定メ
 之ヲ言渡スコトヲ要ス
 第三百八條 強制和議ノ可決アリタルトキハ裁判所ハ其
 ノ期日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ強制和議ノ認否
 ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百九十九條 第二項ニ規定スル者ハ強制和議ノ認否
 ニ付意見ヲ述ブルコトヲ得
 第三百九條 第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規
 定ハ前二條ノ規定ニ依リ期日ヲ定ムル決定ニ之ヲ準用
 第三百十條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破産債權者ノ申立
 ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコ
 トヲ得

第一 強制和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺カ追完スヘカラサルモノナルトキ

第二 第二百九十五條ニ規定スル事由カ強制和議ノ決議後ニ生シタルトキ

第三 強制和議ノ決議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキ

第四 強制和議ノ決議カ破産債権者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

決議権ヲ有セザリシ破産債権者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ其ノ破産債権者タルコトヲ証明スルコトヲ要ス

申立人ハ申立ノ原因タル事實ヲ説明スルコトヲ要ス

第三百十一條 法人カ破産ノ宣告ヲ受タル場合ニ於テ強制和議ノ可決アリタルトキハ社團法人ニ在リテハ定款ノ變更ニ關スル規定ニ從ヒ社團法人ニ在リテハ主務官廳ノ認可ヲ得テ法人ヲ繼續スルコトヲ得

第三百十二條 法人ヲ繼續スルカ否ノ定リタルトキ又ハ遲滞ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其ノ法入ノ理事又ハ之ニ準スベキ者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議ノ認可ニ付決定ヲ爲ス爲期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ期日ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

法人ヲ繼續セサルトキ又ハ遲滞ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ強制和議ノ認可ヲ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十三條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續債権者ニ限リ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十四條 相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ限定承認又ハ財産分離アリタルトキハ相續人ノ債権者ニ限リ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十五條 相續財産及相續人又ハ前戸主ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人又ハ前戸主ノ強制和議ニ付テハ相續人ノ債権者又ハ前戸主ノ相續開始後ノ債権者ニ限リ之ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十六條 前三條ノ場合ニ於テハ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破産債権者ノ債権ハ第三百六條第一項ノ總債權ニ之ヲ算入セス

第三百十七條 強制和議カ前條ノ破産債権者ノ正當ノ利益ヲ害スヘキトキハ裁判所ハ其ノ申立ニ因リ強制和議ノ認可ヲ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十八條 強制和議認否ノ決定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第三百十九條 議決權ヲ有セザリシ破産債権者カ強制和議認否ノ決定ニ對シテ不服ヲ申立ツルニハ其ノ破産債権者タルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第三百二十條 強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破産債権者ハ強制和議ノ認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百二十一條 強制和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第三百二十二條 強制和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ強制和議ノ條件ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第三百二十三條 強制和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債権者及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ヲ有スル者ノ確定債權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

財團債権及一般ノ優先權アル債權ニシテ異議アルモノニ付テハ破産管財人ハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

破産管財人ニ對シテ證明アリタル一般ノ優先權アル債權ニ付テハ同シ

第三百二十四條 第二百八十二條ノ規定ハ強制和議ノ認可ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條 破産財團ノ管理及處分ニ付テハ破産者

ハ強制和議ニ定メタル制限ニ從フコトヲ要ス

第三百二十六條 強制和議ハ破産債権者ノ全員ノ爲且其ノ全員ニ對シテ效力ヲ有ス

強制和議ハ破産債権者カ破産者ノ保證人其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔スル者ニ對シテ有スル權利及破産債権者ノ爲ニ供シタル擔保ニ影響ヲ及ボサズ

第三百二十七條 法人ノ債務ニ付責任ヲ負フ社員ハ破産債権者ニ對シ強制和議ノ定ムル限度ニ於テ其ノ責任ヲ負フ但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第三百二十八條 確定債權者有スル破産債権者ハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シ異議ヲ述ベザリシ場合ニ限リ破産終結ノ後破産者ノ強制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破産債権者ノ爲ニ擔保ヲ供シタル者ニ對シ債權表ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得但シ民法第四百五十二條及第四百五十三條ノ適用ヲ妨ケス

第二百五十八條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十九條 強制和議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキハ各破産債権者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消スコトヲ得但シ過失ニ因リ強制和議ノ認可ヲ申立ヲ爲サザリシ破産債権者ハ此ノ限ニ在ラ

前項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十八條 法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ破産廢止ノ申立ヲ爲スニハ法人繼續ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三百一十一條ノ規定ヲ準用ス

第三百四十九條 破産廢止ノ申立ヲ爲スニハ其ノ申立ニ必要ナル條件カ具備スルコトヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百五十條 裁判所ハ破産廢止ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百五十一條 破産債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破産廢止ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間經過前ニ届出ヲ爲シタル破産債權者モ亦異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百五十二條 裁判所ハ前條第一項ノ期間經過ノ後破産廢止ノ決定ヲ爲スニ必要ナル條件カ具備スルカ否ニ付破産者ノ破産管財人及異議ヲ申立テタル破産債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百五十三條 破産宣告ノ後裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラヌト認メタルトキハ破産

管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、産業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セス破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納アリタル場合亦同シ

第三百五十四條 裁判所カ破産廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ヲ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百五十五條 破産廢止ノ決定カ確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債權ノ辨濟ヲ爲シ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十六條 第二百九十一條及第二百九十二條ノ規定ハ破産廢止ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三百五十七條 第二百八十七條ノ規定ハ破産廢止ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百五十八條 破産財團ニ屬スル財産ノ額カ一萬圓ニ滿タスト認ムルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ小破産ノ場合ニ於テハ裁判所ハ第四百三十三條第一項ニ掲ケル事項ノ外小破産決定ノ主文ヲ公告シ且同條第二項ノ書面ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百五十九條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル

財産ノ額カ一萬圓ニ滿タサルコトヲ發見シタルトキハ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ小破産ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判所ハ決定ノ主文ヲ公告シ且破産管財人ノ監査委員並知事タル債權者及債務者ニ之ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百六十條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財産ノ額カ一萬圓以上ナルコトヲ發見シタルトキハ小破産ノ規定ヲ準用ス

第三百六十一條 小破産ノ決定及小破産取消ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十二條 第一回ノ債權者集會ノ期日及債權調査ノ期日ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ併合スルコトヲ要ス

第三百六十三條 監査委員ハ之ヲ置カス

第三百六十四條 第一回ノ債權者集會、強制和議取消後ノ第一回ノ債權者集會並債權調査、計算報告及強制和議ノ爲ニスル債權者集會ヲ除クノ外裁判所ノ決定ヲ以テ債權者集會ノ決議ニ代フ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十五條 配當ハ一回トシ最後ノ配當ニ關スル規定ニ依ル但シ追加配當ヲ爲スコトヲ妨グス

第三百六十六條 小破産手續ニ關スル公告ハ第四百六十六條ノ規定ニ依リ掲示ヲ爲スヲ以テ足ル

第三百六十七條 破産者カ辨濟其ノ他ノ方法ニ因リ破産債權者ニ對スル債務ノ全部ヲ免責ヲ得タルトキハ破産裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ復權ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百六十八條 復權ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三百六十九條 裁判所ハ復權ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百七十條 破産債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二月内ニ復權ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百七十一條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産者及異議ヲ申立テタル破産債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百七十二條 復權ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百七十三條 第四百八條乃至第四百十二條及第四百十四條乃至第四百十七條ノ規定ハ復權ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四編 罰則

第三百七十四條

債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス自己若シテ他人ノ利益ヲ圖リ又ハ債權者ヲ害スル目的ヲ以テ左ノ行為ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ詐欺破産ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

一 破産財團ニ屬スル財産ヲ隱匿、毀棄又ハ債權者ノ利益ニ處分スルコト

二 破産財團ノ負擔ヲ虚偽ニ増加スルコト

三 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラズ、之ヲ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

四 第八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十五條 債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ノ行為ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 浪費又ハ賭博其ノ他ノ射倖行為ヲ爲シ因テ著ク財産ヲ減少シ又ハ過大ノ債務ヲ負擔スルコト

二 破産ノ宣告ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ著ク不利益ナル條件ニテ債務ヲ負擔シ又ハ信用取引ニ因リ商品ヲ買入レ著ク不利益ナル條件ニテ之ヲ處分スルコト

三 破産ノ原因タル事實アルコトヲ知ルニ拘テス或債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行為ニシテ債務者ノ義務ニ屬セサルモノ

四 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラズ、之ヲ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

五 第八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十六條 債務者ノ法定代理人、理事及之ニ準スル者或ハ支那人前二條ノ規定スル行為ヲ爲シ債務者ニ對スル破産宣告確定シタルトキハ前二條ノ例ニ依リ相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戸主並其ノ法定代理人及支那人ニ付亦同シ

第三百七十七條 本法ニ依リ監守ヲ命セラルル者逃走シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ外人ト面接若ハ通信シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

破産者裁判所ノ許可ヲ得スシテ居住地ヲ離レタルトキ罰則同シ

第三百七十八條 債務者及第三百七十六條ニ規定スル者ニ非スシテ第三百七十四條ニ規定スル行為ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者破産裁判所ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附則 第三百八十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百八十四條 明治二十三年法律第三十二號商法第三編、同年法律第一號及家資分散法ハ之ヲ廢止ス

第三百八十五條 民法施行法第二條第三條及非訟事件手續法第二百五十二條第五十三條ハ之ヲ削除シ刑法施行法第二十五條第一項第三號ハ之ヲ削除ス

第三百八十六條 他ノ法令中身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セサル者ニ關スル規定ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セサル者及家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ之ヲ破産者ト看做ス

第三百八十七條 本法施行前破産若ハ復権ノ申立、破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ支拂猶豫ノ許可若ハ假許可アリタルモノニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ明治二十三年法律第三十二號商法第五十四條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラ

者又ハ自己若ハ他人ヲ利スル目的ヲ以テ破産債權者トシテ虚偽ノ權利ヲ行ヒタル者ハ債務者ニ對スル破産宣告確定シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス
第三百七十九條 第三百七十四條、第三百七十五條及前條ノ規定ノ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス
第三百八十條 破産管財人又ハ監査委員其ノ職務ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス破産債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者債權者集會ノ決議ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ亦同シ
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
第三百八十一條 破産管財人、監査委員、破産債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付シ、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
第三百八十二條 第五百十三條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ説明ヲ爲シタル

トキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者破産裁判所ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
附則 第三百八十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三百八十四條 明治二十三年法律第三十二號商法第三編、同年法律第一號及家資分散法ハ之ヲ廢止ス
第三百八十五條 民法施行法第二條第三條及非訟事件手續法第二百五十二條第五十三條ハ之ヲ削除シ刑法施行法第二十五條第一項第三號ハ之ヲ削除ス
第三百八十六條 他ノ法令中身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セサル者ニ關スル規定ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス
身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セサル者及家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ之ヲ破産者ト看做ス
第三百八十七條 本法施行前破産若ハ復権ノ申立、破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ支拂猶豫ノ許可若ハ假許可アリタルモノニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ明治二十三年法律第三十二號商法第五十四條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラ

一 破産回避ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキ
 二 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキ
 三 詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アリト認ムルトキ
 四 和議ノ條件カ法律ノ規定ニ反スルトキ
 五 和議ノ條件カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得
 一 和議手續ノ費用ノ豫納ヲキトキ
 二 債權者集會ニ於テ和議ヲ否決シタルコトアルトキ
 三 和議開始ノ申立又ハ和議ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ
 四 和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
 五 和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

第二十條 裁判所ハ和議開始ノ決定前ト雖利害關係人申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ債務者ノ財産ニ關シ假差押假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得
 裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スルコトヲ得
 前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ決定

間以上二月以下ナルコトヲ要ス
 二 債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ト債權届出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス
 第二十八條 裁判所カ和議開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス
 一 債權届出ノ期日及債權者集會ノ期日
 二 債權届出ノ氏名及住所
 三 債權届出ノ期間及債權者集會ノ期日
 四 債權届出ノ事項
 五 債權届出ノ債權者ノ姓名
 六 債權届出ノ債權額
 七 債權届出ノ債權種類
 八 債權届出ノ債權担保
 九 債權届出ノ債權優先順位
 十 債權届出ノ債權行使期間
 十一 債權届出ノ債權行使場所
 十二 債權届出ノ債權行使方法
 十三 債權届出ノ債權行使費用
 十四 債權届出ノ債權行使責任
 十五 債權届出ノ債權行使期間
 十六 債權届出ノ債權行使場所
 十七 債權届出ノ債權行使方法
 十八 債權届出ノ債權行使費用
 十九 債權届出ノ債權行使責任

第二十九條 裁判所カ和議開始ノ決定ヲ取消シ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス
 一 債權届出ノ期日及債權者集會ノ期日
 二 債權届出ノ氏名及住所
 三 債權届出ノ期間及債權者集會ノ期日
 四 債權届出ノ事項
 五 債權届出ノ債權者ノ姓名
 六 債權届出ノ債權額
 七 債權届出ノ債權種類
 八 債權届出ノ債權担保
 九 債權届出ノ債權優先順位
 十 債權届出ノ債權行使期間
 十一 債權届出ノ債權行使場所
 十二 債權届出ノ債權行使方法
 十三 債權届出ノ債權行使費用
 十四 債權届出ノ債權行使責任
 十五 債權届出ノ債權行使期間
 十六 債權届出ノ債權行使場所
 十七 債權届出ノ債權行使方法
 十八 債權届出ノ債權行使費用
 十九 債權届出ノ債權行使責任

第三十條 和議開始ノ申立ニ關スル書類並第二十一條ノ規定ニ依ル整理委員ノ調査書類及意見書ハ利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス
 第三十一條 和議開始ノ申立ノ時ヨリ決定ノ時迄ハ債務者ノ通常ノ範圍ニ屬セザル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

和議法 和議ノ開始

第二十二條 和議申立人ハ前條第一項ニ依ル調査ヲ拒ム
 第二十三條 破産法第五百三條ノ規定ハ和議ニ關シ整理委員ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス
 第二十四條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ整理委員ヲ審訊スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ整理委員ヲ審訊スルコトヲ要ス
 第二十五條 破産法第五百九條乃至第六十一條ノ規定ハ和議ニ關シ整理委員ニ之ヲ準用ス
 第二十六條 和議開始ノ決定書ニ於テハ整理委員ノ審訊結果ヲ記載スルコトヲ要ス
 第二十七條 裁判所ハ和議開始ノ決定ト同時ニ管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス
 一 債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ決定ノ日ヨリ二週間

第三十二條 和議ノ開始ハ債務者カ其ノ財産ヲ管理及處分スル權利ニ影響ヲ及ボサス但シ通常ノ範圍ニ屬セザル行爲ヲ管財人ノ同意ヲ得ルニ非サルハ之ヲ爲スルコトヲ得
 第三十三條 重要ナル行爲ニ付管財人カ第一項ノ規定ニ依リ同意ヲ爲スルコトヲ要ス
 第三十四條 管財人ハ自ラ金錢ノ收支ヲ爲スヘキコトヲ得
 第三十五條 管財人ハ自ラ金錢ノ收支ヲ爲スヘキコトヲ得
 第三十六條 管財人ハ何時ニモ債務者ノ財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得
 第三十七條 破産法第一百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ管

第五十七條 破産法第三百二十五條乃至第三百二十七條及第三百四十二條ノ規定ハ和議ノ效力ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 和議認可ノ決定力確定シタルトキハ第十七條ノ規定ニ依リ手續ヲ中止シタル破産ノ申立並第四十七條第二項ノ規定ニ依リ中止シタル強制執行、假差押及假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第六十條 和議ノ廢止ハ債權人及債權者ノ申立ニ依リ決定ス

第六十一條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ和議ノ廢止ヲ決定ス

第六十二條 債權者ノ詐欺破産ノ罪ニ該ルベキ行爲アルトキハ裁判所ハ和議債權者ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ和議ヲ取消ス

第六十三條 破産法第三百二十九條乃至第三百三十一條ノ規定ハ和議ヲ以テ定メタル讓歩ノ取消ニ之ヲ準用ス

第六十四條 債權者ノ詐欺破産ノ罪ニ該ルベキ行爲アルトキハ裁判所ハ和議債權者ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ和議ヲ取消ス

第六十五條 破産法第三百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

第六十六條 和議ノ取消ハ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ第四十八條ノ規定ニ依リテ定リタル債權額ニ依リテ決定ス

第六十七條 破産法第三百三十八條、第三百四十條及第三百四十一條ノ規定ハ第九條ノ規定ニ依リ破産ノ宣告

第六十八條 整理委員又ハ管財人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條 整理委員、管財人又ハ和議債權者、其ノ代理人、理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十條 前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第七十一條 第二十三條又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サス又ハ虚偽ノ説明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十二條 和議申立人又ハ債權者第二十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ調査若ハ報告ヲ拒ミ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ亦同シ

アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十條 罰則

前項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事實ヲ申立テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六十八條 整理委員又ハ管財人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條 整理委員、管財人又ハ和議債權者、其ノ代理人、理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十條 前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第七十一條 第二十三條又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サス又ハ虚偽ノ説明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十二條 和議申立人又ハ債權者第二十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ調査若ハ報告ヲ拒ミ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ亦同シ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第四百九十八號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行ス)

和議手續參加ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第一章 總則
 第一節 管轄
 第二節 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避
 第二章 當事者
 第一節 當事者能力及訴訟能力
 第二節 共同訴訟
 第三節 訴訟參加
 第四章 訴訟費用ノ負擔
 第三節 訴訟上ノ救助
 第四章 訴訟手續
 第一節 口頭辯論
 第二節 期日及ヒ期間
 第三節 送達

第一章 總則
 第一節 管轄
 第二節 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避
 第二章 當事者
 第一節 當事者能力及訴訟能力
 第二節 共同訴訟
 第三節 訴訟參加
 第四章 訴訟費用ノ負擔
 第三節 訴訟上ノ救助
 第四章 訴訟手續
 第一節 口頭辯論
 第二節 期日及ヒ期間
 第三節 送達

第四編 裁判
 第四節 裁判
 第五節 訴訟手續ノ中斷及ヒ中止
 第一章 第一審ノ訴訟手續
 第一節 訴
 第二節 辯論ノ準備
 第三節 證據
 第一款 總則
 第二款 證人訊問
 第三款 鑑定
 第四款 書證
 第五款 檢證
 第六款 當事者訊問
 第七款 證據保全
 第二章 區裁判所ノ訴訟手續
 第三章 控訴
 第四章 抗告
 第五章 再審

第四編 裁判
 第四節 裁判
 第五節 訴訟手續ノ中斷及ヒ中止
 第一章 第一審ノ訴訟手續
 第一節 訴
 第二節 辯論ノ準備
 第三節 證據
 第一款 總則
 第二款 證人訊問
 第三款 鑑定
 第四款 書證
 第五款 檢證
 第六款 當事者訊問
 第七款 證據保全
 第二章 區裁判所ノ訴訟手續
 第三章 控訴
 第四章 抗告
 第五章 再審

民事訴訟法中改正法律目次

第五編 督促手續……………三〇
第六編以下ノ改正……………三〇
附則……………三〇

○民事訴訟法中改正法律施行法
(大正一五、四、二四日法六二號)……………三五
附則……………三五

○民事訴訟費用法中改正法律(大正一五、四、二四日法六三號)……………三七
附則……………三七

○民事訴訟用印紙法中改正法律
(大正一五、四、二四日法六四號)……………三八
附則……………三八

○商事非訟事件印紙法中改正法律
(大正一五、四、二四日法六五號)……………三九
附則……………三九

○人事訴訟手續法中改正法律(大正一五、四、二四日法六六號)……………四〇
附則……………四〇

○非訟事件手續法中改正法律(大正一五、四、二四日法六七號)……………四〇
附則……………四〇

○競賣法中改正法律(大正一五、四、二四日法六八號)……………四〇
附則……………四〇

民事訴訟法中改正法律

(大正十五年四月二十四日)法律第六十(一)號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民事訴訟法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民事訴訟法中左ノ通改正ス

民事訴訟法目録第一編乃至第五編ヲ左ノ如ク改ム

第一編 總則

第一章 裁判所

第一節 管轄

第二節 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避、其ノ

第二章 當事者

第一節 當事者能力及訴訟能力

第二節 共同訴訟

第三節 訴訟參加

第四節 訴訟代理人及輔佐人

第三章 訴訟費用

第一節 訴訟費用ノ負擔

第二節 訴訟費用ノ擔保

第三節 訴訟上ノ救助

第四章 訴訟手續

第一節 口頭辯論

第二節 期日及期間

民事訴訟法中改正法律 附則

○民法中改正法律(大正一五、四、二四日法六九號)……………五一
附則……………五一

○破產法中改正法律(大正一五、四、二四日法七〇號)……………五一
附則……………五一

○外國人ノ署名捺印及ヒ無資力證明ニ關スル法律中改正法律(大正一五、四、二四日法七一號)……………五一
附則……………五一

○刑事訴訟法中改正法律(大正一五、四、二四日法七二號)……………五一
附則……………五一

第一章 總則

第二章 審判

第三章 審判ノ準備

第四章 審判ノ進行

第五章 審判ノ終結

第六章 執行

第七章 附則

第三編 送達

第一節 裁判所ノ送達

第二節 裁判所外ノ送達

第三節 送達ノ準備

第四節 送達ノ進行

第五節 送達ノ終結

第六節 送達ノ效力

第七節 送達ノ救済

第八節 送達ノ附則

第四編 裁判

第一章 裁判ノ準備

第一節 裁判ノ準備ノ開始

第二節 裁判ノ準備ノ進行

第三節 裁判ノ準備ノ終結

第四節 裁判ノ準備ノ效力

第五節 裁判ノ準備ノ救済

第六節 裁判ノ準備ノ附則

第二章 裁判ノ進行

第一節 裁判ノ進行ノ開始

第二節 裁判ノ進行ノ進行

第三節 裁判ノ進行ノ終結

第四節 裁判ノ進行ノ效力

第五節 裁判ノ進行ノ救済

第六節 裁判ノ進行ノ附則

第三章 裁判ノ終結

第一節 裁判ノ終結ノ開始

第二節 裁判ノ終結ノ進行

第三節 裁判ノ終結ノ終結

第四節 裁判ノ終結ノ效力

第五節 裁判ノ終結ノ救済

第六節 裁判ノ終結ノ附則

第五章 執行

第一節 執行ノ開始

第二節 執行ノ進行

第三節 執行ノ終結

第四節 執行ノ效力

第五節 執行ノ救済

第六節 執行ノ附則

第六章 附則

第一節 附則ノ開始

第二節 附則ノ進行

第三節 附則ノ終結

第四節 附則ノ效力

第五節 附則ノ救済

第六節 附則ノ附則

民事訴訟法第一編乃至第五編ヲ左ノ如ク改ム

第一編 總則

第一章 裁判所

第一節 管轄

第一條 訴訟ノ被告ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二條 人ノ普通裁判籍ハ住所ニ依リテ定ル
日本ニ住所キトキ又ハ住所ノ知レサルトキハ普通裁判籍ハ居所ニ依リ、居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定ル

第三條 大使、公使其ノ他外國ニ在リテ治外法權ヲ享クル日本人五前條ノ規定ニ依リ普通裁判籍ヲ有セサルトキハ其ノ者ノ普通裁判籍ハ東京市ニ在ルモノトス

第四條 法人其ノ他ノ社團又ハ財團ノ普通裁判籍ハ其ノ主タル事務所又ハ營業所ニ依リ、事務所又ハ營業所ナキトキハ主タル業務擔當者ノ住所ニ依リテ定ル

第五條 國ノ普通裁判籍ハ訴訟ニ付國ヲ代表スル官廳ノ所在地ニ依リテ定ル

第六條 第一項ノ規定ハ外國ノ社團又ハ財團ノ普通裁判籍ニ付テハ日本ニ於ケル事務所、營業所又ハ業務擔當者ニ之ヲ適用ス

第七條 財産權上ノ訴ハ義務履行地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第八條 寄留者ニ對スル財産權上ノ訴ハ寄留地ノ裁判所

第九條 事務所又ハ營業所ヲ有スル者ニ對スル訴ハ其ノ事務所又ハ營業所ニ於ケル業務ニ關スルモノニ限り其ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十條 船舶又ハ航海ニ關シ船舶所有者其ノ他船舶ノ利用ヲ爲ス者ニ對スル訴ハ船舶ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 船舶債權其ノ他船舶ヲ以テ擔保スル債權ニ基クテ訴ハ船舶ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十二條 會社其ノ他ノ社團ヨリ社員ニ對スル訴又ハ社員ヨリ會社其ノ他ノ社團ノ社員タル資格ニ基クモノニ限り會社其ノ他ノ社團ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十三條 會社其ノ他ノ社團ノ債權者ヨリ社員ニ對スル訴又ハ社員ヨリ會社其ノ他ノ社團ノ社員タル資格ニ基クモノニ限り會社其ノ他ノ社團ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 第二條及前條ノ規定ハ社團、財團、社員又ハ社團ノ債權者ヨリ社員、役員、發起人又ハ檢査役タル者ニ對スル訴及社員タル者ヨリ社員ニ對スル訴ニ之ヲ適用ス

第十五條 不法行為ニ關スル訴ハ其ノ行為アリタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十六條 船舶ノ衝突其ノ他海上ノ事故ニ基ク損害賠償ノ訴ハ損害ヲ受ケタル船舶力最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十七條 海難救助ニ關スル訴ハ救助アリタル地又ハ救助セラルタル船舶力最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十八條 不動産ニ關スル訴ハ不動産所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 登記又ハ登録ニ關スル訴ハ登記又ハ登録ヲ爲スヘキ地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 相続權ニ關スル訴又ハ遺留分若ハ遺贈其ノ他死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ行為ニ關スル訴ハ相続開始ノ時ニ於ケル被相続人ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十一條 會社其ノ他ノ社團ヨリ社員ニ對スル訴又ハ社員ヨリ會社其ノ他ノ社團ノ社員タル資格ニ基クモノニ限り會社其ノ他ノ社團ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十二條 第二條及前條ノ規定ハ社團、財團、社員又ハ社團ノ債權者ヨリ社員、役員、發起人又ハ檢査役タル者ニ對スル訴及社員タル者ヨリ社員ニ對スル訴ニ之ヲ適用ス

第二十三條 不法行為ニ關スル訴ハ其ノ行為アリタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 船舶ノ衝突其ノ他海上ノ事故ニ基ク損害賠償ノ訴ハ損害ヲ受ケタル船舶力最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 海難救助ニ關スル訴ハ救助アリタル地又ハ救助セラルタル船舶力最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 不動産ニ關スル訴ハ不動産所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條 登記又ハ登録ニ關スル訴ハ登記又ハ登録ヲ爲スヘキ地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十八條 相続權ニ關スル訴又ハ遺留分若ハ遺贈其ノ他死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ行為ニ關スル訴ハ相続開始ノ時ニ於ケル被相続人ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 相續債權其ノ他相續財産ノ負擔ニ關スル訴ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ相續財産ノ全部又ハ一部ノ前條ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキニ限り其ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第三十條 第一條乃至前條ノ規定ニ依リ一ノ請求ニ付管轄權ヲ有スル裁判所ニ其ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第三十一條 第二條ニ對シテ依リ管轄力訴訟ノ目的ノ價額ニ依リテ定ルトキハ其ノ價額ハ訴子以テ主張スル利益ニ依リテ之ヲ算定ス

第三十二條 前項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ハ前項ノ超過スルモノト看做ス

第三十三條 一ノ訴子以テ數個ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ價額ヲ合算ス

第三十四條 損害賠償、違約金又ハ費用ノ請求ヲ附帶シテ提起スルコトキハ其ノ價額ハ之ヲ訴訟ノ目的ノ價額ニ算入セズ

第三十五條 左ノ場合ニ於テハ關係アル裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ管轄裁判所ヲ定ム

第三十六條 一ノ管轄裁判所及裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リテ之ニ代ルヘキ裁判所力法律上又ハ事實上裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ管轄裁判所

二 裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所力定
 前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第二十五條 當事者ハ第一審ニ限り合意ニ依リ管轄裁判
 所ヲ定ムルコトヲ得
 前項ノ合意ハ一定ノ法律關係ニ基テ訴ニ關シ且書面ヲ
 以テ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ効ナシ
 第二十六條 被告力第一審裁判所ニ於テ管轄違ノ抗辯ヲ
 提出セシメシテ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ
 申述ヲ爲シタルトキハ其ノ裁判所ハ管轄權ヲ有ス
 第二十七條 第一條、第五條乃至第二十一條、第二十五
 條及前條ノ規定ハ訴ニ付專屬管轄ノ定アル場合ニハ之
 ヲ適用セス
 第二十八條 裁判所ハ管轄ニ關スル事項ニ付職權ヲ以テ
 證據調ヲ爲スコトヲ得
 第二十九條 裁判所ノ管轄ハ起訴ノ時ヲ標準トシテ之ヲ
 定ム
 第三十條 裁判所ハ訴訟ノ全部又ハ一部力其ノ管轄ニ屬
 セスト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ管轄裁判所ニ移送
 第三十一條 裁判所ハ其ノ管轄ニ屬スル訴訟ニ付著キ損
 害又ハ遲滯ヲ避クル爲必要アリト認ムルトキハ其ノ專
 屬管轄ニ屬スルモノヲ除クノ外申立ニ因リ又ハ職權ヲ

以テ訴訟ノ全部又ハ一部ヲ他ノ管轄裁判所ニ移送スル
 コトヲ得
 第三十二條 移送ノ裁判ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ羈束
 ス
 移送ヲ受ケタル裁判所ハ更ニ事件ヲ他ノ裁判所ニ移送
 スルコトヲ得ス
 第三十三條 移送ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト
 ヲ得
 移送ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツ
 ルコトヲ得ス
 第三十四條 移送ノ裁判確定シタルトキハ訴訟ハ初ヨリ
 移送ヲ受ケタル裁判所ニ繫屬シタルモノト看做ス
 前項ノ場合ニ於テハ移送ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ書
 記ハ其ノ裁判ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ移送ヲ受ケタ
 ル裁判所ノ書記ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス
 第三十五條 第二節 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避
 執行ヨリ除斥セラル
 一 判事又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者力事件ノ當事者ナ
 ルトキ又ハ事件ニ付當事者ト共同權利者、共同義務
 者若ハ債權義務者タル關係ヲ有スルトキハ其ノ親屬
 二 判事力當事者ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻
 族ナルトキ又ハナリシトキ

三 判事力當事者ノ後見人、後見監督人、保佐人又ハ
 戸主若ハ家族ナルトキ
 四 判事力事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ
 五 判事力事件ニ付當事者ノ代理人又ハ輔佐人ナルト
 六 判事力事件ニ付仲裁判斷ニ關與シ又ハ不服ヲ申立
 テラレタル前審ノ裁判ニ關與シタルトキ但シ他ノ裁
 判所ノ囑託ニ因リ受託判事トシテ其ノ職務ヲ行フコ
 トヲ妨ケス
 第三十六條 除斥ノ原因アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ
 又ハ職權ヲ以テ除斥ノ裁判ヲ爲ス
 第三十七條 判事ニ付裁判ノ公正ヲ妨ケヘキ事情アルト
 キハ當事者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得
 當事者力判事ノ面前ニ於テ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ
 於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ判事ヲ忌避スルコトヲ
 得ス但シ忌避ノ原因力其ノ後ニ生シ又ハ當事者力其ノ
 原因アルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス
 第三十八條 第三十六條又ハ前條ニ規定スル申立ハ其ノ
 原因ヲ開示シ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要
 除斥又ハ忌避ノ原因ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日内ニ
 シテ之ヲ疎明スルコトヲ要ス前條第一項但書ノ事實亦同

第三十九條 合議裁判所ノ判事ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ
 其ノ裁判所ノ區裁判所ノ判事ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ
 其ノ裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所決定ヲ以テ
 裁判ヲ爲ス
 第四十條 判事ハ其ノ除斥又ハ忌避ニ付裁判ニ關與スル
 コトヲ得ス但シ意見ヲ述フルコトヲ得
 第四十一條 除斥又ハ忌避ヲ理由アリトスル決定ニ對シ
 テハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス之ヲ理由ナシトスル決
 定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第四十二條 除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申
 立ニ付テハ裁判ノ確定ニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スルコ
 トヲ要ス但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラ
 ス
 第四十三條 第三十五條及第三十七條第一項ノ場合ニ於
 テハ判事ハ監督權アル判事ノ許可ヲ得テ回避スルコト
 ヲ得
 第四十四條 本節ノ規定ハ裁判所書記ニ之ヲ準用ス此ハ
 場合ニ於テハ裁判所書記所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲ス
 第二章 當事者
 第一節 當事者能力及訴訟能力
 第四十五條 當事者能力、訴訟能力及訴訟無能力者ノ法
 定代理ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民法其ノ
 他ノ法令ニ從フ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權亦同

第四十六條 法人ニ非サル社團又ハ財團ニシテ代表者又ハ管理人ヲ定アルモノハ其ノ名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラ
ルコトヲ得

第四十七條 共同ノ利益ヲ有スル多數者ニシテ前條ノ規
定ニ該當セサルモノハ其中ヨリ總員ノ爲ニ原告若ハ
被告ト爲ルヘキ一人若ハ數人ヲ選定シ又ハ之ヲ變更ス
ルコトヲ得

第四十八條 前條ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲
ルヘキ者ヲ定メタルトキハ他ノ當事者ハ當然訴訟ヨリ
脱退ス

第四十九條 未成年者及禁治産者ハ法定代理人ニ依リテ
法律行為ヲ爲スコトヲ得但シ未成年者カ獨立シテ
法律行為ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス申

第五十條 禁治産者、妻又ハ法定代理人カ相手方ノ提
起シタル訴又ハ上訴ニ付訴訟行為ヲ爲スニハ保佐人ノ
同意、夫ノ許可又ハ親族會ノ同意其ノ他ノ授權ヲ要セ
ス

第五十一條 未成年者及禁治産者ハ法定代理人ニ依リテ
法律行為ヲ爲スコトヲ得但シ未成年者カ獨立シテ
法律行為ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス申

第五十二條 禁治産者、妻又ハ法定代理人カ相手方ノ提
起シタル訴又ハ上訴ニ付訴訟行為ヲ爲スニハ保佐人ノ
同意、夫ノ許可又ハ親族會ノ同意其ノ他ノ授權ヲ要セ
ス

取テ、和解、請求ノ拋棄若ハ認諾又ハ第七十二條ノ規
定ニ依ル脱退ヲ爲スニハ常ニ特別ノ授權アルコトヲ要
ス

第五十一條 外國人ハ其ノ本國法ニ依レハ訴訟能力ヲ有
セサルトキト雖日本ノ法律ニ依レハ訴訟能力ヲ有スヘ
キトキハ之ヲ訴訟能力者ト看做ス

第五十二條 法定代理權又ハ訴訟行為ヲ爲スニ必要ナル
授權ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス第四十七條ノ
規定ニ依ル當事者ノ選定及變更亦同シ

第五十三條 訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行為ヲ爲ス
ニ必要ナル授權ノ欠缺アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メ
テ其ノ補正ヲ命シ若シ遲滞ノ爲損害ヲ生スル虞アルトキ
ハ一時訴訟行為ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十四條 訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行為ヲ爲ス
ニ必要ナル授權ノ欠缺アル者カ爲シタル訴訟行為ハ其
ノ欠缺ナキニ至リタル當事者又ハ法定代理人ノ追認ニ
因リ行爲ノ時ニ溯リテ其ノ效力ヲ生ス

第五十五條 第五十三條及前條ノ規定ハ第四十七條ノ規
定ニ依ル當事者カ訴訟行為ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 法定代理人ナキ場合又ハ法定代理人カ代理
權ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ未成年者又ハ禁治産
者ニ對シ訴訟行為ヲ爲サムトスル者ハ遲滞ノ爲損害ヲ

受ケル虞アルコトヲ疏明シテ受訴裁判所ノ裁判長ニ特
別代理人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得

特別代理人ハ何時ニテモ特別代理人ヲ改任スルコトヲ得

特別代理人カ訴訟行為ヲ爲スニハ後見人ト同一ノ授權
アルコトヲ要ス

特別代理人ノ選任及改任ノ命令ハ特別代理人ニモ之ヲ
送達スルコトヲ要ス

第五十七條 法定代理權ノ消滅ハ本人又ハ代理人ヨリ之
ヲ相手方ニ通知スルニ非サレハ其ノ効ナシ

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ變更ニ
之ヲ準用ス

第五十八條 本法中法定代理及法定代理人ニ關スル規定
ハ法人ノ代表者及法人ニ非スシテ其ノ名ニ於テ訴ヘ又
ハ訴ヘラルコトヲ得ル社團又ハ財團ノ代表者又ハ管
理人ニ之ヲ準用ス

第六十條 第二節 共同訴訟

第五十九條 訴訟ノ目的タル權利又ハ義務カ數人ニ付共
通ナルトキ又ハ同一ノ事實上及法律上ノ原因ニ基クテ
キハ其ノ數人ハ共同訴訟人トシテ訴ヘ又ハ訴ヘラル
コトヲ得訴訟ノ目的タル權利又ハ義務カ同種ニシテ事
實上及法律上同種ノ原因ニ基クテキ亦同シ

第六十條 他人間ノ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ
爲ニ請求スル者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者雙方ヲ共同

被告トシ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 共同訴訟人ノ一人ノ訴訟行為又ハ之ニ對ス
ル相手方ノ訴訟行為及其ノ一人ニ付生シタル事項ハ他
ノ共同訴訟人ニ影響ヲ及ボサス

第六十二條 訴訟ノ目的カ共同訴訟人ノ全員ニ付合一ニ
ノミ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ一人ノ訴訟行為ハ全
員ノ利益ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ス

共同訴訟人ノ一人ニ對スル相手方ノ訴訟行為ハ全員ニ
對シテ其ノ效力ヲ生ス

共同訴訟人ノ一人ニ付訴訟手續ノ中斷又ハ中止ノ原因
アルトキハ其ノ中斷又ハ中止ハ全員ニ付其ノ效力ヲ生
ス

第六十三條 第五十條第一項ノ規定ハ前條第一項ノ場合
ニ於テ共同訴訟人ノ一人カ提起シタル上訴ニ付他ノ共
同訴訟人ノ爲スヘキ訴訟行為ニ之ヲ準用ス

第六十四條 訴訟ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ
其ノ訴訟ノ繫屬中當事者ノ一方ヲ補助スル爲訴訟ニ參
加スルコトヲ得

第六十五條 參加ノ申出ハ參加ノ趣旨及理由ヲ具シ參加
ニ依リテ訴訟行為ヲ爲スヘキ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ
要ス

書面ニ依リテ參加ノ申出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ

書面ハ之ヲ當事者雙方ニ送達スルコトヲ要ス
 第六十六條 當事者ハ參加ニ付異議ヲ述ベタルトキハ
 第六十七條 當事者ハ參加ニ付異議ヲ述ヘスシテ辯論ヲ
 第六十八條 參加人ハ參加ニ付異議アル場合ニ於テモ
 第六十九條 參加人ハ訴訟ニ付攻撃又ハ防禦ノ方法ノ提
 第七十條 前條ノ規定ニ依リテ參加人ハ訴訟行為ヲ爲ス

コトヲ得入又ハ其ノ訴訟行為カ效力ヲ有セザリシ場
 第七十一條 訴訟ノ結果ニ因リテ權利ヲ害セラルルコ
 第七十二條 前條ノ規定ニ依リ自己ノ權利ヲ主張スル爲
 第七十三條 訴訟ノ繫屬中其ノ訴訟ノ目的タル權利ノ全
 第七十四條 訴訟ノ繫屬中第三者カ其ノ訴訟ノ目的タル
 第七十五條 訴訟ノ繫屬中其ノ訴訟ノ目的タル權利ノ全

裁判所ハ前項ノ規定ニ依リテ決定ヲ爲ス前當事者及第
 第七十二條 規定中脱退及判決ノ效力ニ關スルモノハ
 第七十三條 規定ニ依リテ訴訟ノ引受アリタル場合ニ於テハ
 第七十四條 訴訟ノ目的カ當事者ノ一方及第三者ニ付合
 第七十五條 訴訟ノ目的カ當事者ノ一方及第三者ニ付合
 第七十六條 當事者ハ訴訟ノ繫屬中參加ヲ爲スコトヲ得
 第七十七條 訴訟告知ハ理由及訴訟ノ程度ヲ記載シタル
 第七十八條 訴訟告知ヲ受ケタル者カ參加セザリシ場合
 第七十九條 法令ニ依リテ裁判上ノ行為ヲ爲スコトヲ得

者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得
 第八十條 訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコ
 第八十一條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反
 第八十二條 前條ノ規定ハ法令ニ依リテ裁判上ノ行為ヲ
 第八十三條 前條ノ規定ハ法令ニ依リテ裁判上ノ行為ヲ

第八十三條 數人ノ訴訟代理人アルトキハ各自當事者ヲ代理スルノ權限ハ其ノ定テ爲スモ其ノ效力ヲ生セ

第八十四條 訴訟代理人ノ事實上ノ陳述ハ當事者カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正シタルトキハ其ノ效力ヲ生セ

第八十五條 訴訟代理權ハ當事者ノ死亡若ハ訴訟能力ノ喪失、當事者タル法人ノ合併ニ因リ消滅、當事者タル受託者ノ信託ノ任務終了又ハ法定代理人ノ死亡、訴訟能力ノ喪失若ハ代理權ノ消滅、變更ニ因リテ消滅セ

第八十六條 一定ノ資格ヲ有スル者ニシテ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メ訴訟ノ當事者タルモノノ訴訟代理人ノ代理權ハ當事者ノ資格ノ喪失ニ因リテ消滅セ

第八十七條 第五十二條第二項、第五十三條、第五十四條及第五十七條ノ規定ハ訴訟代理ニ之ヲ準用ス

第八十八條 當事者又ハ訴訟代理人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ輔佐人ト共ニ出頭スルコトヲ得此ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スルコトヲ得

第八十九條 當事者又ハ訴訟代理人カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキハ自ラ之ヲ爲シタルモノト看做

第九十條 裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナルシテ行爲ヲ爲シタル當事者ヲシテ其ノ行爲ニ因リテ生シタル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十一條 第八十九條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第九十二條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第九十三條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第九十四條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第九十五條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第九十六條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第九十七條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第九十八條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第九十九條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百零一條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百零二條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百零三條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百零四條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百零五條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百零六條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百零七條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百零八條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百零九條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百一十條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第一百一十一條 第九十條ノ規定ハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ベタル當事者トノ間ニ於テ負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第九十二條 第一節ノ訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十三條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十四條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十五條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十六條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十七條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十八條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十九條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百零一條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百零二條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百零三條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百零四條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百零五條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百零六條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百零七條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百零八條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百零九條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百十條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百十一條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百十二條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百十三條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百十四條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百十五條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百十六條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百十七條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百十八條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百十九條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第一百二十條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

所ハ申立人ノ費用ノミニ付裁判ヲ爲スコトヲ得但シ相手方ノ費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ妨ケス

第二百二條 裁判所カ訴訟費用額ヲ定ムル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ前條第二項ノ場合ヲ除ク外各當事者ノ負擔スベキ費用ハ其ノ對當額ニ付相殺アリタルモノト看做ス

第二百三條 第九十七條ノ場合ニ於テ當事者カ訴訟費用ノ負擔ヲ定メ其ノ額ヲ定メサルトキハ裁判所ハ申立ニ因テ決定ヲ以テ其ノ額ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項、第三項、第一百一條及前條ノ規定ヲ準用ス

第二百四條 前條ノ場合ヲ除ク外訴訟カ裁判ニ因ラスシテ完結シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ訴訟費用額ヲ定メ且其ノ負擔ヲ命スルコトヲ要ス參加又ハ之ニ付テノ異議ノ取テアリタルトキ亦同シ

第二十九條 乃至第九十四條、第一百條第二項第三項、第一百一條及第一百二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五條 裁判所ハ裁判所書記ヲシテ訴訟費用額ノ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六條 費用ヲ要スル行爲ニ付テハ裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

當事者カ裁判所ノ命ニ從ヒ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ前項ノ行爲ヲ爲ササルコトヲ得

第二節 訴訟費用ノ擔保

第二百七條 原告カ日本ニ住所、事務所及營業所ヲ有セサルトキハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ訴訟費用ノ擔保ヲ供スヘキコトヲ原告ニ命スルコトヲ要ス擔保ニ不足シ生シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ請求ノ一部ニ付争ナキ場合ニ於テ其ノ額カ擔保ニ十分ナルトキハ之ヲ適用セス

第二百八條 擔保ヲ供スヘキ事由アルコトヲ知リタル後被告カ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ擔保ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 擔保ノ申立ヲ爲シタル被告ハ原告カ擔保ヲ供スル迄應訴ヲ拒ムコトヲ得

第三十條 裁判所ハ擔保ヲ供スヘキコトヲ命スル決定ニ於テ擔保額及擔保ヲ供スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ要ス

擔保額ハ被告カ各審ニ於テ支出スベキ費用ノ總額ヲ標準トシテ之ヲ定ム

第三十一條 擔保ノ申立ニ關スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 擔保ヲ供スルニハ金錢又ハ裁判所カ相當ト認ムル有價證券ヲ供託スルコトヲ要ス但シ當事者カ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ其ノ契約ニ依ル

第三十三條 被告ハ訴訟費用ニ付前條ノ規定ニ依リテ供

託シタル金錢又ハ有價證券ノ上ニ質權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第三十四條 原告カ擔保ヲ供スヘキ期間内ニ之ヲ供セサルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルコトヲ得但シ判決前擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 擔保ヲ供シタル者カ擔保ノ事由止ミタルコトヲ證明シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ擔保取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

擔保ヲ供シタル者カ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意ヲ得タルトキハ下ヲ證明シタルトキ亦前項ニ同シ

訴訟ノ完結後裁判所カ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ擔保權利者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ行使スヘキ旨ヲ警告シ擔保權利者カ其ノ行使ヲ爲ササルトキハ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意アリタルモノト看做ス

第一項及第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 裁判所ハ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ供託シタル擔保物ノ變換ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ供託シタル擔保ヲ契約ニ因リテ他ノ擔保ニ變換スルコトヲ妨ケス

第三十七條 第九九條、第一百條第二項及第一百二條ノ

至前條ノ規定ハ他ノ法令ニ依リテ訴ノ提起ニ付供スヘキ擔保ニ之ヲ準用ス

第三節 訴訟上ノ救助

第三十八條 訴訟費用ヲ支拂フ資力ナキ者ニ對シテハ裁判所ハ申立ニ因リ訴訟上ノ救助ヲ與フルコトヲ得但シ勝訴ノ見込ナキニ非サルトキニ限ル

第三十九條 訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ之ヲ與ス

第四十條 訴訟上ノ救助ハ訴訟及強制執行ニ付左ノ效力ヲ生ス

一 裁判費用ノ支拂ハ猶豫

二 執達吏及裁判所ニ於テ附添テ命シタル辯護士ノ報酬及立替金ノ支拂ハ猶豫

三 訴訟費用ノ擔保ハ免除

第四十一條 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル者ノ爲ニシテ其ノ效力ヲ有ス

裁判所ハ訴訟ノ承繼人ニ對シ猶豫シタル費用ノ支拂ヲ命ス

第四十二條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者カ訴訟費用ノ支拂ヲ爲ス資力ヲ有スルコト判明シ又ハ之ヲ有スルニ至リタルトキハ訴訟記録ノ存スル裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニモ救助ヲ取消シ猶豫シタル訴訟費用ノ支拂ヲ命スルコトヲ得

第二百二十三條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ支拂テ猶豫シタル費用ハ其ノ負擔ヲ命セラルタル相手方ヨリ直接ニ之ヲ取立ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ辯護士又ハ執達吏ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ有スル債務名義ニ依リ報酬及立替金ニ付費用額ヲ定ムル申立及強制執行ヲ爲スコトヲ得

第二百二十四條 本節ニ規定スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百二十五條 當事者ハ訴訟ニ付裁判所ニ於テ口頭辯論ヲ爲スコトヲ要ス但シ決定ヲ以テ完結スヘキ事件ニ付テハ裁判所口頭辯論ヲ爲スヘキカ否ヲ定ム

第二百二十六條 口頭辯論ハ裁判長之ヲ指揮スル裁判長ハ發言ヲ許シ又ハ其ノ命ニ從ハサル者ニ發言ヲ禁スルコトヲ得

第二百二十七條 裁判長ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲事實上及法律上ノ事項ニ關シ當事者ニ對シテ問ヲ發シ又ハ立證ヲ促スコトヲ得

第二百二十八條 裁判長ハ前條ノ規定ニ依リテ當事者ヲシテ釋明セシムヘキ事項ヲ指示シ口頭辯論期日前準備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第二百二十九條 當事者カ辯論ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命又ハ第二百二十七條若ハ前條ノ規定ニ依ル裁判長若ハ陪席判事ノ處置ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所決定ヲ以テ其ノ異議ニ付裁判ヲ爲ス

第二百三十條 受命判事ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシムヘキ場合ニ於テハ裁判長其ノ判事ヲ指定ス

第二百三十一條 裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコト

二 訴訟書類又ハ訴訟ニ於テ引用シタル文書其ノ他ノ

物件ニシテ當事者ノ所持スルモノヲ提出セシムルコト

三 當事者又ハ第三者ノ提出シタル文書其ノ他ノ物件ヲ裁判所ニ留置クコト

四 檢證ヲ爲シ又ハ鑑定ヲ命スルコト

五 必要ナル調査ヲ囑託スルコト

前項ニ規定スル檢證、鑑定及調査ノ囑託ニ付テハ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百三十二條 裁判所ハ口頭辯論ノ制限、分離若ハ併合ヲ命シ又ハ其ノ命ヲ取消スコトヲ得

第二百三十三條 裁判所ハ終結シタル口頭辯論ノ再開ヲ命スルコトヲ得

第二百三十四條 辯論ニ與ル者カ日本語ニ通セサルトキ又ハ聾若ハ啞ナルトキハ通事ヲ立會ハシム但シ聾者又ハ啞者ニハ文字ヲ以テ問ヒ又ハ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十五條 鑑定人ニ關スル規定ハ通事ニ之ヲ準用ス

第二百三十六條 裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル陳述ヲ爲スコトヲ能ハサル當事者、代理人又ハ輔佐人ノ陳述ヲ示シ辯論續行ノ爲新期日ヲ定ムルコトヲ得

第二百三十七條 前項ノ規定ニ依リテ陳述ヲ禁シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ辯護士ノ附添ヲ命スルコトヲ得

第二百三十八條 原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキハ其ノ者ヲ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載シタル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做シ出頭シタル相手方ニ辯論ヲ命スルコトヲ得

第二百三十九條 當事者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル攻撃又ハ防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完結ヲ遲延セシムヘキモノト認メタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第二百四十條 攻撃又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明瞭ナラサルモノ又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明瞭ナラサルモノ又ハ釋明ヲ爲スヘキコトヲ要スルコトヲ得

第二百四十一條 裁判所ハ如何ナル程度ニ在ルテ問ハス和解ヲ試ミ又ハ受命判事若ハ受託判事ヲシテ之ヲ試シシムルコトヲ得

第二百四十二條 裁判所又ハ受命判事若ハ受託判事ハ和解ノ爲當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第二百四十三條 攻撃又ハ防禦ノ方法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提出スルコトヲ得

第二百四十四條 原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキハ其ノ者ヲ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載シタル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做シ出頭シタル相手方ニ辯論ヲ命スルコトヲ得

第二百四十五條 當事者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル攻撃又ハ防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完結ヲ遲延セシムヘキモノト認メタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第二百四十六條 攻撃又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明瞭ナラサルモノ又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明瞭ナラサルモノ又ハ釋明ヲ爲スヘキコトヲ要スルコトヲ得

第二百四十七條 裁判所ハ如何ナル程度ニ在ルテ問ハス和解ヲ試ミ又ハ受命判事若ハ受託判事ヲシテ之ヲ試シシムルコトヲ得

第二百四十八條 裁判所又ハ受命判事若ハ受託判事ハ和解ノ爲當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第二百四十九條 攻撃又ハ防禦ノ方法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提出スルコトヲ得

第二百五十條 原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキハ其ノ者ヲ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載シタル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做シ出頭シタル相手方ニ辯論ヲ命スルコトヲ得

第二百五十一條 當事者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル攻撃又ハ防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完結ヲ遲延セシムヘキモノト認メタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第四百零九條 當事者カ口頭辯論ニ於テ相手方ノ主張シタル事實ヲ明ニ争ハサルトキハ其ノ事實ヲ明白シタルモノト看做ス但シ辯論ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト認ムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百一十條 當事者カ訴訟手續ニ關スル規定ノ違背ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於テ遲滞ナク異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ述フル權利ヲ失フ但シ拋棄スルコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四百一十一條 當事者カ訴訟手續ニ關スル規定ノ違背ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於テ遲滞ナク異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ述フル權利ヲ失フ但シ拋棄スルコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四百一十二條 口頭辯論ニ付テハ裁判所書記日毎ニ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第四百一十三條 調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ裁判長及裁判所書記之署名捺印シ裁判長支障アルトキハ陪席判事其ノ席次ニ從ヒ順次之ニ代リテ署名捺印シ且其ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス但シ判事皆支障アルトキハ書記其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

第四百一十四條 事件ノ表示

第四百一十五條 立會ヒタル檢事ノ氏名

第四百一十六條 出頭シタル當事者ノ氏名

第四百一十七條 代理人、輔佐人及通事並陪席シタル當事者ノ氏名

第四百一十八條 辯論ノ場所及年月日

第四百一十九條 辯論ヲ公開シタルコト又ハ公開セサル場合ニ於テモ其ノ理由

第四百二十條 調書ニハ辯論ノ要領ヲ記載シ殊ニ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ要ス

第四百二十一條 和解、認諾、拋棄、取下及自白

第四百二十二條 證人、鑑定人ノ宣誓及陳述

第四百二十三條 檢證ノ結果

第四百二十四條 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及當事者ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

第四百二十五條 書面ニ作ラサル裁判

第四百二十六條 調書ニハ書面、寫眞其ノ他裁判所ニ於テ適當ト認ムルモノヲ引用シ訴訟記録ニ添附シテ之ヲ調書ニ一部ト爲スコトヲ得

第四百二十七條 調書ノ記載ハ申立ニ因リ法廷ニ於テ關係人ニ之ヲ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ且調書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四百二十八條 調書ヲ記載ニ付關係人カ異議ヲ述ヘタルトキハ調書ニ其ノ趣旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四百二十九條 調書ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ得但シ調書カ滅失シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百十八條 裁判所必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ速記者ヲシテ口頭辯論ニ於ケル陳述ノ全部又ハ一部ヲ筆記セシムルコトヲ得

第四百十九條 第四百二十二條乃至前條ノ規定ハ裁判所ノ審訊、受命判事又ハ受託判事ノ審問及證據調ヒ之ヲ準用ス

第四百二十條 申立其ノ他ノ申述ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條 口頭ヲ以テ申述ヲ爲スニハ裁判所書記ノ面前ニ於テ陳述ヲ爲スコトヲ要ス

第四百二十二條 前項ノ場合ニ於テハ書記調書ヲ作り之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第四百二十三條 當事者ハ訴訟記録ノ閱覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ訴訟ニ關スル事項ノ證明書ノ交付ヲ裁判所書記ニ請求スルコトヲ得利害關係ヲ疏明シタル第三者亦同シ

第四百二十四條 訴訟記録ノ正本、謄本又ハ抄本ニハ其ノ正本、謄本又ハ抄本ナルコトヲ記載シ書記之ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺捺スルコトヲ要ス

第四百二十五條 第二節 期日及期間

第四百二十六條 受命判事又ハ受託判事ノ審問ノ期日ハ其ノ判事之ヲ定

第四百二十七條 期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第四百二十八條 口頭辯論ニ於ケル最初ノ期日ノ變更ハ顯著ナル事由ノ存セサルトキト雖當事者ノ合意アル場合ニ於テハ之ヲ許ス準備手續ニ於ケル最初ノ期日ノ變更亦同シ

第四百二十九條 第五百三條ノ期日ハ已ムコトヲ得サル場合ニ限リ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第四百三十條 第五百四條ノ期日ニ於ケル呼出ハ呼出狀ヲ送達シテ之ヲ爲ス但シ當該事件ニ付頭シタル者ニ對シテハ期日ヲ告知スルヲ以テ足ル

第四百三十一條 第五百五條ノ期日ハ事件ノ呼出ヲ以テ之ヲ開始ス

第四百三十二條 第五百六條ノ期間ノ計算ハ民法ニ從フ

第四百三十三條 第五百七條ノ期間ハ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス

第四百三十四條 第五百八條ノ期間ハ裁判力效力ヲ生シタル時ヨリ進行ヲ始ム

第四百三十五條 第五百九條 裁判所ハ法定期間又ハ其ノ定メタル期間ノ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得但シ不變期間ハ此ノ限ニ在ラス

第四百三十六條 不變期間ニ付テハ裁判所ハ遠隔ノ地ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ノ爲附加期間ヲ定ムルコトヲ得

第四百三十七條 裁判長、受命判事又ハ受託判事ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第五百五十九條 當事者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ不變期間ヲ遵守スルコト能ハサリシ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ止ミタル後一週内ニ限リ懈怠シタル訴訟行為ノ追完ヲ爲スコトヲ得此ノ期間ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セズ

第三百節 送達

第六十條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第六十一條 送達ニ關スル事務ハ裁判所書記之ヲ取扱フ

第六十二條 送達ハ執達吏又ハ郵便ニ依リ之ヲ爲ス

第六十三條 送達ニ在リテハ郵便集配人ヲ以テ送達ヲ爲ス

第六十四條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第六十五條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第六十六條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第六十七條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第六十八條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第六十九條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第七十條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第七十一條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第七十二條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第七十三條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第七十四條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第七十五條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第七十六條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第七十七條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第七十八條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第七十九條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第八十條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ヲ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

理人ニ之ヲ爲ス

第六十六條 數人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

第六十七條 軍事用ノ艦舍又ハ艦船ニ屬スル者ニ對スル送達ハ其ノ艦舍又ハ艦船ノ長ニ之ヲ爲ス

第六十八條 在監者ニ對スル送達ハ監獄ノ長ニ之ヲ爲ス

第六十九條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス但シ法定代理人ニ對スル送達ハ本人ノ營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十條 送達ハ之ヲ受クヘキ者カ日本ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲スコトキハ送達ハ其ノ者ニ出會ヒタル場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲スコトキハ送達ヲ受クヘキ者カ送達ヲ受クルコトヲ拒マサルトキ亦同シ

第七十一條 當事者、法定代理人又ハ訴訟代理人ハ受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有シタルトキハ其ノ裁判所ノ所在地ニ於テ送達ヲ受クヘキ者カ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルコトヲ要ス

第七十二條 送達ハ之ヲ受クヘキ者カ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルコトヲ要ス

第七十三條 送達ハ之ヲ受クヘキ者カ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルコトヲ要ス

第七十四條 送達ハ之ヲ受クヘキ者カ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルコトヲ要ス

第七十五條 送達ハ之ヲ受クヘキ者カ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルコトヲ要ス

第七十六條 送達ハ之ヲ受クヘキ者カ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルコトヲ要ス

第七十七條 送達ハ之ヲ受クヘキ者カ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルコトヲ要ス

第七十八條 送達ハ之ヲ受クヘキ者カ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルコトヲ要ス

第七十九條 送達ハ之ヲ受クヘキ者カ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルコトヲ要ス

第八十條 送達ハ之ヲ受クヘキ者カ送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルコトヲ要ス

コトヲ得

第一項ノ届出ハ送達ヲ受クヘキ者カ受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 送達ヲ爲スヘキ場所ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ出會ハサルトキハ事務員、雇人又ハ同居者ニシテ事務員ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具フル者ニ書類ヲ交付スルコトヲ得

前項ニ掲クル者其ノ他書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ正當ノ事由ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ送達ヲ爲スヘキ場所ニ書類ヲ差置クコトヲ得

第七十二條 前條ノ規定ニ依リテ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所書記書類ヲ書留郵便ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得

第七十三條 第七十條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リテ書類ヲ郵便ニ付シテ發送シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノト看做ス

第七十四條 日曜日其ノ他ノ一般ノ休日又ハ日出前日没後ニ於テ執達吏ニ依ル送達ヲ爲スニハ裁判長ノ許可アルコトヲ要ス

前項ノ許可アリタルトキハ裁判所書記ハ送達スヘキ書類ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ違背スル送達ハ書類ノ交付ヲ受クヘキ

者カ之ヲ受取リタル場合ニ限リ其ノ効力ヲ有ス

第七十五條 外國ニ於テ爲スヘキ送達ハ裁判長其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第七十六條 出陣ノ軍隊若ハ外國駐在ノ軍隊ニ屬スル者又ハ役務ニ服スル艦船ノ乗組員ニ對スル送達ハ裁判長上級司令官廳ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第七十七條 送達ヲ爲シタル吏員ハ書面ヲ作り送達ニ關スル事項ヲ記載シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第七十八條 當事者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スヘキ場所カ知レサル場合又ハ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付第七十五條ノ規定ニ依ルコト能ハス若ハ之ニ依ルモ其ノ效ナシト認ムヘキ場合ニ於テハ申立ニ因リ裁判長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ爲スコトヲ得

同一ノ當事者ニ對スル爾後ノ公示送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第七十九條 公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類ヲ保管シ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス但シ呼出狀ノ送達ハ呼出狀ヲ揭示場ニ貼附シテ之ヲ爲ス

裁判所ハ公示送達アリタルコトヲ官報又ハ新聞紙ニ掲

載スヘキコトヲ命スルコトヲ得但シ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付テハ公示送達アリタルコトヲ郵便ニ付シテ通知スルコトヲ得

第百八十條 公示送達ハ前條第一項ノ規定ニ依ル揭示ヲ始メ又ハ貼附ヲ爲シタル日ヨリ二週間ヲ經過スルニ因リテ其ノ効力ヲ生ス但シ第百七十八條第二項ノ公示送達ハ揭示ヲ始メ又ハ貼附ヲ爲シタル日ノ翌日ニ於テ其ノ効力ヲ生ス

前項ノ期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ス
第百八十一條 送達ニ關スル裁判長ノ權限ハ受命判事、受託判事及送達地ノ區裁判所ノ判事亦之ヲ有ス

第百八十二條 訴訟力裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ終局判決ヲ爲ス

第百八十三條 訴訟ノ一部力裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ其ノ一部ニ付終局判決ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ口頭辯論ノ併合ヲ命シタル數個ノ訴訟中其ノ一カ裁判ヲ爲スニ熟スル場合及本訴又ハ反訴力裁判ヲ爲スニ熟スル場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條 獨立シタル攻撃又ハ防禦ノ方法其ノ他中間ノ争ニ付裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ中間判決ヲ爲スコトヲ得請求ノ原因及數額ニ付争アル場合ニ於テ其ノ原因ニ付亦同シ

三 理由
四 當事者及法定代理人
五 裁判所

事實及争點ノ記載ハ口頭辯論ニ於ケル當事者ノ陳述ニ基キ要領ヲ摘示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十二條 判決ハ言渡後遲滞ナク之ヲ裁判所書記ニ交付シ書記ハ言渡及交付ノ日ヲ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第百九十三條 判決ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

第百九十四條 判決ニ違算、書損其ノ他之ニ類スル明白ナル誤謬アルトキハ裁判所ハ何時ニモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正決定ヲ爲スコトヲ得

更正決定ハ判決ノ原本及正本ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス但シ正本ニ附記スルコト能ハサルトキハ決定ノ正本ヲ作リ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

更正決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得但シ判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十五條 裁判所カ請求ノ一部ニ付裁判ヲ脫漏シタルトキハ訴訟ハ其ノ請求ノ部分ニ付仍裁判所ニ繫屬ス

民事訴訟法中改正法律 總則 訴訟手續 裁判

第百八十五條 裁判所ハ判決ヲ爲スニ當リ其ノ爲シタル口頭辯論ノ全趣旨及證據調ノ結果ヲ斟酌シ自由ナル心證ニ依リ事實上ノ主張ヲ眞實ト認ムヘキカ否ヲ判斷ス

第百八十六條 裁判所ハ當事者ノ申立テサル事項ニ付判決ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十七條 判決ハ其ノ基本タル口頭辯論ニ關與シタル判事ノ更迭アル場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

第百八十八條 判決ハ言渡ニ因リテ其ノ効力ヲ生ス

第百八十九條 判決ハ言渡ハ判決原本ニ基キ裁判長主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲ス

裁判長ハ相當ト認ムルトキハ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ヲ以テ其ノ要領ヲ告ケルコトヲ得

第百九十條 判決ノ言渡ハ口頭辯論終結ノ日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲ス但シ事件繁雜ナルトキ其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

判決ノ言渡ハ當事者カ在廷セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第百九十一條 判決ニハ左ノ事項ヲ記載シ判決ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 主文
二 事實及争點

訴訟費用ノ裁判ヲ脫漏シタル場合ニ於テハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ訴訟費用ニ付裁判ヲ爲ス

前項ノ規定ニ依リ第百四條ノ規定ヲ準用ス

第百九十六條 財產權上ノ請求ニ關スル判決ニ付テハ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ之ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セシテ假執行ヲ爲スコトヲ得

第百九十七條 裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シテ假執行ヲ免ルルコトヲ得

第百九十八條 規定ハ前條ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第百九十九條 假執行ノ宣言ハ其ノ宣言又ハ本案判決ヲ變更スル判決ノ言渡ニ因リ變更ノ限度ニ於テ其ノ効力ヲ失フ

本案判決ヲ變更スル場合ニ於テハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ其ノ判決ニ於テ假執行ノ宣言ニ基キ被告カ給付シタルモノヲ返還及假執行ニ因リ又ハ之ヲ免ルル爲被

告ノ受ケタル損害ノ賠償ヲ原告ニ命スルコトヲ要ス

變更スル判決ニ付前項ノ規定ヲ適用ス
第九十九條 確定判決ハ主文ニ包含スルモノニ限リ既
判力ヲ有ス

相殺ノ爲主張シタル請求ノ成立又ハ不成立ノ判斷ハ相
殺ヲ以テ對抗シタル額ニ付既判力ヲ有ス

第二百條 外國裁判所ノ確定判決ハ左ノ條件ヲ具備スル
場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス
一 法令又ハ條約ニ於テ外國裁判所ノ裁判權ヲ否認セ
サルコト

二 敗訴ノ被告カ日本人ナル場合ニ於テ公示送達ニ依
ラスシテ訴訟ノ開始ニ必要ナル呼出若ハ命令ノ送達
ヲ受ケタルコト又ハ之ヲ受ケサルモ應訴シタルコ
ト

三 外國裁判所ノ判決カ日本ニ於ケル公ノ秩序又ハ善
良ノ風俗ニ反セサルコト

四 相互ノ保證アルコト
第二百一條 確定判決ハ當事者ノ口頭辯論終結後ノ承繼
人又ハ其ノ者ノ爲請求ノ目的物ヲ所持スル者ニ對シテ
其ノ效力ヲ有ス

他人ノ爲原告又ハ被告ト爲リタル者ニ對スル確定判決
ハ其ノ他人ニ對シテモ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ假執行ノ宣言ニ之ヲ準用ス
第二百二條 不適法ナル訴訟ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコ
トキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ合併ニ因リ
テ設立シタル法人又ハ合併後存続スル法人ハ訴訟手續
ヲ受繼クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ合併ヲ以テ相手方ニ對抗スルコトヲ得サ
ル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百十條 當事者カ訴訟能力ヲ失ヒタルトキ又ハ其ノ
法定代理人カ死亡シ若ハ代理權ヲ失ヒタルトキハ訴訟
手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ法定代理人又ハ訴訟能
力ヲ有スルニ至リタル當事者ハ訴訟手續ヲ受繼クコト
ヲ要ス

第二百十一條 受託者ノ信託ノ任務終了シタルトキハ訴
訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ新受託者訴訟手續ヲ
受繼クコトヲ要ス

第二百十二條 一定ノ資格ヲ有スル者カ自己ノ名ヲ以テ
他人ノ爲訴訟ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失
シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ同一
ノ資格ヲ有スル者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス當事者
ノ死亡ニ因リ訴訟手續カ中斷シタル場合亦同シ

第四十七條ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者
ヲ選定シタル訴訟ニ於テ其ノ選定セラレタル當事者ノ
全員カ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス
此ノ場合ニ於テハ選定ヲ爲シタル者ノ總員又ハ新ニ原
告若ハ被告トシテ選定セラレタル者ハ訴訟手續ヲ受繼

ト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スルコト
判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第二百三條 和解又ハ請求ノ拋棄若ハ認諾ヲ調書ニ記載
シタルトキハ其ノ記載ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有
ス

第二百四條 決定及命令ハ相當ト認ムル方法ヲ以テ之ヲ
告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

裁判所書記ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ裁判ノ原本
ニ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第二百五條 訴訟ノ指揮ニ關スル決定及命令ハ何時ニテ
モ之ヲ取消スルコトヲ得

第二百六條 裁判所書記ノ處分ニ對スル異議ニ付テハ其
ノ書記所屬ノ裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第二百七條 決定及命令ニハ其ノ性質ニ反セサル限り判
決ニ關スル規定ヲ準用ス

第五節 訴訟手續ノ中斷及中止
第二百八條 當事者カ死亡シタルトキハ訴訟手續ハ中斷
ス此ノ場合ニ於テハ相續人、相續財產管理人其ノ他法
令ニ依リ訴訟ヲ續行スヘキ者ハ訴訟手續ヲ受繼クコト
ヲ要ス

相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ル間ハ訴訟手續ヲ
受繼クコトヲ得ス

第二百九條 當事者タル法人カ合併ニ因リテ消滅シタル
コトヲ要ス

第二百十三條 第二百八條第一項、第二百九條第一項及
第二百十條乃至前條ノ規定ハ訴訟代理人アル間ハ之ヲ
適用セス

第二百十四條 當事者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破
産財團ニ關スル訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テ破産
法ニ依ル受繼アル迄ニ破産手續ノ解止アリタルトキハ
破産者ハ當然訴訟手續ヲ受繼ス

第二百五條 破産法ニ依リテ破産財團ニ關スル訴訟手
續ハ受繼アリタル後破産手續ノ解止アリタルトキハ訴
訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ破産者ハ訴訟手續ヲ
受繼クコトヲ要ス

第二百十六條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於テモ亦之ヲ
爲スコトヲ得

第二百十七條 訴訟手續受繼ノ申立アリタルトキハ裁判
所ハ之ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス

第二百十八條 訴訟手續受繼ノ申立ハ裁判所職權ヲ以テ
之ヲ調査シ理由ヲシト認メタルトキハ決定ヲ以テ之ヲ
却下スルコトヲ要ス

裁判ノ送達後中斷シタル訴訟手續ノ受繼ニ付テハ其ノ
裁判ヲ爲シタル裁判所裁判ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十九條 裁判所ハ當事者カ訴訟手續ノ受繼ヲ爲サ
サル場合ニ於テモ職權ヲ以テ其ノ續行ヲ命スルコトヲ

第二百二十條 天災其ノ他ノ事故ニ因リテ裁判所ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ訴訟手續ハ其ノ事故ノ止ム迄中止ス

第二百二十一條 當事者力不定期間ノ故障ニ因リ訴訟手續ヲ續行スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ其ノ中止ヲ命スルコトヲ得

第二百二十二條 判決ノ言渡ハ訴訟手續ノ中斷中ト雖之ヲ爲スコトヲ得

訴訟手續ノ中斷又ハ中止ハ期間ノ進行ヲ止メ訴訟手續ノ受繼ノ通知又ハ續行ノ時ヨリ更ニ全期間ノ進行ヲ始ス

第二編 第一審ノ訴訟手續

第一章 地方裁判所ノ訴訟手續

第一節 訴

第二百二十三條 訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十四條 訴狀ニハ當事者、法定代理人並請求ノ趣旨及原因ヲ記載スルコトヲ要ス

準備書面ニ關スル規定ハ訴狀ニ之ヲ準用ス
第二百二十五條 確認ノ訴ハ法律關係ヲ證スル書面ノ真否ヲ確定スル爲ニモ之ヲ提起スルコトヲ得

トテ得但シ之ニ因リ著ク訴訟手續ヲ遲滯セシムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

請求ノ變更ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第二百三十三條 裁判所カ請求又ハ請求ノ原因ノ變更ヲ不當ナリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ變更ヲ許ササル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第二百三十四條 裁判カ訴訟ノ進行中ニ爭ト爲リタル法律關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ルトキハ當事者ハ請求ヲ擴張シテ其ノ法律關係ノ確認ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但シ其ノ確認ノ請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキニ限ル

前項ノ規定ニ依リ請求ノ擴張ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百三十五條 時効ノ中斷又ハ法律上ノ期間遵守ノ爲必要ナル裁判上ノ請求ハ訴ヲ提起シタル時又ハ第二百三十二條第二項若ハ前條第二項ノ規定ニ依リ書面ヲ裁判所ニ提出シタル時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第二百三十六條 訴ハ判決ノ確定ニ至ル迄其ノ全部又ハ一部ヲ取下クルコトヲ得但シ相手方カ本案ニ付準備書面ヲ提出シ、準備手續ニ於テ申述ヲ爲シ又ハ口頭辯論ヲ爲シタルトキハ訴ノ取下ニ付其ノ同意アルコトヲ要ス

第二百二十六條 將來ノ給付ヲ求ムル訴ハ豫メ其ノ請求ヲ爲ス必要アル場合ニ限り之ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十七條 數個ノ請求ハ同種ノ訴訟手續ニ依ル場合ニ限リ一ノ訴ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十八條 訴狀カ第二百二十四條第一項ノ規定ニ違背スル場合ニ於テハ裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺ヲ補正スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス法律ノ規定ニ從ヒ訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合亦同シ

原告カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ裁判長ハ命令ヲ以テ訴狀ヲ却下スルコトヲ要ス

前項ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告狀ニハ却下セラレタル訴狀ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百二十九條 訴狀ハ之ヲ被告ニ送達スルコトヲ要ス

前條ノ規定ハ訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十條 訴ノ提起アリタルトキハ裁判長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スコトヲ要ス

第二百三十一條 裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ當事者ハ更ニ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百三十二條 原告ハ請求ノ基礎ニ變更ナキ限リ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄請求又ハ請求ノ原因ヲ變更スルコトヲ得

訴ノ取下ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ口頭辯論ニ於テ又ハ準備手續中受命判事ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

訴狀送達ノ後ニ在リテハ取下ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第二百三十七條 訴訟ハ訴ノ取下アリタル部分ニ付テハ初ヨリ繫屬ナカリシモノト看做ス

本案ニ付終局判決アリタル後訴ヲ取下ケタル者ハ同一ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百三十八條 當事者雙方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セズ又ハ辯論ヲ爲サスシテ退廷シタル場合ニ於テ三月内ニ期日指定ノ申立ヲ爲ササルトキハ訴ノ取下アリタルモノト看做ス

第二百三十九條 被告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄本訴ノ繫屬スル裁判所ニ反訴ヲ提起スルコトヲ得但シ其ノ目的タル請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキ及本訴ノ目的タル請求又ハ防禦ノ方法ト牽連スルトキニ限ル

第二百四十條 反訴ニ付テハ本訴ニ關スル規定ニ依ル

第二百四十一條 本訴ノ取下アリタルトキハ被告ハ原告ノ同意ヲ得スシテ反訴ヲ取下クルコトヲ得

第二節 辯論ノ準備

第二百四十二條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス

第二百四十三條 準備書面ハ之ニ記載シタル事項ニ付相手方カ準備ヲ爲スニ必要ナル期間ヲ存シ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判所ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス
裁判長ハ準備書面ヲ提出スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ得

第二百四十四條 準備書面ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者又ハ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス
一 當事者ノ氏名、名稱又ハ商號、職業及住所
二 代理人ノ氏名、職業及住所
三 事件ノ表示
四 攻撃又ハ防禦ノ方法
五 相手方ノ請求及攻撃又ハ防禦ノ方法ニ對スル陳述

六 附屬書類ノ表示
七 年月日
八 裁判所ノ表示
第二百四十五條 當事者ノ所持スル文書ニシテ準備書面ニ引用シタルモノハ準備書面ノ各通ニ其ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス
文書ノ一部ノミヲ必要トスルトキハ其ノ抄本ヲ添附シ文書カ大部ナルトキハ其ノ文書ヲ表示スルヲ以テ足

第二百四十六條 前條ノ文書ハ相手方ノ求ニ因リ其ノ原本ヲ閱覽セシムルコトヲ要ス

第二百四十七條 準備書面ニ記載セサル事實ハ相手方カ在廷セサルトキハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得

第二百四十八條 外國語ヲ以テ作リタル文書ニハ其ノ譯文ヲ添付スルコトヲ要ス
第二百四十九條 訴訟ニ付テハ受命判事ニ依リ口頭辯論ノ準備手續ヲ爲スコトヲ要ス但シ裁判所相當ト認ムルトキハ直ニ辯論ヲ命シ又ハ訴訟ノ一部若ハ或爭點ノミニ付準備手續ヲ命スルコトヲ得

第二百五十條 準備手續ニ於テハ調書ヲ作り當事者ノ陳述ニ基キ第二百四十四條第四號及第五號ニ掲クル事項ヲ記載シ殊ニ證據ニ付テハ其ノ申出ヲ明確ニスルコトヲ要ス
受命判事相當ト認ムルトキハ準備書面ヲ以テ前項ノ陳述及調書ニ代フルコトヲ得
第二百五十一條 當事者ノ一方カ期日ニ出頭セサルトキハ前條ノ調書ノ謄本ヲ之ニ送達シ新期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スコトヲ得
第二百五十二條 受命判事ハ當事者ヲシテ準備書面ヲ提出セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百四十三條

ノ規定ヲ準用ス
第二百五十三條 當事者カ期日ニ出頭セス又ハ前條ノ規定ニ依リ受命判事ノ定メタル期間内ニ準備書面ヲ提出セサルトキハ受命判事ハ準備手續ヲ終結スルコトヲ得

第二百五十四條 當事者ハ口頭辯論ニ於テ準備手續ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス
第二百五十五條 調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セサル事項ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得但シ其ノ事項カ裁判所職權ヲ以テ調査スヘキモノナルトキ、著ク訴訟ヲ遲滯セシメサルトキ又ハ重大ナル過失ヲクシテ準備手續ニ於テ之ヲ提出スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ハ第二百四十七條ノ規定ノ適用ヲ妨ケず
訴狀又ハ準備手續前ニ提出シタル準備書面ニ記載シタル事項ハ調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セサルモノト雖口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ妨ケズ

第二百五十六條 第二百二十六條乃至第二百二十九條、第三百一十一條、第三百三十三條乃至第四百一十一條及第二百三十八條ノ規定ハ準備手續ニ之ヲ準用ス
第三節 證據
第一款 總則

第二百五十七條 裁判所ニ於テ當事者カ自白シタル事實及顯著ナル事實ハ之ヲ證スルコトヲ要セス

第二百五十八條 證據ノ申出ハ證スヘキ事實ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
證據ノ申出ハ期日前ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得
第二百五十九條 當事者ノ申出タル證據ニシテ裁判所ニ於テ不必要ト認ムルモノハ之ヲ取調フルコトヲ要セス

第二百六十條 證據調ニ付不定期間ノ障礙アルトキハ裁判所ハ證據調ヲ爲ササルコトヲ得
第二百六十一條 裁判所ハ當事者ノ申出タル證據ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキ其ノ他必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得
第二百六十二條 裁判所ハ必要ナル調査ヲ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ學校、商業會議所、取引所其ノ他ノ團體ニ囑託スルコトヲ得

第二百六十三條 證據調ハ當事者カ期日ニ出頭セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得
第二百六十四條 外國ニ於テ爲スヘキ證據調ハ其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ之ヲ囑託シテ爲スコトヲ要ス
外國ニ於テ爲シタル證據調ハ其ノ國ノ法律ニ違背スルモ本法ニ違背セサルトキハ其ノ效力ヲ有ス

第二百六十五條 裁判所ハ相當ト認ムルトキハ裁判所外ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ部員ニ命シ又ハ區裁判所ニ囑託シテ證據調ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十六條 受託判事ハ證據調ニ關スル記録ヲ受託裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第二百六十七條 裁判所ハ即時ニ取調フルコトヲ得ヘキ證據ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リテ保證金入供託シタルトキハ當事者又ハ法定代理人カ虛偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ保證金ヲ沒取ス

第二百六十九條 第二百六十七條第二項ノ規定ニ依リテ宣誓ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虛偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ宣誓ヲ爲サシメタル裁判所決定ヲ以テ

第二百七十條 貴族院若ハ衆議院ノ議員又ハ議員タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ院ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十一條 證人ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百七十二條 官吏又ハ官吏タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ當該監督官應ニ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十三條 國務大臣、宮内大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ勅許ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十四條 貴族院若ハ衆議院ノ議員又ハ議員タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ院ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十五條 證人訊問ノ申出ハ證人ヲ指定シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百七十六條 證人ノ呼出狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ表示
二 訊問事項ノ要領
三 出頭セサル場合ニ於ケル法律上ノ制裁

第二百七十七條 證人カ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ負擔ヲ命シ且五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百七十八條 裁判所ハ正當ノ事由ナクシテ出頭セサル證人ノ勾引ヲ命スルコトヲ得

第二百七十九條 左ノ場合ニ於テハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ證人ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

一 證人カ受託裁判所ニ出頭スル義務ナキトキ又ハ正當ノ事由ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキ
二 證人カ受託裁判所ニ出頭スルニ付不相當ノ費用又ハ時間ヲ要スルトキ

第二百八十條 證言カ證人又ハ左ニ掲クル者ノ刑事上ノ追及ハ處罰ヲ招ク虞アル事項ニ關スルトキハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得證言カ此等ノ者ノ恥辱ニ歸スヘキ事項ニ關スルトキ亦同シ

一 證人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ證人ノ家ノ戸主但シ親族ニ付テハ親族關係カ

五百圓以下ノ過料ニ處ス
第二百七十七條 第二百六十八條及前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二款 證人訊問
第二百七十一條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百七十二條 官吏又ハ官吏タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ當該監督官應ニ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十三條 國務大臣、宮内大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ勅許ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十四條 貴族院若ハ衆議院ノ議員又ハ議員タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ院ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十五條 證人訊問ノ申出ハ證人ヲ指定シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百七十六條 證人ノ呼出狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 證人ノ後見人又ハ證人ノ後見ヲ受クル者
二 證人カ主人トシテ仕フル者

第二百七十七條 左ノ場合ニ於テハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一 第二百七十二條乃至第二百七十四條ノ場合
二 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辨理士、辯護人、公證人、宗教又ハ禮祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者カ職務上知リタル事實ニシテ秘密スヘキモノニ付訊問ヲ受クルトキ

三 技術又ハ職業ノ秘密ニ關スル事項ニ付訊問ヲ受クルトキ

前項ノ規定ハ證人カ默秘ノ義務ヲ免セラレタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百八十二條 證言拒絶ノ理由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

第二百八十三條 第二百八十一條第一項第一號ノ場合ヲ除ク外證言拒絶ノ當否ニ付テハ受託裁判所當事者ヲ審訊シテ裁判ヲ爲ス

證言拒絶ニ關スル裁判ニ對シテハ當事者及證人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百八十四條 證言拒絶ノ理由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

民事訴訟法中改正法律 第一審ノ訴訟手續 地方裁判所ノ訴訟手續 證據

ノ規定ヲ準用ス
 第二百八十五條 裁判長ハ證人ヲシテ訊問前宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得
 第二百八十六條 宣誓ハ起立シテ嚴肅ニ之ヲ行フコトヲ要ス
 第二百八十七條 裁判長ハ宣誓前宣誓ノ趣旨ヲ諭示シ且偽證ノ罰ヲ警告スルコトヲ要ス
 第二百八十八條 宣誓ハ證人ヲシテ宣誓書ヲ朗讀セシメ且之ニ署名捺印セシメテ之ヲ爲ス證人宣誓書ヲ朗讀スルコト能ハサルトキハ裁判長代リテ之ヲ朗讀ス
 宣誓書ニハ眞心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス
 第二百八十九條 左ニ掲クル者ヲ證人トシテ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス
 一 十六年未滿ノ者
 二 宣誓ノ趣旨ヲ理解スルコト能ハサル者
 第二百九十條 第二百八十八條ノ規定ニ該當スル證人ニシテ證言拒絶ノ權利ヲ行ハサル者ヲ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得
 第二百九十一條 證人カ自己又ハ第二百八十八條ニ掲クル者ニ著キ利害關係アル事項ニ付訊問ヲ受クルトキハ宣誓ヲ拒ムコトヲ得

誓ヲ拒ムコトヲ得
 第二百九十二條 宣誓ヲ爲サシムルコトヲ證人ヲ訊問シタルトキハ其ノ旨及事由ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス
 第二百九十三條 第二百七十七條、第二百八十二條及第二百八十三條ノ規定ハ證人カ宣誓ヲ拒ム場合ニ之ヲ準用ス
 第二百九十四條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人相互ノ對質ヲ命スルコトヲ得
 第二百九十五條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人ヲシテ文字ノ手記其ノ他必要ナル行爲ヲ爲サシムルコトヲ得
 第二百九十六條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ後ニ訊問スヘキ證人ニ在廷ヲ許スコトヲ得
 第二百九十七條 證人ハ書類ニ依リテ陳述ヲ爲スコトヲ得但シ裁判長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第二百九十八條 陪席判事ハ裁判長ニ告ケ證人ニ對シテ問ヲ發スルコトヲ得
 第二百九十九條 當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求メ又ハ其ノ許可ヲ得テ問ヲ發スルコトヲ得
 當事者ハ發問ノ可否ニ付異議ヲ述フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所異議ニ付裁判ヲ爲ス
 第三百條 受命判事又ハ受託判事カ證人訊問ヲ爲ス場合

ニ於テハ裁判所及裁判長ノ職務ハ其ノ判事之ヲ行フ但シ前條第二項ノ規定ニ依ル異議ノ裁判ハ受託裁判所之ヲ爲ス
 第三款 鑑定
 第三百一一條 鑑定ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前條ノ規定ヲ準用ス
 第三百一十二條 鑑定ニ必要ナル學識經驗アル者ハ鑑定ヲ爲ス義務ヲ負フ
 第二百八十八條又ハ第二百九十一條ノ規定ニ依リテ證言又ハ宣誓ヲ拒ミ得ル者ト同一ノ地位ニ在ル者及第二百八十九條ニ掲クル者ハ鑑定人タルコトヲ得ス
 第三百一三條 鑑定人ハ之ヲ勾引スルコトヲ得ス
 第三百一四條 鑑定人ハ受託裁判所、受命判事又ハ受託判事之ヲ指定ス
 第三百一五條 鑑定人ニ付誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ其ノ鑑定人カ鑑定事項ニ付陳述ヲ爲ス前之ヲ忌避スルコトヲ得陳述ヲ爲シタルトキト雖其ノ後ニ忌避ノ原因ヲ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知リタルトキ亦同シ
 第三百一六條 忌避ノ申立ハ受託裁判所、受命判事又ハ受託判事ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 忌避ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス
 忌避ノ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツル

コトヲ得ス之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三百一七條 宣誓書ニハ眞心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス
 第三百一八條 裁判長ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ共同ニテ之ハ各別ニ意見ヲ述ヘシムルコトヲ得
 第三百一十九條 特別ノ學識經驗ニ依リテ知り得タル事實ニ關スル訊問ニ付テハ證人訊問ニ關スル規定ニ依ル
 第三百二十條 裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ相當ノ設備アル法人ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ宣誓ニ關スル規定ヲ除クノ外本條ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳、公署又ハ法人ノ指定シタル者ヲシテ鑑定書ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得
 第四款 書證
 第三百一十一條 書證ノ申出ハ文書ヲ提出シ又ハ之ヲ所持スル者ニ其ノ提出ヲ命セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第三百一十二條 左ノ場合ニ於テハ文書ノ所持者ハ其ノ提出ヲ拒ムコトヲ得ス
 一 當事者カ訴訟ニ於テ引用シタル文書ヲ自ラ所持スルトキ

二 舉證者カ文書ノ所持者ニ對シ其ノ引渡又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得ルトキハ

三 文書カ舉證者ノ利益ノ爲ニ作成セラレ又ハ舉證者ノ利益ノ爲ニ作成セラレ法律關係ニ付作成セラレタル文書ノ所持者トシテ之ノ引渡又ハ閱覽ヲ得ルコトヲ得

第三百十三條 文書提出ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス

一 文書ノ表示

二 文書ノ趣旨

三 文書ノ所持者

四 證スヘキ事實

五 文書提出ノ義務ノ原因

第三百十四條 裁判所カ文書提出ノ申立ヲ理由アリト認メタルトキハ決定ヲ以テ文書ノ所持者ニ對シ其ノ提出ヲ命ス

第三百十五條 文書提出ノ申立ニ關スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十六條 當事者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百十七條 當事者カ相手方ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ提出ノ義務アル文書ヲ毀滅シ其ノ他之ヲ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ裁判所ハ其ノ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百十八條 第三者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十九條 書證ノ申出ハ第三百十一條ノ規定ニ拘ラス文書ノ所持者ニ其ノ文書ヲ送付ヲ囑託セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者カ法令ニ依リテ文書ノ正本又ハ謄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十條 裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ提出又ハ送付ニ係ル文書ヲ留置クコトヲ得

第三百二十一條 第二百六十五條ノ規定ニ依リテ受命判事又ハ受託判事ヲシテ文書ニ付證據調ヲ爲サシムル場合ニ於テハ裁判所ハ受命判事又ハ受託判事ノ調書ニ記載スヘキ事項ヲ定ムルコトヲ得

第三百二十二條 文書ノ提出又ハ送付ハ原本、正本又ハ謄本ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百二十三條 裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス原本ノ提出ヲ命ジ又ハ送付ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百二十九條 對照ニ適當ナル筆跡ナキトキハ裁判所ハ對照ノ用ニ供スヘキ文字ノ手記ヲ相手方ニ命スルコトヲ得

第三百三十條 相手方カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ノ眞否ニ關スル舉證者ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得書樣ヲ變シテ手記シタルトキ亦同シ

第三百三十一條 對照ノ用ニ供シタル書類ノ原本、謄本又ハ抄本ハ之ヲ調書ニ添附スルコトヲ要ス

第三百三十二條 當事者又ハ其ノ代理人カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ眞實ニ反シテ文書ノ眞正ヲ爭ヒタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十三條 前項ノ場合ニ於テ文書ノ眞正ヲ爭ヒタル當事者又ハ代理人カ訴訟ノ繫屬中其ノ眞正ナルコトヲ認メタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得

第三百三十四條 第五款 檢證

第三百三十五條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十六條 受命判事又ハ受託判事ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ引用シタル文書ノ謄本又ハ抄本ヲ提出セシムルコトヲ得

第三百二十三條 文書ハ其ノ方式及趣旨ニ依リ官吏其ノ他ノ公務員カ職務上作成シタルモノト認ムヘキトキハ之ヲ眞正ナル公文書ト推定ス

第三百二十四條 前條ノ規定ハ外國ノ官廳又ハ公署ノ作成ニ係ルモノト認ムヘキ文書ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條 私文書ハ其ノ眞正ナルコトヲ證スルコトヲ要ス

第三百二十六條 私文書ハ本人又ハ其ノ代理人ノ署名又ハ捺印アルトキハ之ヲ眞正ナルモノト推定ス

第三百二十七條 文書ノ眞否ハ筆跡又ハ印影ノ對照ニ依リテモ之ヲ證スルコトヲ得

第三百二十八條 第三百十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ對照ノ用ニ供スヘキ筆跡又ハ印影ヲ具フル文書其ノ他ノ物件ノ提出又ハ送付ニ之ヲ準用ス

第三百二十九條 第三者カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依リ提出ノ命ニ從ハサルトキハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十條 檢證

第三百三十一條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十二條 受命判事又ハ受託判事ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第三百二十九條 對照ニ適當ナル筆跡ナキトキハ裁判所ハ對照ノ用ニ供スヘキ文字ノ手記ヲ相手方ニ命スルコトヲ得

第三百三十條 相手方カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ノ眞否ニ關スル舉證者ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得書樣ヲ變シテ手記シタルトキ亦同シ

第三百三十一條 對照ノ用ニ供シタル書類ノ原本、謄本又ハ抄本ハ之ヲ調書ニ添附スルコトヲ要ス

第三百三十二條 當事者又ハ其ノ代理人カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ眞實ニ反シテ文書ノ眞正ヲ爭ヒタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十三條 前項ノ場合ニ於テ文書ノ眞正ヲ爭ヒタル當事者又ハ代理人カ訴訟ノ繫屬中其ノ眞正ナルコトヲ認メタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得

第三百三十四條 第五款 檢證

第三百三十五條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十六條 受命判事又ハ受託判事ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第三百三十五條 第三百三十一條、第三百三十四條乃至第三百三十七條及第三百三十九條乃至第三百四十一條ノ規定ハ檢證ノ目的ノ提示又ハ送付ニ之ヲ準用ス

第六款 當事者訊問

第三百三十六條 裁判所カ證據調ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

第七款 證據保全

第三百四十三條 裁判所ハ豫メ證據調ヲ爲スニ非サレハ其ノ證據ヲ使用スルニ困難ナル事情アリト認ムルトキハ申立ニ因リ本節ノ規定ニ從ヒ證據調ヲ爲スコトヲ得

第一 相手方ノ表示

二 證據スヘキ事實

三 證據保全ノ事由

四 證據保全ノ事由

第三百四十六條 證據保全ノ申立ハ相手方ヲ指定スルコト能ハサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ相手方ト爲ルヘキ者ノ爲ニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ得

第三百五十三條

第三百五十四條

第三百五十五條

第三百五十三條 訴ハ口頭ヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得

第三百八十三條 不適當ナル控訴ニシテ其ノ欠缺ヲ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第三百八十四條 控訴裁判所ハ第一審判決ヲ相當トスル限リテ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス

第三百八十五條 第一審判決ノ變更ハ不服申立ノ限度ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十六條 控訴裁判所ハ第一審判決ヲ不當トスルトキハ之ヲ取消スコトヲ要ス

第三百八十七條 第一審ノ判決ノ手續カ法律ニ違背シタルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ取消スコトヲ要ス

第三百八十八條 第一審ノ判決ヲ却下シタル第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テハ控訴裁判所ハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ要ス

第三百八十九條 前條ノ場合ノ外控訴裁判所カ第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テ事件ニ付尙辯論ヲ爲ス必要アルトキハ之ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第三百九十條 第一審裁判所ニ於ケル訴訟手續カ法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ事件ヲ差戻スコトキハ其ノ訴訟手續ハ之

因リテ取消サレタルモノト看做ス

第三百九十一條 判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ第一審判決ヲ引用スルコトヲ得

第三百九十二條 訴訟完結シタル後上訴ノ提起ナクシテ上訴期間満了シタルトキハ裁判所書記ハ判決又ハ第三百七十七條ノ規定ニ依ル命令ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ之ヲ第一審裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス

第二章 上告

第三百九十三條 上告ハ控訴審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十四條 上告ノ場合ニ於テハ第一審判決ニ對シ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條 上告ハ判決カ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十六條 判決ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法令ニ違背シタルモノトス

一 法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

二 法律ニ依リ判決ニ關與スルコトヲ得サル判事カ判決ニ關與シタルトキ

三 專屬管轄ニ關スル規定ニ違背シタルトキ

四 法定代理權、訴訟代理權又ハ代理人カ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アリタルトキ

五 口頭辯論公開ノ規定ニ違背シタルトキ

六 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

前項第四號ノ規定ハ第五十四條又ハ第八十七條ノ規定ニ依ル追認アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百九十六條 前章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告及上告審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

第三百九十七條 上告裁判所ノ書記ハ原裁判所ノ書記ヨリ訴訟記録ノ送付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ當事者ニ通知スルコトヲ要ス

第三百九十八條 上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セサルトキハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ上告理由書ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百九十九條 上告人カ前條ノ規定ニ違背シ上告理由書ヲ提出セサルトキハ上告裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ上告ヲ却下スルコトヲ得

第四百條 裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ答辯書ヲ提出スヘキコトヲ被上告人ニ命スルコトヲ得

第四百一條 上告裁判所カ上告狀、上告理由書、答辯書其ノ他ノ書類ニ依リ上告ノ理由ヲ認ムルトキハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スルコトヲ得

第四百二條 上告裁判所ハ上告理由ニ基キ不服ノ申立アリタル限リニ於テノミ調査ヲ爲ス

第四百三條 原判決ニ於テ適法ニ確定シタル事實ハ上告裁判所ヲ羈束ス

第四百四條 第三百九十三條第二項ノ規定ニ依ル上告アリタル場合ニ於テハ上告裁判所ハ原判決ニ於ケル事實ヲ確定カ法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ其ノ判決ヲ破毀スルコトヲ得

第四百五條 第四百二條乃至前條ノ規定ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ之ヲ適用セス

第四百六條 上告裁判所ハ原判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限リ申立ニ因リ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

第四百七條 上告ノ理由アリトスルトキハ上告裁判所ハ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ上告裁判所カ破毀ノ理由ト爲シタル事實上及法律上ノ判斷ニ羈束セラル

原判決ニ關與シタル判事ハ前項ノ裁判ニ關與スルコトヲ得

第四百八條 左ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ事件ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス

一 確定シタル事實ニ付法令ノ適用ヲ誤リタルコトヲ理由トシテ判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件カ其ノ事實ニ基キ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ

二 事件カ通常裁判所ノ權限ニ屬セザルコトヲ理由トシテ判決ヲ破毀スルトキ

第四百九條 差戻又ハ移送ノ判決アリタルトキハ裁判所書記ハ其ノ判決ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ノ書記ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第三章 抗告

第四百十條 口頭辯論ヲ經スシテ訴訟手續ニ關スル申立ヲ却下シタル決定又ハ命令ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百十一條 決定又ハ命令ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得サル事項ニ付決定又ハ命令ヲ爲シタルトキハ當事者ハ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百十二條 受命判事又ハ受託判事ノ裁判ニ對シ不服アル當事者ハ受訴裁判所ニ異議ヲ申立テ爲スコトヲ得但シ其ノ裁判カ受訴裁判所ノ裁判ナル場合ニ於テ之ニ對シ抗告ヲ爲シ得ルモノナルトキニ限ル

抗告ハ異議ニ付テノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ハ大審院ニ繫屬スル事件ニ付受命判事又ハ受託判事ノ爲シタル裁判ニ之ヲ準用ス

第四百十三條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ其ノ決定カ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスル場合ニ限り更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百十四條 抗告及抗告裁判所ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セザル限り第一章ノ規定ヲ準用ス但シ前條ノ抗告及之ニ關スル訴訟手續ニハ前章ノ規定ヲ準用ス

第四百十五條 即時抗告ハ裁判ノ告知アリタル日ヨリ一週間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第四百十六條 抗告ハ原裁判所又ハ抗告裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

抗告裁判所カ抗告ヲ受ケタル場合ニ於テ適當ト認ムルトキハ事件ヲ原裁判所ニ送付スルコトヲ得

第四百十七條 原裁判所カ抗告ヲ受ケ又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ事件ヲ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ其ノ裁判ヲ更正スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ事件ヲ抗告裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第四百十八條 抗告ハ即時抗告ニ限り執行停止ノ效力ヲ有ス

抗告裁判所又ハ原裁判所カ爲シタル裁判所若ハ判事ハ抗告ニ付決定アル迄原裁判所ノ執行ヲ停止シ其ノ他必要ナ

ル處分ヲ命スルコトヲ得

第四百十九條 抗告裁判所ハ抗告ニ付口頭辯論ヲ命セザル場合ニ於テハ抗告人其ノ他ノ利害關係人ヲ審訊スルコトヲ得

第四編 再審

第四百二十條 左ノ場合ニ於テハ確定ノ終局判決ニ對シ再審ノ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得但シ當事者カ上訴ニ依リ其ノ事由ヲ主張シタルトキ又ハ之ヲ知りテ主張セザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

一 法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

二 法律ニ依リ裁判ニ關スルコトヲ得サル判事カ裁判ニ關シタルトキ

三 法定代理權ノ訴訟代理權又ハ代理人カ訴訟行為ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アリタルトキ

四 裁判ニ關シタル判事カ事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルトキ

五 刑事上罰スヘキ他人ノ行為ニ因リ自由ヲ爲スニ至リタルトキ又ハ判決ニ影響ヲ及ホスヘキ攻撃若ハ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ妨ケラレタルトキ

六 判決ノ證據ト爲リタル文書其ノ他ノ物件カ偽造又ハ變造セラレタルモノナリシトキ

七 證人、鑑定人、通事又ハ宣誓シタル當事者若ハ法定代理人ノ虛偽ノ陳述カ判決ノ證據ト爲リタルト

八 判決ノ基礎ト爲リタル民事若ハ刑事ノ判決其ノ他ノ裁判又ハ行政處分カ後ノ裁判又ハ行政處分ニ依リテ變更セラレタルトキ

九 判決ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ナル事項ニ付判斷ヲ遺脱シタルトキ

十 不服ノ申立アル判決カ前ニ言渡サレタル確定判決ト抵觸スルトキ

前項第四號乃至第七號ノ場合ニ於テハ罰スヘキ行為ニ付有罪ノ判決若ハ過料ノ裁判確定シタルトキ又ハ證據欠缺外ノ理由ニ因リ有罪ノ確定判決若ハ過料ノ確定裁判ヲ得ルコト能ハサルトキニ限り再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

控訴審ニ於テ事件ニ付本案判決ヲ爲シタルトキハ第一審ノ判決ニ對シ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第四百二十一條 判決ノ基本タル裁判ニ付前條ニ定メタル事由アルトキハ其ノ裁判ニ對シ獨立ノ不服ノ方法ヲ定メタル場合ニ於テモ其ノ事由ヲ以テ判決ニ對スル再審ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百二十二條 再審ハ不服ノ申立アル判決ヲ爲シタル裁判所ノ專屬管轄トス

審級ヲ異ニスル裁判所カ同一事件ニ付爲シタル判決ニ對スル再審ノ訴ハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄ス

第四百二十三條 再審ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セサル限り各審級ニ於ケル訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百二十四條 再審ノ訴ハ當事者カ判決確定後再審ノ事由ヲ知りタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

判決確定後五年ヲ經過シタルトキハ再審ノ訴ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

再審ノ事由カ判決確定後ニ生シタルトキハ前項ノ期間ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四百二十五條 前條ノ規定ハ代理權ノ欠缺及第四百二十條第一項第十號ニ掲タル事項ヲ理由トスル再審ノ訴ニハ之ヲ適用セス

第四百二十六條 訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者及法定代理人

二 不服ノ申立アル判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ再審ヲ求ムル旨

三 不服ノ理由

第四百二十七條 本案ノ辯論及裁判ハ不服ノ範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

不服ノ理由ハ之ヲ變更スルコトヲ得

第四百二十八條 再審ノ事由アル場合ニ於テモ判決ヲ正當トスルトキハ裁判所ハ再審ノ訴ヲ却下スルコトヲ要ス

第四百二十九條 即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル決定又ハ命令カ確定シタル場合ニ於テ第四百二十條第一項ニ掲タル事由アルトキハ確定判決ニ對スル第四百二十條乃至前條ノ規定ニ準シ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五編 督促手續

第四百三十條 金錢其ノ他ノ代替物又ハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付テハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ヲ發スルコトヲ得但シ日本ニ於テ公示送達ニ依ラスシテ其ノ命令ノ送達ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ限ル

第四百三十一條 督促手續ハ債務者ノ普通裁判籍所在地ノ區裁判所又ハ第九條ノ規定ニ依ル管轄區裁判所ノ專屬管轄トス

第四百三十二條 支拂命令ノ申立ニハ其ノ性質ニ反セサル限り訴ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百三十三條 支拂命令ノ申立カ第四百三十條若ハ管轄ニ關スル規定ニ違背スルトキ又ハ申立ノ趣旨ニ依リ請求ノ理由ナキコト明ナルトキハ其ノ申立ハ之ヲ却下スルコトヲ要ス請求ノ一部ニ付支拂命令ヲ發スルコト

ヲ得サルトキ其ノ一部ニ付亦同シ

申立却下ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四百三十四條 支拂命令ハ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ發ス

債務者ハ支拂命令ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條 支拂命令ニハ當事者、法定代理人並請求ノ趣旨及原因ヲ記載シ且債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間内ニ異議ヲ申立テサルトキハ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第四百三十六條 支拂命令ハ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

第四百三十七條 債務者カ假執行ノ宣言前異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其ノ異議ノ範圍内ニ於テ效力ヲ失フ

第四百三十八條 債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間内ニ異議ヲ申立テサルトキハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ニ手續ノ費用額ヲ附記シ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ宣言前異議ノ申立アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

假執行ノ宣言ハ支拂命令ノ原本及正本ニ之ヲ記載シ其ノ正本ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

假執行ノ申立却下ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコ

トヲ得

第四百三十九條 債權者カ假執行ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ三十日以内ニ其ノ申立ヲ爲ササルトキハ支拂命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百四十條 假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令送達ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ債權者ハ其ノ支拂命令ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第四百四十一條 區裁判所カ異議ヲ不適法ト認ムルトキハ請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テモ決定ヲ以テ其ノ異議ヲ却下スルコトヲ要ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十二條 支拂命令ニ對シ適法ナル異議ノ申立アリタルトキハ異議アル請求ニ付テハ其ノ目的ノ價額ニ從ヒ支拂命令ノ申立ノ時ニ於テ其ノ命令ヲ發シタル區裁判所又ハ其ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ督促手續ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス

前項ノ規定ニ依リテ地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做サレタル場合ニ於テハ裁判所書記ハ遲滞ナク訴訟記録ヲ地方裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス

第四百四十三條 假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令ニ對シ異議ノ申立ナキトキ又ハ異議却下ノ決定確定シタル

トキハ支拂命令ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス
 第四百四十四條乃至四百九十六條ヲ削除
 第四百九十七條ノ二 判決力其判決ニ表示シタル當事者
 以外ノ者ニ對シ効力ヲ有ス可キトキハ其者ニ對シ又ハ
 其者ノ爲メニモ之ヲ執行スルコトヲ得但第六十四條ノ
 規定ニ依ル參加人ニ付テハ此限ニ在ラス
 前項ノ場合ニ於テ執行力アル正本ノ付與ニ付テハ第五
 百十九條乃至第五百二十一條ノ規定ヲ準用ス
 第五百條中「原狀回復又ハ」ヲ削ル
 第五百一條乃至第五百十一條ヲ削除
 第五百十二條中「故障ヲ申立又ハ」上訴ヲ起シタルトキ
 「上訴ヲ提起シタルトキ又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル
 支拂命令ニ對シ異議ヲ申立テタルトキ」ニ改ム
 第五百十三條ニ左ノ一項ヲ加フ
 第五百十二條、第五百十三條、第五百十五條及ヒ第五百十六條
 ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル保證ニ付テ準用ス申立
 第五百十四條中「第十七條」ヲ「第八條」ニ改ム
 第五百十五條第二項中「第二號」ヲ左ノ如ク改メ第三號乃至
 第五號ヲ削ル
 第二 外國判決力第二百條ノ條件ヲ具備セサル
 第五百四十一條中「第三百二十九條、第四百十條及ヒ第百
 四十五條乃至第四百四十九條」ヲ「第六十七條、第百六

十八條、第七十一條及ヒ第七十二條」ニ改ム
 第五百四十五條第二項中「其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之
 ヲ主張スルコトヲ得サルトキ」ヲ「其原因ヲ生シタルト
 キ」ニ改ム
 第五百四十八條第三項ヲ左ノ如ク改ム
 第五百五十條第三號ヲ左ノ如ク改ム
 第五百五十一條第三號ヲ左ノ如ク改ム
 第五百五十九條中第三號及第四號ヲ削リ第五號ヲ第三號
 第二號ニ改ム
 第五百六十條中「債務名義」ヲ「債務名義及ヒ訴訟上ノ和
 解」ニ請求ノ拋棄又ハ認諾」ニ改ム
 第五百六十一條中「執行命令」ヲ「假執行ノ宣言ヲ付シタ
 ル支拂命令」ニ改ム
 第五百六十一條ノ二 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之
 ヲ執行ス此命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ
 第五百六十二條中「第十七條」ヲ「第八條」ニ改ム
 第五百九十五條ノ執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判
 所ヲ有スル地ノ區裁判所此區裁判所ヲキトキハ差押
 フルキ債權ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有

差押フヘキ債權ハ第三債務者ノ普通裁判籍ノ所在地ニ
 在ルモノトス但物ノ引渡ヲ目的トスル債權及ヒ物上ノ
 擔保權ヲ有スル債權ハ其物ノ所在地ニ在ルモノトス
 第六百七條中「第五百五條第二項」ニ從ヒテ債務者ニ保證
 ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ「第九十六條第二
 項」ニ從ヒテ債務者ニ擔保ヲ供セシメテ」ニ改ム
 第六百三十七條中「看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲ス可シ」ヲ
 「看做ス」ニ改ム
 第六百三十八條 第六百三十六條ノ判決ノ確定シタルコ
 ト又ハ前條ノ規定ニ從ヒ異議ヲ取下ケタルモノト看做
 サレタルコトノ證明アルトキハ配當裁判所ハ之ニ基キ
 支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス
 第六百四十一條中「第二十六條」ノ規定ヲ適用ス「各區
 裁判所管轄權ヲ有ス此場合ニ於テ裁判所必要アリト認ム
 ルトキハ事件ヲ他ノ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得」
 ニ改ム
 第六百六十九條中「第四百三十三條第三項」ヲ「第七十條
 第二項及ヒ第七十三條」ニ改ム
 第六百七十七條中「第二百二十九條乃至第三百三十二條及ヒ
 第三百三十四條」ヲ「第四百二十二條乃至第四百四十七條」ニ
 改ム
 第六百八十一條中「取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴」ヲ「再

審ノ訴」ニ改ム
 第七百五十六條ノ二 假處分ヲ取消ス判決ハ財產權上ノ
 請求ニ關セサルモノニ付テモ假執行ノ宣言ヲ爲スコト
 ヲ得
 第七百六十六條中「之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設
 ケサルトキハ」第五百五十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ「ヲ削
 リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
 裁判所相當ト認ムルトキハ新聞紙ニ公告ス可キコトヲ
 命スルコトヲ得
 第七百七十四條第二項第六號ヲ左ノ如ク改ム
 第六 第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ
 於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ
 第七百七十六條中「第二百二十條」ノ條件ノ存セサルトキト
 雖モ」ヲ削ル
 第八百一條第一項第六號ヲ左ノ如ク改ム
 第六 第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ
 於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 ●民事訴訟法中改正法律施行法
 (大正十五年四月二十四日)
 法律第六十二號
 朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民事訴訟法中改正法律施行法

予裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民事訴訟法中改正法律施行法

第一條 本法ニ於テ新法ト稱スルハ大正十五年民事訴訟法中改正法律ニ依ル改正規程ヲ謂ヒ舊法ト稱スルハ従前ノ規定ヲ謂フ

第二條 新法ハ新法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ舊法ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス

第三條 新法施行前ヨリ繫屬スル事件ニ付新法ニ依リテ管轄權アル裁判所ハ舊法ニ依レハ管轄權ナキ場合ニ於テモ管轄權ヲ有ス

前項ノ事件ニ付舊法ニ依ル管轄權アル裁判所ハ新法ニ依レハ管轄權ナキ場合ニ於テモ管轄權ヲ有ス

第四條 新法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル訴訟行為ニシテ新法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ新法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五條 新法第八十五條ノ規定ハ新法施行前同條ニ掲ケル事由ヲ生シタル訴訟代理ニシテ新法施行前委任消滅ノ通知ヲ爲サザリシモノニモ之ヲ適用ス

第六條 新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ舊法ニ依リ訴訟費用ノ保證ヲ立ツル義務ナキ者ハ新法ニ依リ擔保ヲ供スルコトヲ要セス

第七條 新法施行前ヨリ進行ヲ始メタル法定期間及其ノ計算ハ舊法ニ依ル

新法施行前言渡シタル判決ニ對スル上訴ノ期間カ新法施行後進行ヲ始メタル場合亦前項ニ同シ

第八條 新法施行前裁判所書記カ判決原本ヲ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ判決ノ送達ハ申立アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第九條 新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ特ニ裁判所ノ命シタル場合ニ限リ新法ニ依リ準備手續ヲ爲ス

第十條 新法施行前舊法ニ依リテ罰金又ハ過料ニ處スヘキ行為ヲ爲シタル者ニシテ新法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ新法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限リ新法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ舊法ノ罰金又ハ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條 新法施行前第一審裁判所又ハ控訴裁判所カ管轄權違トシテ訴ヲ却下シタル場合ニ於テ上訴裁判所カ第一審裁判所ニ其ノ管轄權ヲシトスルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審ノ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ上訴裁判所カ第一審裁判所ニ管轄權アリトスルトキハ事件ヲ其ノ裁判所ニ差戻スコトヲ要ス但シ第一審裁判所カ管轄權アリト爲シタル事件ニ付控訴裁判所カ管轄權違トシテ訴ヲ却下シタル場合ニ於テハ上告裁判所ハ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻スコトヲ得

第十二條 新法施行前抗告裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテハ仍舊法ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

●民事訴訟費用法中改正法律

(大正十五年四月二十四日法律第六十三號)

第十三條 開席判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

執行命令ニ對シテハ舊法ニ依ル故障期間内ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第十四條 新法施行前妨訴抗辯ヲ棄却シ又ハ請求ノ原因ヲ正當ナリトシタル中間判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得

第十五條 新法施行前ヨリ繫屬スル證書訴訟及爲替訴訟ハ仍舊法ニ依リ之ヲ完結ス但シ訴訟カ新法施行ノ際第一審ニ繫屬スルトキハ新法施行ノ日ヨリ通常ノ手續ニ於テ繫屬スルモノト看做ス

第十六條 故障ヲ許ササル開席判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得

第十七條 新法施行前請求ノ拋棄又ハ認諾ニ基キ判決ヲ求ムル申立アリタルトキハ仍舊法ニ依リ裁判ス新法施行前開席判決ノ申立アリタルトキ亦同シ

第十八條 新法施行前言渡シタル判決ニシテ舊法第四百二十二條ニ掲ケタルモノニ對シテ控訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ仍舊法ノ規定ニ依ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民事訴訟費用法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民事訴訟費用法中改正法律

第一條 訴訟費用ハ「訴訟費用ハ權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナル限度ノ費用トシ」ニ改ム

第八條中「第二百二十七條」ヲ「第二百五條」ニ「附添テ命シタルトキハ」ヲ「附添テ命シタルトキ又ハ同法第二百六十二條若クハ第三百十條第一項ノ規定ニ從ヒ囑託ヲ爲シタルトキハ」ニ改ム

第十一條乃至第十三條中「及ヒ當事」ヲ「、通事及ヒ民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル説明者」ニ改ム

第十七條 證人、鑑定人、通事及ヒ民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル説明者ノ日當、旅費、止宿料其他ノ費用ハ請求ニ因リ裁判所之ヲ支拂フ民事訴訟法第二百六十二條及ヒ第三百十條第一項ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル者ニ對スル報酬亦同シ

第十八條 當事者ノ豫納ニ係ラサル費用ハ裁判ニ因リテ其費用ヲ負擔スヘキ者ヨリ裁判所之ヲ取立ツルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル費用ノ取立ハ第一審ノ受訴裁判所ノ

決定ニ依リ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス其決定ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス前項ノ規定ハ民事訴訟法第二百三十三條ノ規定ニ從ヒ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ相手方ヨリ裁判費用ノ取立ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 民事訴訟法第二百一十一條及ヒ第二百二十二條ノ規定ニ依ル費用ノ取立ノ決定ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス其決定ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●民事訴訟用印紙法中改正法律

(大正十五年四月二十四日) 法律第六十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民事訴訟用印紙法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
民事訴訟用印紙法中左ノ通改正ス
第二條中「第三條乃至第六條」ヲ「第二十二條第一項及ヒ第二十三條」ニ改ム
第五條ノ二 民事訴訟法第七十一條又ハ第七十五條ノ規定ニ依ル參加ノ申出書ニハ第二條、第三條及ヒ前條ノ規定ニ準シ印紙ヲ貼用ス可シ

第六條中「支拂命令ノ申請」ヲ「支拂命令ノ申立」ニ改ム第六條ノ二中「左ニ掲クル申立」ヲ「左ニ掲クル申立、申出」ニ改メ同條第一號乃至第十三號ヲ左ノ如ク改ム
一 期日指定ノ申立
二 中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立
三 民事訴訟法第六十四條ノ參加ノ申出
四 除斥又ハ忌避ノ申立
五 和解ノ申立
六 費用額確定ノ申立
七 假執行ニ關スル申立
八 強制執行ノ停止若クハ續行又ハ執行處分ノ取消ノ申立
九 配當要求
十 強制競賣又ハ強制管理ノ申立
十一 債權又ハ他ノ財産權差押ノ申請
十二 民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立
第六條ノ三中「左ニ掲クル申立」ヲ「左ニ掲クル申立、申出」ニ改ム
第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百五十六條第三項又ハ第四百四十二條ノ規定ニ依リ訴訟力繫屬スルトキハ第二條及ヒ第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但第六條又ハ第十條ノ規定ニ依リ貼用シタル

●人事訴訟手續法中改正法律

(大正十五年四月二十四日) 法律第六十六號

印紙ノ額ヲ通算ス
第九條 削除
第十條中「申立」ヲ「申立、申出」ニ改ム
第十一條中「第九十七條」ヲ「第一百二十條」ニ改ム
第十二條乃至第十五條 削除
第十六條中「及ヒ第十二條」ヲ削ル

●商事非訟事件印紙法中改正法律

(大正十五年四月二十四日) 法律第六十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商事非訟事件印紙法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
商事非訟事件印紙法中左ノ通改正ス
第一條中「民事訴訟用」ヲ削ル
第二條第三號ヲ削ル
第八條中「第二章第五節」ヲ「第三章第一節」ニ改ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●非訟事件手續法中改正法律

(大正十五年四月二十四日) 法律第六十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非訟事件手續法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
非訟事件手續法中改正法律

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

競賣法中改正法律 民法中改正法律

裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 非訟事件手續法中左ノ通改正ス
 第四條第二項ヲ左ノ如ク改ム
 管轄裁判所ノ指定ハ關係アル裁判所ニ共通スル直近上級裁判所申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第七條中「第六十四條」ヲ「第八十條」ニ改メ同條但書ヲ左ノ如ク改ム
 但私文書ニ認證ヲ受クヘキ旨ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第八條 民事訴訟法第五十條ノ規定ハ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス
 第二十二條 當事者カ其責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ即時抗告ノ期間ヲ遵守スルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ノ止ミタル後一週間内ニ限り懈怠シタル行爲ノ追完ヲ爲スコトヲ得
 第二十四條 削除
 第二十五條中「前五條ニ」ヲ「特ニ」ニ改ム
 第二十九條中「第八十條第一項」ヲ「第九十三條」ニ改ム
 第三十條第一項ニ左ノ但書ヲ加ヘ同條第二項ヲ削ル
 但獨立シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第七十八條中「第七十二條第一項」ヲ「第八十九條」ニ改ム

ノ效力ヲ生セス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●破産法中改正法律

(大正十五年四月二十四日) 法律第七十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル破産法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 破産法中左ノ通改正ス
 第二百八十八條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第四項ヲ削ル
 破産者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ債權調査ノ期日ニ出頭スルコト能ハサルシトキハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ一週間内ニ限り異議ヲ追完スル爲破産裁判所ニ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律

(大正十五年四月二十四日) 法律第七十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治三十二年法律第五十號中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 明治三十二年法律第五十號中左ノ通改正ス

破産法中改正法律

外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律

刑事訴訟

第二百二十六條中「第九十八條及ヒ商法施行法第九十五條第二項、第二百二條第二項、第一百十條第二項」ヲ「及ヒ第九十八條」ニ改ム
 第三百三十四條中「第四十八條及ヒ商法施行法第二百二條第二項」ヲ「及ヒ第四十八條」ニ改ム
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 ●競賣法中改正法律 (大正十五年四月二十四日) 法律第六十八號
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル競賣法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 競賣法中左ノ通改正ス
 第二十五條第三項ヲ削ル
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 ●民法中改正法律 (大正十五年四月二十四日) 法律第六十九號
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 民法中左ノ通改正ス
 第五百十條 支拂命令ハ債權者カ法定ノ期間内ニ假執行ノ申立ヲ爲ササルニ因リ其效力ヲ失フトキハ時効中斷

第二條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●刑事訴訟法中改正法律

(大正十五年四月二十四日) 法律七十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 刑事訴訟法中左ノ通改正ス
 第五百七十條但書ヲ削ル
 第五百七十二條中「保證」ヲ「擔保」ニ「請求ノ拋棄」ニ基キテ爲ス判決」ヲ「請求ノ拋棄」ニ改ム
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

憲法中改正五法

長官人ノ署名ヲ得テ

大正十五年四月二十四日

閣中改正五法

大正十五年四月二十四日

閣中改正五法

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

閣中改正五法
大正十五年四月二十四日

刑

法

- ◆ 刑法……………一
- ◆ 刑法施行法……………二四
- ◆ 舊刑法……………三〇
- ◆ 決闘罪ニ關スル件……………三三
- ◆ 爆發物取締罰則……………三三
- ◆ 治安維持法……………三三
- ◆ 暴力行為等處罰ニ關スル法律……………三四
- ◆ 印紙犯罪處罰法……………三五
- ◆ 法人ノ役員處罰ニ關スル件……………三六
- ◆ 警察犯處罰令……………三六

第二十三章賭博及ヒ富籤ニ關スル罪……………一八

第三十四章定禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪……………一八

第三十五章瀆職ノ罪……………一八

第三十六章殺人ノ罪……………一九

第三十七章傷害ノ罪……………一九

第三十八章共過失傷害ノ罪……………一九

第三十九章墮胎ノ罪……………二〇

第四十章合遺棄ノ罪……………二〇

第四十一章逮捕及ヒ監禁ノ罪……………二〇

第四十二章脅迫及ヒ誘拐ノ罪……………二〇

第四十三章略取及ヒ誘拐ノ罪……………二〇

第四十四章出名譽ニ對スル罪……………二一

第四十五章信用及ヒ業務ニ對スル罪……………二一

第四十六章竊盜及ヒ強盜ノ罪……………二一

第四十七章詐欺及ヒ恐喝ノ罪……………二一

第四十八章横領ノ罪……………二二

第四十九章贓物ニ關スル罪……………二二

第五十章毀棄及ヒ隱匿ノ罪……………二二

○刑法施行法(明治四、三、二八日法二九號)……………二二

○刑法施行前本同法ニ效力ヲ有スル舊刑法ノ規定(刑)……………二二

法施行法第三十五條及第三十七條……………二二

舊刑法(明治三、布告三六號)……………二二

第二編(公益ニ關スル重罪輕罪)……………二二

第四章信用ヲ害スル罪……………二二

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪……………二二

第五章健康ヲ害スル罪……………二二

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪……………二二

○刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件……………二二

(明治四、九、二四號布告三六號)……………二二

○刑法施行後施行ノ命令ニ關スル件……………二二

○刑法施行後施行ノ命令ニ關スル件……………二二

○治安維持法(明治四、三、二二日法四六號)……………二二

○治安維持法(明治四、三、二二日法四六號)……………二二

○暴力行為等處罰ニ關スル法律……………二二

(大正一、五、四、〇日法(刑)一號)……………二二

○外國ニ於テ流通スル貨幣、紙幣、銀行券、證券、偽造、變造及模造ニ關スル件(明治三、三、二〇日法六六號)……………二二

○印紙犯罪處罰法……………二二

○法人ノ役員處罰ニ關スル件(大正四、六、二一日法一八號)……………二二

○警察犯處罰令(明治四、一、九、二九日內令一六號)……………二二

ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ其後...

第二十五條 左ニ記載シタル者...

第一前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者...

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫...

第三十七條 刑ノ執行猶豫ヲ取消シタルコトハ刑ノ言渡ハ其效力...

第三十二條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス...

一 死刑ハ三十年...

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年...

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年十三年...

四 罰金ハ三年...

第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ニ進行セス...

第三十四條 時効ハ刑ノ執行ヲ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス...

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為ハ...

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ己ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ之...

第三十七條 自己又ハ他人ノ生命ノ身體ノ自由若クハ財...

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀...

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消ス...

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ヒテ...

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行...

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行為ハ之ヲ罰セズ但法律...

第三十九條 心神喪失者ノ行為ハ之ヲ罰セズ...

第四十條 精神耗弱者ノ行為ハ之ヲ罰セズ...

第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行為ハ之ヲ罰セズ...

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル...

第四十三條 告訴ヲ待テ論ズ可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者...

第四十四條 未遂罪...

第六十條 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以
 上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス
 第六十一條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期
 二分ノ一ヲ減ス
 第六十二條 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減
 ス
 第六十三條 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減
 ス
 第六十四條 料料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減
 ス
 第六十五條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本
 條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定
 ヲ其刑ヲ減輕ス
 第六十六條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ
 滿タサル時間ヲ剩ス下キ六分ノ一除棄スルニ因リ一日ニ
 罰金又ハ料料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ
 剩ス下キ亦同シ
 第六十七條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ第六十八條及ヒ
 前條ノ例ニ依ルチハ之ヲ再行ス
 第六十八條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序
 一 再犯加重
 二 法律上ノ減輕

三 併合罪ヲ加重ス
 四 酌量減輕スルニ因リハ其刑期又ハ十年以上ノ懲
 罰第二編ノ罪ハ之ニ對シテハ其刑期又ハ十年以上ノ懲
 第六十九條 皇室ニ對シテ形罪ヲ犯スル者ハ其刑期
 第七十條 天皇、天皇太后、皇太后、皇后、皇太子又
 皇太孫ニ對シテ危害ヲ加ヘ文加ヘントシタル者ハ死
 刑トス
 第七十一條 天皇、天皇太后、皇太后、皇后、皇太子又
 皇太孫ニ對シテ不敬ノ行爲ヲ行ハタル者ハ三月以上五年
 以下ノ懲役トス
 第七十二條 皇宮又ハ皇陵ニ對シテ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ
 第七十三條 皇族ニ對シテ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑トス
 第七十四條 皇族ニ對シテ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以
 上四年以下ノ懲役トス
 第七十五條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ
 紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ
 罪トシテ左ノ區別ニ從テ處斷ス
 第七十六條 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮トス
 第七十七條 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無
 期禁錮トス
 第七十八條 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無
 期禁錮トス

三 附和隨行シ其他暴動ニ干與シタル者ハ二年
 以下ノ禁錮トス
 第七十九條 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者
 ハ此限ニ在ラス
 第八十條 內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以
 上十年以下ノ禁錮トス
 第八十一條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ
 前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮トス
 第八十二條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未ダ暴動ニ至ラサル
 前首シタル者ハ其刑ヲ免除ス
 第三章 外患ニ關スル罪
 第八十三條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シテ戰端ヲ開カシメ
 又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑トス
 第八十四條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル
 場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑トス
 第八十五條 兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者
 ハ死刑又ハ無期懲役トス
 第八十六條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、
 彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所
 又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシ
 メタル者ハ死刑又ハ無期懲役トス
 第八十七條 帝國ノ軍用ニ供セザル兵器、彈藥其他直接
 三戰團ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期

又ハ三年以上ノ懲役トス
 第八十八條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ
 幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ト
 ス
 第八十九條 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ
 第九十條 前二條ノ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國
 二軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シ
 タル者ハ二年以上ノ有期懲役トス
 第九十一條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第九十二條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪
 豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲
 役トス
 第九十三條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦
 之ヲ適用ス
 第四章 國交ニ關スル罪
 第九十四條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ
 暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役
 トス
 第九十五條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ
 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シテ侮辱ヲ加
 ヘタル者ハ三年以下ノ懲役トス但外國政府ノ請求ヲ
 待テ其罪ヲ論ス
 第九十六條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴
 行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役トス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘシ者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰闘ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪
第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効トラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽憑、變憑ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セ

第八章 騷擾ノ罪
第四百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及ブモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 放火及ヒ失火ノ罪
第四百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第四百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現

第六十條 逃走ノ罪
第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ヲ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ヲ處ス

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪
第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者犯人藏匿シ又ハ證憑湮滅セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セ

第一百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百十一條 第九九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第九十條又ハ第九九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百十二條 第九八條及ヒ第九九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百十三條 第九八條又ハ第九九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第一百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百五條 第九條第一項及ヒ第十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

第十六條 火ヲ失シテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第八條ニ記載シタル物ヲ燒燬シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第十七條 火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第八條ニ記載シタル物ヲ損壞シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

第十八條 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シテ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シテ重キニ從テ處斷ス

重キニ從テ處斷ス

第十章 盜水及ヒ水利ニ關スル罪

第十九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在ニ在ル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限リ前項ノ例ニ依ル

第二十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第八條ニ記載シタル物ヲ浸害シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

第二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ヲ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シテ重キニ從テ處斷ス

第二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第二十六條 人ノ現在ニ在ル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在ニ在ル艦船ヲ覆没又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シテ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第二十八條 第二百二十四條第一項、第二百五條及ヒ第二百六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰

金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章 住居ヲ侵スル罪

第三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章 秘密ヲ侵スル罪

第三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ祭祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

第三百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十八條 稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百零一條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第四百零二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百零三條 飲料水ニ關スル罪

第四百零四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百零五條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百零六條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百零七條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第四百零八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百零九條 飲料水ニ關スル罪

第四百一十條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百一十一條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百一十二條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

通貨偽造ノ罪

シメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第四百十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ汚染シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章 通貨偽造ノ罪

第四百十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同ノ懲役ニ處ス

第四百十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同ノ懲役ニ處ス

第四百二十條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同ノ懲役ニ處ス

第四百二十一條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

第四百二十二條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十三條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第四百二十四條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十五條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第三百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名
ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若ク
ハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名
ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若ク
ハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處
ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義
務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル
者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若ク
ハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又
ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ
禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使
シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛
偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第三百六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、
會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ

第三百六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名
ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル
印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ
第三百六十八條 第三百六十四條第二項、第三百六十五條第二
項、第三百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之
ヲ罰ス

第二十條 偽證ノ罪
第三百六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ
爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁
判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕
又ハ免除スルコトヲ得

第三百七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛
偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同
シ

第二十一條 誣告ノ罪
第三百七十二條 人ヲシテ刑事事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシム
ル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第三百六十九條
ノ例ニ同シ

第三百七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ
裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減
輕又ハ免除スルコトヲ得

刑法 罪 偽證ノ罪 誣告ノ罪 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者
亦同シ
第三百六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ
爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ
人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ
懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第十九章 印章偽造ノ罪
第三百六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ
偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御
璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第三百六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印
章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲
役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又
ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使
用シタル者亦同シ

第三百六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シ
タル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ
記號ヲ使用シタル者亦同シ
第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪
第三百七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處
ス

第三百七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ
販賣シ又ハ公然ノ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金
又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦
同シ

第三百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ
以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲
役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲
シタル者亦同シ

第三百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ
姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ
處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第三百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ
之ヲシテ心神喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ
猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同
シ

第三百七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第三百八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三百八十一條 第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ罪ヲ犯
シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲
役ニ處ス

第八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

第八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第八十六條 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第九十一條 第八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章 瀆職ノ罪

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十六章 殺人ノ罪

第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三

年以上ノ懲役ニ處ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條 第九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七章 傷害ノ罪

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ら人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生

セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非ス
ト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサル
トキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘
留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下
ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下
ノ罰金ニ處ス

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷
ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ
處ス

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ
以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎
セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷
ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑
託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月

以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル
トキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得スシ
テ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處
ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタ
ル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可
キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條 老幼、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可
キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ
爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタ
ル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月
以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタ
ル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對
シテ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以
下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ加
フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

第二百二十四條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ
對シテ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人
ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害
シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ加
フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシ
メ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

第二百二十五條 略取及ヒ誘拐ノ罪
第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取

又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者
若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百二十七條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目
的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ
隠避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受
シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助
スル目的ヲ以テ犯シタル者ハ同條ノ罪ニ對シテ罰及
ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ
出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又
ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ
取消ヲ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
 第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪
 第二百三十三條 虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ
 第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪
 第二百三十五條 他人ノ財産ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ
 第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス
 第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス
 第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

土ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス
 第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス
 第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス
 第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪
 第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシ

テ之ヲ得セシメタル者亦同シ
 第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ
 第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス
 第三十八章 横領ノ罪
 第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
 自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ
 第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領

シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
 第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス
 第三十九章 贓物ニ關スル罪
 第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス
 親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス
 第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪
 第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三年以上七年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷